

2022

履修ガイド

応用生命科学部

応用生命科学科
生命産業創造学科

信頼されるプロになる。



Niigata University of Pharmacy and Applied Life Sciences

新潟薬科大学

2022年度
新潟薬科大学応用生命科学部履修ガイド
応用生命科学科 生命産業創造学科

目 次

新潟薬科大学の理念	1
応用生命科学部の教育研究上の目的及び方針（ポリシー）	1
応用生命科学部学年暦	10

履修の手引

・ 履修	11
・ 授業	20
・ 食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程について	21
・ 教職課程について	24

応用生命科学科授業科目単位配分表

・ 応用生命科学科授業科目単位配分表	31
--------------------------	----

生命産業創造学科授業科目単位配分表

・ 生命産業創造学科授業科目単位配分表	51
---------------------------	----

資 料

・ 履修登録について	65
・ 教職課程について	69
・ シームレス教育プログラム	70
・ カリキュラムツリー	75
・ カリキュラムマップ	96

新潟薬科大学の理念

『生命の尊厳に基づき、薬学及び生命科学両分野を連携させた教育と研究を通して、人々の健康の増進、環境の保全、国際交流や地域社会の発展に貢献する高い専門性と豊かな人間性を有する有為な人材の育成とともに、社会の進歩と文化の高揚に有益な研究成果の創出を本学の理念とする。』

■2021年度以降の入学生

応用生命科学部の教育研究上の目的

応用生命科学部は、「実学一体」の精神のもと、生命科学を応用して社会の課題解決に貢献する人材を育成することを目的とする。

〈応用生命科学科〉

【教育研究上の目的】

応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。

食品科学コース：

1. プロフェッショナリズム

- ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、食品科学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
- ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
- ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
- ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。

2. コミュニケーション力

- ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。

3. 食品科学関連領域の知識・技能

- ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と食品科学における専門的知識・技能を修得する。

4. 問題発見・解決力

- ・科学的探究心を備え、食品科学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。

5. 地域貢献力

- ・食品科学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

バイオテクノロジーコース：

1. プロフェッショナリズム

- ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。
- ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
- ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
- ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。

2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. バイオテクノロジー関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能とバイオテクノロジーにおける専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、バイオテクノロジーを取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・バイオテクノロジー関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

生命環境化学コース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、生命化学及び環境化学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 生命環境化学関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と生命化学及び環境化学における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、生命化学・環境化学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・生命化学及び環境化学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

理科教職コース：

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、中等教育における理科教員としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 生命科学を中心とした理科の中等教育に関する知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と理科教育における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・理科教育を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・理科教育における諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の学校の発展に貢献できる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

応用生命科学科では、学修内容をもとに修学期間を1学年から2学年前期、2学年後期から3学年前期、3学年後期から4学年の3期に分け、各期において重視する目標を設定し、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、環境に関わる科学を応用して地域社会に貢献できる人材への成長を促すカリキュラム、並びに、生命科学を中心とした理科中等教育に造詣が深い教員へと成長を促すカリキュラムを編成する。

食品科学コース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考

力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「食品科学関連領域における知識・技能の修得」

食品科学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「食品科学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、食品科学関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

食品科学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

バイオテクノロジーコース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「バイオテクノロジー関連領域における知識・技能の修得」

バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、バイオテクノロジー関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

バイオテクノロジー関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

生命環境化学コース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「生命環境化学関連領域における知識・技能の修得」

生命環境化学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「生命環境化学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、生命環境化学関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

生命環境化学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス

評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

理科教職コース：

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「生命科学を中心とした理科中等教育に関する知識・技能の修得」

理科中等教育関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「理科中等教育関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、理科中等教育関連領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、教育実習と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命科学領域における基礎的な知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

理科中等教育関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、教育実習と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

〈生命産業創造学科〉

【教育研究上の目的】

生命産業創造学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、経済学及び経営学を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材を育成する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

食品、農業、環境及び健康等の産業において、経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。

1. プロフェッショナルリズム
 - ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、経済学・経営学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。
 - ・前例のない課題に対しても積極的に取り組む高いモチベーションをもつことができる。
 - ・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。
 - ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
2. コミュニケーション力
 - ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。
3. 経済学・経営学関連領域の知識・技能
 - ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学領域における幅広い知識・技能と経済学・経営学関連領域における専門的知識・技能を修得する。
4. 問題発見・解決力
 - ・科学的探究心を備え、経済学・経営学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。
5. 地域貢献力
 - ・経済学・経営学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

生命産業創造学科では、学修内容をもとに修学期間を1学年から2学年前期、2学年後期から3学年前期、3学年後期から4学年の3期に分け、各期において重視する目標を設定し、生命科学に関わる産業において経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材への成長を促すカリキュラムを編成する。

第1期で重視する目標：「汎用的能力の涵養」

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命に関わる産業の基盤となる知識・技能、論理的思考力、豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業を通してこれらの能力の修得を図る。また、地域貢献力を涵養するための礎となる社会連携教育を取り入れた科目を配置し、実習形式の授業を通して地域貢献力の基礎を醸成する。

第2期で重視する目標：「経済学・経営学関連領域における知識・技能の修得」

経済学・経営学関連領域における専門知識・技能、論理的思考力、情報収集力と客観的・数量的分析力を涵養するための科目群を配置し、講義・演習・実習形式の授業のみならずPBL（problem-based learning）やアクティブラーニングを取り入れた授業を通してこれらの能力の修得を図る。

第3期で重視する目標：「経済学・経営学関連領域における専門知識・技能の統合と実践的問題解決」

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、経済学及び経営学領域におけるより高度な専門知識・技能を駆使して実践的に問題を解決する能力を涵養するために、社会連携教育と卒業研究を配置し、これらの能力とともに他者と協調・協働的に課題を解決する能力の修得を図る。さらに、これらの総合的実践力育成過程において、自己を評価・省察し、自らを高める意志を醸成する。

【各期の評価】

第1期

人文・社会・自然科学及び外国語に関する知識、生命に関わる産業の基盤となる知識・技能については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力、地域貢献力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第1期の学修成果の測定は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第2期

経済学・経営学関連領域における専門知識・技能、情報収集力、客観的・数量的分析力については、客観試験や論述試験、レポート、観察記録などの各種試験を用いて習得の度合いを測定する。論理的思考力、倫理観、実践的コミュニケーション力については、ルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により修得の度合いを確認するとともに自己省察を組み合わせ、能力の定着を図る。第2期の学修成果の測定は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの資質・能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

第3期

客観的・数量的分析から社会が抱える問題を発見する能力、創造的思考力、実践的問題解決力、他者と協調・協働的に課題を解決する能力は、社会連携教育と卒業研究におけるルーブリック等を用いたパフォーマンス評価により学修成果を測定する。さらに、自己評価と省察、ポートフォリオを活用して、自らを高める意志を確認する。第3期の学修成果の測定、すなわち、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した5つの資質・能力の修得に関する達成度の評価は、能力別にポートフォリオ等を用いたパフォーマンス評価により行う。

■2020年度までの入学生

応用生命科学部の教育研究上の目的及び方針（ポリシー）

【教育研究上の目的】

応用生命科学部は、食品、環境、健康などの分野において、生命科学を基盤とした教育研究活動を推進し、当該分野の基本的知識及び専門的知識を備え、国際的、地域的な課題解決に向けた応用力を発揮する有為な人材を育成することを目的とする。

- (1) 応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者等の専門人材を育成する。
- (2) 生命産業創造学科は、食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

応用生命科学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 生命を尊重する心、他人を思いやる心などの豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
- (2) バイオ工学・環境科学・食品科学を包括する生命科学分野、理科教育分野の抱える課題を探究し解決するために、高度な知識・技能を備え、それらを応用できる能力を有する。
- (3) 数量的スキル及び情報リテラシーを身に付け、各種情報あを収集、分析して適正に判断し、活用できる能力を有する。
- (4) 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、理解を得るための優れたプレゼンテーションができる能力を有する。
- (5) 地域的視点と国際的視野を持ち、学修経験を総合的に活用することで、地域及び国際社会の諸問題の本質を見極めながら課題を探究する能力と課題を解決する能力を有する。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学、食品科学及び理科教育に関わる現象の本質を探究し、その成果を広く社会の課題に適用して解決を図ることができる専門人材を育成することを目的に教育を行う。

- (1) 地域的視点と国際的視野を持ち、豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、教養科目として、語学系、自然科学系、社会・人文科学系、キャリア系の科目を配置する。
- (2) 情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に理解する能力を養うための科目を配置する。
- (3) 生命科学及び理科教育分野の高度な基礎理論から専門的知識・技能、さらには応用技術まで幅広く理解するための専門科目（バイオ工学、環境科学、食品科学、理科教育系）を配置する。
- (4) 座学のみならずICT*を活用した反転授業や実験講義、SGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
- (5) 事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実験・実習、演習科目等を配置する。
- (6) 1年次から、教育実習や地域社会におけるボランティア活動等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会性を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。
- (7) 修得した知識を総合的に活用し、課題を自ら模索し探究する過程を経て、継続的に課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。

教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。

* ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

** SGD：Small Group Discussion の略。小グループ討議

応用生命科学部の教育研究上の目的及び方針（ポリシー）

【教育研究上の目的】

応用生命科学部は、食品、環境、健康などの分野において、生命科学を基盤とした教育研究活動を推進し、当該分野の基本的知識及び専門的知識を備え、国際的、地域的な課題解決に向けた応用力を発揮する有為な人材を育成することを目的とする。

- (1) 応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者等の専門人材を育成する。
- (2) 生命産業創造学科は、食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

生命産業創造学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 生命を尊重する心、他人を思いやる心を持つ豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共感の累積をめざすコミュニケーション能力を有する。
- (2) 生命・食料・農業・環境に関わる産業領域の課題に取り組む、基盤となる幅広い知識と教養を備え、柔軟な思考力を有する。
- (3) 農林水産業及び食品・環境・生命産業の事業の経営課題に取り組むための広い視野と積極的な意欲を持てる能力を有する。
- (4) ICT*を用いて情報を収集・分析し、適正に判断して活用できる能力を有する。
- (5) 修得した科学的知識や洞察力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、プレゼンテーションできる能力を有する。
- (6) 地域社会と国際社会の変化に注視し、広い視野を持って積極的に活躍しようとする意欲を持続できる能力を有する。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

生命産業創造学科は、食品・農環境等の生命現象に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野に経済学及び経営学を駆使することで、企画・開発・経営・販売に関する知識や能力に優れた専門人材を育成することを目的に教育を行う。

- (1) 豊かな人間性と倫理観を育み、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付けるため、自然科学分野と社会・人文科学分野の文理融合型の科目を配置する。
- (2) 1年次では、主に幅広い教養と語学力を養うための科目を配置し、2年次では専門領域への基礎的な科目を配置する。3年次では専門領域の科目を重点的に配置するとともに、研究室（ゼミ）に配属して教員とのコミュニケーションを密接にし、修得した知識を総合的に活用して自ら課題を解決できる能力を培うための科目「卒業研究」を配置する。
- (3) 情報活用力を育成する情報リテラシーに関する科目、及び数量的指標を用いて科学的に理解する能力を養うための科目を配置する。
- (4) 座学のみならずICT*を活用した反転授業やSGD**、討論等の授業形態をとり、主体的・対話的に学ぶ学習を進める。
- (5) 事象や物質の本質を洞察し論理的に考察して表現する能力を身に付けるために、実習、演習科目等を配置する。
- (6) 地域社会におけるボランティア活動や現場調査等を授業として取り上げ、実践的な学習を通して社会観を身に付け、学生自ら対人力及び課題解決能力を涵養することができる教育を進める。

教育成果の実証的な把握・評価に努め、アドミッション・ポリシーに基づき受け入れた入学者がディプロマ・ポリシーを達成するために、より効果的な教育を行えるようカリキュラムの改善を行う。

* ICT：Information and Communication Technology の略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術

** SGD：Small Group Discussion の略。小グループ討議

2022年度 応用生命科学部学年暦

#：行事日、◎：定期試験、○：追再試験、―：振替授業日、♪：集中講義、＊：祝日、○内の数字：学年、★：履修登録関係、●：卒業論文審査関係日程

【前期】

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定
4月						#1	2	1-7:オリエンテーション、健康診断 5:入学式 8:前期授業開始 8-14:前期科目履修登録 9:新入生歓迎会 21-25:前期科目履修登録取消期間 29:昭和の日
	3	#4	#5	#6	#7	★8	#9	
	10	★11	★12	★13	★14		15	
	17	18	19	20	★21	★22	23	
	24	★25	26	27	28	*29	30	
5月	1	2 火	*3	*4	*5	6	7	2(月):火曜授業 3:憲法記念日 4:みどりの日 5:こどもの日
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
6月				1	2	3	4	14:開学記念日 17:②コース配属説明会
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	#14	15	16	#17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30			
7月						1	2	8:③オープンラボ 13-15:夏期集中講義科目履修登録 18:海の日 29(金):月曜授業、前期授業終了
	3	4	5	6	7	#8	9	
	10	11	12	★13	★14	★15	16	
	17	*18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29 月	30	
8月		1	◎2	◎3	◎4	◎5	6	1:補講日 2-9:前期定期試験 10-17:大学夏季休業 11:山の日 18-31:(履修者のみ)夏期集中講義 25:前期定期試験成績配付日
	7	◎8	◎9	10	*11	12	13	
	14	15	16	17	♪18	♪19	20	
	21	♪22	♪23	♪24	#25	♪26	27	
	28	♪29	♪30	♪31				
9月					○1	○2	3	1-7:前期追・再試験 12:後期授業開始 12-16:後期科目履修登録 19:敬老の日 20(火):月曜授業 23:秋分の日 28-30:後期科目履修登録取消期間
	4	○5	○6	○7	8	9	10	
	11	★12	★13	★14	★15	★16	17	
	18	*19	20 月	21	22	*23	24	
	25	26	27	★28	★29	★30		

【後期】

	日	月	火	水	木	金	土	行 事 予 定
10月							#1	1:総合型選抜試験(前期) 3:防災訓練 4(火):金曜授業 7:午前補講、午後休講 8-9:新築祭 10:スポーツの日
	2	#3	4 金	5	6	7	#8	
	#9	*10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
11月			1	2	*3	4	5	3:文化の日 12:学校推薦型選抜試験、特別選抜試験(外国人留学生・社会人) 23:勤労感謝の日
	6	7	8	9	10	11	#12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	*23	24	25	26	
	27	28	29	30				
12月					1	2	3	22:総合型選抜試験(中期)、学校推薦型選抜試験(指定校制2期) 23:12月授業終了 24-1/4:大学年末年始休業
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	#22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
1月	1	2	3	4	5	6	7	1:元日 5-6:補講日 9:成人の日 10:1月授業再開、④卒業論文要旨提出期限 13:休講 14-15:大学入学共通テスト 18(水):金曜授業、後期授業終了 19:補講日 20-27:後期定期試験
	8	*9	●10	11	12	13	#14	
	#15	16	17	18 金	19	◎20	21	
	22	◎23	◎24	◎25	◎26	◎27	28	
	29	30	31					
2月				1	#2	#3	4	2-3:一般選抜試験(1期) 6:後期定期試験成績配付日、編入学試験 11:建国記念の日 13:④卒業論文審査申請期限 13-20:後期追・再試験 17:一般選抜試験(2期) 20-24:④卒業論文口頭発表会 23:天皇誕生日 27-28:④卒業論文口頭発表会(予備日)
	5	#6	7	8	9	10	*11	
	12	●13	○14	○15	○16	#17	18	
	19	○20	●21	●22	*23	●24	25	
	26	●27	●28					
3月				1	2	3	4	8:一般選抜試験(3期) 9:総合型選抜試験(後期) 10:④卒業論文最終稿提出期限 13:転学部試験、転学科試験 21:卒業式、春分の日 3月:豪州・大学研修事業(予定)
	5	6	7	#8	#9	●10	11	
	12	#13	14	15	16	17	18	
	19	20	*21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

履 修 の 手 引

修学指導について

大学は、本来自ら求めて学ぶ場です。第1学年から第4学年の間に何を学ぶかを考えて履修計画を立てることが大切です。本学部は個性を育成することに力を入れており、多くの選択科目が用意されています。科目の選択にあたっては各自の個性を伸ばせるようアドバイザーによる助言も受けられるようになっています。その他、修学に関する諸問題について、授業科目担当者のオフィスアワーやアドバイザーによる面談制度がありますので、大いに活用することを推奨します。

学年と学期

応用生命科学部では、1学年を前期（4月～9月）、後期（10月～3月）に分ける学期区分に加え、第1学年から第4学年にわたる8つの学期を、第1学期、第2学期、第3学期……第8学期と表します（学則第15条、学則第16条、履修規程第2条）。

修業年限及び在学年限

応用生命科学部の修業年限は4年です（学則第18条）。8年を超えて在学することはできません（学則第19条）。8年間在籍しても卒業の要件を満たさないときには除籍されます（学則第54条第1項）。この在籍年数には休学期間は算入されません（学則第47条第3項）。

教育課程

【応用生命科学科】

応用生命科学部応用生命科学科の教育課程は、学部の教育目的を達成するために開設された授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に区分し、年次推移に合わせて配当して編成されています。

必修科目は卒業までに必ず履修し、修得しなければならない科目です。**選択科目**は各自の目的と興味などに合わせて履修できる科目で、所定単位数を卒業までに取得しなければいけません。また、**自由科目**は修得しても卒業要件単位数に算入されませんが、教員免許など特定の資格取得のために必要な科目として開設されています。

【生命産業創造学科】

応用生命科学部生命産業創造学科の教育課程は、学部の教育目的を達成するために開設された授業科

目を必修科目及び選択科目に区分し、年次推移に合わせて配当して編成されています。

必修科目は卒業までに必ず履修し、修得しなければならない科目です。**選択科目**は各自の目的と興味などに合わせて履修できる科目で、所定単位数を卒業までに取得しなければいけません。

単位の取得

単位は修学の量を示す基準となるものです。授業科目を所定の時間履修して試験に合格するとその授業科目に配当されている単位を取得できますが、その単位数は修学の量を表します。次学年への進級にはそれぞれ所定の修学量を必要とし、応用生命科学部では124単位以上の修学量で卒業要件の一つが充足されます。

履修方法

大学4年間で何を学び、卒業後それをどう生かすのか、各自の適性や希望する進路を十分考えて履修計画を立てることが大切です。多くの授業科目の中から自分の興味を満たすとともに、幅広い教養とバランス感覚を培うような授業科目の修得が期待されます。選択科目は将来進みたい分野を考えて履修するといいいでしょう。また、授業科目は配当された学年に達しないと受講できないことになっています。

- (1) 在籍学年及びそれより低学年に配当されている必修科目はすべて履修しなければいけません。
- (2) 選択科目は各自の興味や目的に応じて選択履修します。卒業までに修得しなければならない科目を考えて、その基礎となる授業科目を選択履修しておくことも有効です。
- (3) 卒業必要単位数は最低限の条件です。選択科目は余裕をもって少し多めに履修しておくことを勧めます。

履修に関する相談は事務部教務課で受け付けています。少しでもわからないことがあれば教務課に問い合わせてください。

履修登録

授業時間割表の中から履修を希望する授業科目を予め届け出て許可を得る手続きを履修登録といいます。以下、特別なケースについて説明します。

- (1) 必修科目を再履修する場合の履修登録
 - ・配当された学年で不合格となり単位を取得でき

なかった等のため、改めて履修を希望する場合は、必修科目であっても履修登録しなければなりません。

(2) 選択科目の履修登録

- ・在籍学年及びそれより低学年に配当された選択科目について、希望に応じて期限までに履修登録を行ってください。
- ・講義室の収容人員を超えて履修希望が出された場合、履修登録できない場合があります。
- ・一度受理された履修登録は、原則としてその学期には変更できないものとします。

履修登録は原則として学期の初めに、期限を示して行うので、Portal NUPALS を常に注意して見てください。なお、履修登録が必要な科目にも関わらず、履修登録をしないで授業に出席しても単位は認定されませんので、気をつけてください。

試験

単位認定のために行う試験は定期試験、追試験、再試験及びその他の試験の4種類があります（履修規程第4条）。

- (1) **定期試験**：学期末に成績評価のために行う試験です。学年暦で予め設定された期間に実施されます。授業時間の3分の2以上出席していることが受験資格です。ただし、定められた期限までに所定の学費を納入していない場合は、受験資格を与えません。
- (2) **追試験**：天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者に対して実施する試験です。所定の期日までに事由を証明する書類を添えて申請する必要がある、その上で科目担当者が適当と認めたときに実施されます。最高点は90点とします。
- (3) **再試験**：科目担当者が必要と認めたときに、定期試験不合格者に対して実施される試験です。最高点は60点とします。
- (4) **その他の試験**：科目担当者が科目指導や成績評価のために必要と認めたときに実施されることがあります。

定期試験等を欠席した場合は、当該試験日から1週間以内に試験欠席届を提出しなければなりません。

追試験及び再試験を受験するには、所定の期日までに手数料（追試験1,000円、再試験2,000円）を添えて、受験届けを提出しなければなりません。

試験の実施計画など試験に必要な事項はすべてPortal NUPALS で通知します。また、受験の際の

注意事項を別途指示するのでそれに従ってください。いずれにしても日頃からしっかり勉強しておくことが肝要で、一夜漬けの試験勉強では本当の実力は養われません。

受験上の遵守事項

受験に際しては次の事項を十分留意の上、受験しなければなりません（新潟薬科大学応用生命科学部受験心得）。

- (1) 試験開始時刻までに指定された席に着席すること。ただし、遅刻者については試験開始時刻から30分以内に着席すれば受験を認める。
- (2) 試験中は、筆記用具以外の携帯品は試験監督者が指示する場所に置くこと。
- (3) 学生証を机上に置くこと。学生証又は仮学生証のない学生は受験できない。学生証を忘れた者は試験開始前に仮学生証の交付を受けること。有効期限は1日で、再交付はしない。
- (4) 試験開始時刻から30分間及び終了時刻前の5分間は退席しないこと。
- (5) 前第1号から第4号にかかわらず、特別に定める事項がある場合には、それに従うこと。
- (6) その他試験場内においては試験監督者の指示に従うこと。
- (7) 試験中に不正とみなされる行為（以下「不正行為等」という。）をしないこと。

試験における不正行為等とは、以下の号に該当する行為をいいます。

- (1) 机上や見える位置に事前書き込みをする、又はそれに類する物品を故意に配置し、それを閲覧する。
- (2) 許可されていない物品を机上に置く、身につける又は使用する。
- (3) 解答開始の指示の前に、問題を閲覧する又は解答を始める。
- (4) 他人の学生証を提示する又は他人の氏名を解答用紙に記入する。
- (5) 他の受験者と会話する又は解答を教える。
- (6) 他の受験者の解答用紙等を見る又は解答を教わる。
- (7) 解答用紙を提出する前に、問題用紙を場外へと持ち出す。
- (8) 解答用紙を試験監督者に提出せずに、場外へと持ち出す。
- (9) 解答終了の指示があつたにもかかわらず、解答

を続ける。

- (10) 試験監督者等の制止にかかわらず、他人への迷惑行為を続ける。
- (11) その他、公正な試験の実施を阻害すると認められる行為をする。

不正行為等があった場合、その試験が実施された学期中の全ての科目について零点扱いとなり、当該学期中の追試験及び再試験の受験資格もなくなります。

学 業 成 績

学業成績の評価は平素の勉強状況、定期試験などの試験成績、レポート評価、プレゼンテーション能力評価などを総合して行います。それぞれの評価への重さはその授業科目によって異なりますので、シラバスの成績評価方法を確認してください。

成績評価は、秀、優、良、可、不可の5段階で表し、秀、優、良及び可が**合格**（単位取得認定）で、不可は**不合格**（単位取得不認定）です（学則第39条）。試験成績は一般的に100点満点で評価されますが、90点以上100点までを秀、80点以上90点未満を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可、60点未満を不可とします（履修規程第6条第1項）。

なお、成績通知書に「否」と表示されている場合は出席数不足等によって評価されないの、再履修することが必要になります。また、試験を欠席した場合は「欠」と表示されます。いずれも単位は認定されません。

進級判定とコース配属・研究室配属

各学年で所定の単位を取得することにより、次学年に進級できます（履修規程第8条、別表第2）。所定の単位を取得できなかった場合は、同一学年に在籍することとなり、これを留年と言います。

【応用生命科学科】

- (1) コース配属：第2学年に進級した学生は第4学期からバイオ工学コース、環境科学コース、食品科学コース及び理科教職コース（※）のいずれかに配属されます。各コースへの配属は本人の希望申請と第3学期までの成績を主たる基準として教授会で決定されます（履修規程第10条）。
※2021年度以降の入学生は、食品科学コース、バイオテクノロジーコース、生命環境化学コース、理科教職コースになります。
- (2) 卒業研究室配属：第3学年に進級した学生は第6学期から各研究室に配属され卒業研究を行います。

す。卒業研究室への配属は本人の希望申請と第5学期までの成績を主たる基準として教授会で決定されます（履修規程第11条）。

【生命産業創造学科】

卒業研究室配属：第3学年に進級した学生は第6学期から各研究室に配属され卒業研究を行います（履修規程第10条）。

前年度までの未修得科目の履修方法

その学年で最終的に不合格と評価された授業科目の単位を取得するには、次の学年以降に**再履修**（再度出席して授業を受けること）し、定期試験等で合格しなければいけません（履修規程第7条第1項）。

授業科目を再履修するときは、必修科目、選択科目、自由科目いずれであっても履修登録が必要です。

また、進級できなかった者は、必ず在籍学年の授業科目を優先して履修しなければいけません（履修規程第9条第1項）。

進級した者について、前年度までの**未修得必修科目**（再履修科目）と**在籍学年の必修科目**が時間割で重複したときに、再履修科目について前年度の出席が3分の2を超えている場合で科目担当教員が適当と認めたときに限り、出席を科目担当教員の指示する別の方法に代えることができます（履修規程第7条第2項）。

留年した学年における授業科目の履修方法

進級できなかった者は、在籍学年に配当されている必修科目を優先して再履修しなければなりません。その上で、時間割が重複しない場合に限り、次学年の授業科目を履修することができます（ただし、応用生命科学科の場合、コース別実験を除く）。この場合どの授業科目についても履修登録が必要です（履修規程第9条第2項）。

卒 業 研 究

【応用生命科学科】

第6学期から第8学期にかけて卒業研究を履修します。

卒業研究は、大学（学部）教育の総まとめとも言える総合科目で、これまでに各教科目で修得してきた知識、技術を総合的、発展的に駆使して未知の研究課題を設定し研究を行うものです。ここでは、問題解決能力及び問題提起能力を養うことが期待されます。その成果が合格と判定されれば所定の単位が認定されます。

卒業研究について十分に理解し、意欲的に取り組

むことを期待します。

(1) 研究室配属

自分が最も興味を持った分野の研究を行っている研究室を選ぶことが大切です。その研究室配属には、早期研究室配属と研究室一般配属の2つの方法があります。早期研究室配属は、優秀な学業を修め、新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科博士前期課程に入学を志望している学生に対して面接を実施し、配属先研究室を5月の教授会において決定後、各研究室に配属する方法で、定員は若干名です。研究室一般配属は、第5学期中に各研究室の配属定員が発表され、その後希望研究室を申請し、9月の教授会において決定後、各研究室に配属する方法です。しかし、その研究室への配属を希望する学生の数配属定員数を超過した場合には、第5学期までの成績等を判定基準にし、調整されます。

(2) 卒業研究の意義

学生は特定の研究室に配属され、その研究室の教員との話し合いに基づき特定の研究テーマを設定し研究を行うことになります。

研究は、これまでの講義や実験と異なり、未知の事象の解明や創造を行う活動であるので、程度の差こそあれ困難を伴い、所期の成果が容易には得られないと思われますが、良い成果が得られたときには何物にも代え難い大きな感動や喜びが得られることでしょう。このような体験は、諸君の自信につながり、また、将来、様々な難局に直面した際にそれらを乗り越える勇気と、難問を解決する能力を諸君に与えてくれるものと考えます。

さらに、研究室で教員、大学院生あるいは同級生と研究上の議論を行うことは勿論ですが、同時にそれらの研究室員と日常的に接する中で、研究以外の人間的な触れ合い、物の見方、考え方を学ぶ絶好のチャンスにもなります。

(3) 卒業研究への事前の準備

卒業研究を実り多いものにするために、貴重な時間を未修得科目の履修に費やすようなことにならないように、前年度までの未修得科目をできる限り少なくしておくこと、また、単に試験のための勉強に止まらず自分の興味ある分野について、自ら積極的に調査学習して関連する知識をさらに深めておくこと、さらに、研究室選びの指針を得るために各研究室がどのような研究を行っているか事前に調査しておくことが望まれます。

7月に3年生向けの研究室紹介を実施しますの

で研究室選びの参考にしてください。

(4) 卒業論文と卒業論文口頭発表会

第8学期の2月に、これまでの卒業研究の成果を卒業論文としてまとめ、論文審査を申請します。また、申請者全員が論文の口頭発表を行わなければなりません。この口頭発表会は学内公開で開催され、会期中に研究室単位で発表します。

提出された卒業論文及び口頭発表の内容を、研究室の主任教員と所属研究室以外の教員が審査し、卒業研究の成績評価がなされます。なお、卒業論文最終稿の提出が義務付けられています。

【生命産業創造学科】

第6学期から第8学期にかけて卒業研究を履修します。

卒業研究は、大学（学部）教育の総まとめとも言える総合科目で、これまでに各教科目で修得してきた知識、経験、方法を発展させる研究課題を設定し、問題解決能力及び問題提起能力を養うことを目的としています。その成果を卒業論文としてまとめ、合格と判定されれば所定の単位が認定されます。

卒業研究課題を十分に理解し、意欲的に取り組むことを期待します。

(1) 卒業研究の意義

学生は特定の研究室に配属され、その研究室の教員との話し合いに基づき特定の研究課題を設定し研究を行うことになります。

研究は、これまでの講義やフィールドワークに基づいて創造を目指す活動です。これらの活動をとおして大きな感動や喜びが得られ、諸君の自信につながり、また、将来、様々な難局に直面した際にそれらを乗り越える勇気と、難問を解決する能力を諸君に与えてくれるものと考えます。

さらに、研究室で教員や同級生と日常的に接する中で、研究以外の人間的な触れ合い、物の見方考え方を学ぶ絶好のチャンスにもなります。

(2) 卒業論文の提出と審査

第8学期の2月に、これまでの卒業研究の成果を卒業論文としてまとめ、論文審査を申請します。また、申請者全員が論文の口頭発表を行わなければなりません。この口頭発表会は学内公開で開催され、会期中に研究室単位で発表します。

提出された卒業論文及び口頭発表の内容を、研究室の主任教員と所属研究室以外の教員が審査し、卒業研究の成績評価がなされます。

卒業の要件

【応用生命科学科】

＜令和3年度以降の入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上（必修科目13科目、選択科目13単位以上）、共通専門科目34単位、コース別専門科目64単位以上（必修科目27単位、選択科目37単位以上）、合計124単位以上（必修科目74単位、選択科目50単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の1付表2）。

＜平成29年度から令和2年度までの入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上（必修科目12科目、選択科目14単位以上）、共通専門科目47単位、コース別専門科目51単位以上（必修科目30単位、選択科目21単位以上）、合計124単位以上（必修科目89単位、選択科目35単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の2付表2、別表第2の3付表2）。

＜平成28年度以前の入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上（必修科目11科目、選択科目15単位以上）、共通専門科目51単位、コース別専門科目47単位以上（必修科目30単位、選択科目17単位以上）、合計124単位以上（必修科目92単位、選択科目32単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の4付表2、別表第2の5付表2）。

【生命産業創造学科】

＜令和4年度以降の入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目26単位以上（必修科目14単位、選択科目12単位以上）、専門科目98単位以上（必修科目50単位、選択科目48単位以上）、合計124単位以上（必修科目64単位、選択科目60単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の1付表2）。

＜令和3年度以降の入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目24単位以上（必修科目11単位、選択科目13単位以上）、専門科目100単位以上（必修科目54単位、選択科目46単位以上）、合計124単位以上（必修科目65単位、選択科目59単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の2付表2）。

＜平成31年度から令和2年度までの入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目24単位以上（必修科目10単位、選択科目14単位以上）、専門科目100単位以上（必修科目56単位、選択科目44単位以上）、

合計124単位以上（必修科目66単位、選択科目58単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の3付表2）。

＜平成30年度以前の入学生の場合＞

4年以上在籍修学し、教養科目21単位以上（必修科目11単位、選択科目10単位以上）、専門科目103単位以上（必修科目64単位、選択科目39単位以上）、合計124単位以上（必修科目75単位、選択科目49単位以上）を取得すれば卒業が認められます（履修規程別表第2の4付表2）。

応用生命科学部特待生

一年間を通じ優秀な学業を修めた学生（応用生命科学科学年上位10名以内、生命産業創造学科学年上位5名以内）に対し、応用生命科学部長が表彰し、翌年度の授業料の一部を免除する制度です。在学中の学業を奨励するとともに学修意欲の高揚を図ることを目的としています。

GPA制度とCAP制（平成27年度1年次生より適用）

学生が授業科目を履修するにあたっては、グレード・ポイント・アベレージ（成績平均値＝GPA）制度に基づく履修登録単位数の上限設定（CAP制）により行うこととしています。

（GPA制度）

GPA制度は、透明性の高い成績管理と履修指導、学生の責任のある履修行為の促進、学習意欲の向上を目的とし、次のとおり取り扱います。

- (1) 各授業科目の成績評価に基づき、次の表のとおりグレード・ポイント（以下「GP」という。）を付します。

区分	評価	評点	GP	評価基準
合 格	S（秀）	90点以上	4.0	授業科目の到達目標を十分達成し、特に優れている
	A（優）	80点以上 90点未満	3.0	授業科目の到達目標を十分達成し、優れている
	B（良）	70点以上 80点未満	2.0	授業科目の到達目標を達成している
	C（可）	60点以上 70点未満	1.0	授業科目の到達目標を最低限達成している
不合格	D（不可）	60点未満	0.0	授業科目の到達目標を達成していない
	X（追欠）	欠		天災、疾病などやむを得ない事情により定期試験欠席
	Y（再欠）			定期試験を欠席
	Z（否）	否		出席回数不足により定期試験受験資格なし
認 定	E（認）	単位認定科目	GP対象外	転学部などにより他学部等で修得した科目を本学部の単位として認定

- (2) GPAは、履修した授業科目の単位数にGPを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出します。具体的な算出方法は次のとおりです。

GPAの算出方法

$$\frac{\text{秀の単位数} \times 4.0 + \text{優の単位数} \times 3.0 + \text{良の単位数} \times 2.0 + \text{可の単位数} \times 1.0}{\text{総履修登録単位数}}$$

- (3) GPAは小数第2位を四捨五入し、小数点第1位までの数値とします。
- (4) 不合格科目（D 評価）を再履修した場合、再履修後の評価をGPA 算定の基礎とします。
- (5) GPAの対象科目は、当該年度において履修登録したすべての授業科目とします。ただし、次に掲げる科目は、当該年度のGPAの対象科目から除きます。
- ・履修登録取消期間に、履修取消申請書により申請があった科目
 - ・履修取消期間を経過した後、休学、病気欠席等のやむを得ない事由で、学生から履修取消申請書により申請があった科目で、応用生命科学部教務委員会が許可した科目

(CAP 制)

CAP 制は、単位制度を実質化（1 単位当たり必要な45時間の学修時間を確保）し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、各年度の履修登録単位数の上限を設けるものです。

各年度の履修登録単位数の上限は、令和2年度以降の入学生は49単位、平成31年度までの入学生は、応用生命科学科49単位、生命産業創造学科48単位としますが、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、先述のGPAに基づき単位数の上限を別途定めて履修登録を認める場合があります。直前年度のGPAごとの履修登録単位数の上限設定については、次のとおり取り扱います。

【平成31年度までの入学生】

(応用生命科学科)

直前の年のGPA が3.0以上の者 59単位
直前の年のGPA が2.5以上3.0未満の者 57単位
直前の年のGPA が1.5以上2.5未満の者 53単位
直前の年のGPA が1.5未満の者 49単位

(生命産業創造学科)

直前の年のGPA が3.0以上の者 58単位

直前の年のGPA が2.5以上3.0未満の者 56単位
直前の年のGPA が1.5以上2.5未満の者 52単位
直前の年のGPA が1.5未満の者 48単位

【令和2年度以降の入学生】

直前の年のGPA が3.0以上の者 49単位
直前の年のGPA が1.5以上3.0未満の者 48単位
直前の年のGPA が1.5未満の者 47単位

なお、CAP 制には次の授業科目は含めません。

【平成31年度までの入学生】

- ・履修登録を取り消した科目
- ・夏期集中講義科目
- ・卒業要件単位に算入しない自由科目
- ・卒業研究

【令和2年度以降の入学生】

- ・履修登録を取り消した科目
- ・夏期集中講義科目

GPA 制度、CAP 制に関する相談は事務部教務課で受け付けていますので不明な点は問い合わせてください。

成績評価に対する異議申し立て制度

成績評価に対する異議申し立て制度は、成績評価の客観性及び厳格性を確保するため、設けられました。自身の成績評価に疑義がある場合は、以下の手順に従って、確認、異議申立を行うことができます。

- 1 異議申し立ての対象となるもの
- (1) 成績の誤記入等、科目担当教員の誤りであると思われる。
- (2) シラバス等により周知されている成績評価の方法及び基準に照らして、疑義がある。
- (3) その他（具体的な理由がある）

※以下のような理由は受け付けられません。

×科目担当教員に救済措置を求める嘆願。

（この単位がないと進級（卒業）できません。なんとかしてください。）

×他の学生との対比上の不満を訴えるもの。

（友人は60点だが、なぜ自分は58点なのか。）

×具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。

（自分なりにがんばったと思うのだが、なぜ30点なのか。）

2 異議申し立ての流れ

※フロー図も参照してください。

(1) 成績評価に対する確認

成績開示日を含め、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、「成績評価確認願」を科目担当教員に直接提出してください。また、記入後にコピーを取り、科目担当教員に原本を提出後、コピーを事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

非常勤講師担当科目、または、専任教員でも出張等で不在の場合は事務部教務課で受け付けます。

※メールや郵送では受付できません。必ず指定の様式で直接提出してください。

(2) 確認に対する回答

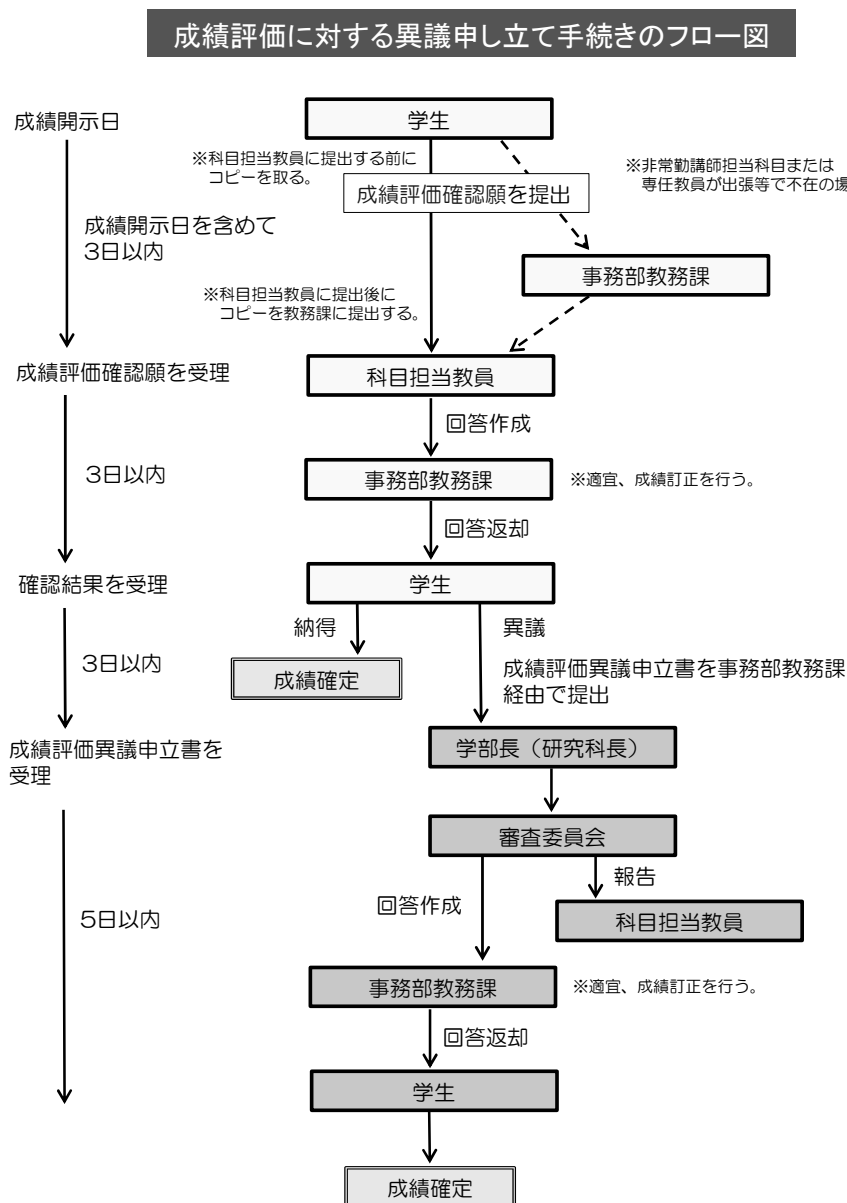
「成績評価確認願」受理後、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、科目担当教員からの回答を事務部教務課から返却します。返却時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

(3) 成績評価に対する異議申し立て

確認結果に対して異議がある場合は、成績評価確認に対する回答受理後、3日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、「成績評価異議申立書」を事務部教務課に直接提出してください。

提出受付時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

※メールや郵送では受付できません。必ず指定の様式で直接提出してください。



(4) 成績評価に対する異議申し立てへの回答

審査委員会で検討を行い、「成績評価異議申立書」受理後5日以内（土日祝日、大学休業日を除く）に、事務部教務課から返却します。

返却時に本人確認を行いますので、学生証を持参してください。

3 その他

- (1) 「成績評価確認願」「成績評価異議申立書」の提出にあたり、事実の誤認がないか、自身の課題提出状況や出席状況、科目担当教員からの指示内容を再確認し、確認や異議申し立ての対象となる理由に該当する場合のみ提出してください。理由・根拠が不十分であるもの、虚偽の理由では受理できません。これらの書類は、科目担当以外の教員も確認しますので、誰が読んでも内容が理解できるように記入してください。
- (2) 成績開示時期に未採点となっている科目（集中講義科目など）については、個別に開示された日を基準として取り扱います。
- (3) 不合格科目について、成績評価の確認または異議申し立てを行い、結果が通知されるまでの間は、既に開示されている成績評価に基づいて、必要な手続き等を行ってください。
- (4) 不合格科目について、成績評価の確認または異議申し立てを行い、結果が通知されるまでの間に学期末を超える場合は、学部長（研究科長）の判断において諸手続きの取り扱いが考慮される場合があります。

**にいがたマインド学生マイスター
（地域活性プログラム）**

【生命産業創造学科】

文部科学省COC + 事業の一環で、新潟青陵大学を中心として行っている専門人材認定制度により、新潟地域で活躍するための基礎力を身につけた学生に与える称号です。

本学では、以下の科目から12ポイント以上取得することにより認定されます。

数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

内閣府が発表した「AI戦略2019」では、政府が標榜するSociety5.0の実現に向け、「文理を問わず全ての大学・高専生（約50万人卒／年）が課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得」すること等を具体的目標として掲げています。本学では2021年度入学生から「数理・データサイエンス・AI

教育プログラム」を開始しました。医療科学及び生命科学分野の専門人材として、現代の「データ駆動型の社会」に対応するために必要な「数理・データサイエンス・AIの基礎的素養」を習得することを目指します。対象科目を履修し単位認定されると、プログラム修了認定証が発行されます。

対象科目は以下のとおりです。

【応用生命科学科】

- (1) 生命情報科学概論
- (2) 初年次セミナー（フレッシュャーズ・セミナー）
- (3) 生物学 I
- (4) データサイエンス入門

【生命産業創造学科】

2021年度入学生

- (1) ITリテラシー基礎
- (2) 初年次セミナー
- (3) データサイエンス入門
- (4) ITリテラシー応用

2022年度入学生

- (1) 情報リテラシー基礎
- (2) 情報リテラシー応用

	2018年度以前の入学生				2019年度、2020年度の入学生				2021年度以降の入学生				新潟 関連性	ポイント
	講義科目	科目 区分	配当 学年	単位 数	講義科目	科目 区分	配当 学年	単位 数	講義科目	科目 区分	配当 学年	単位 数		
講義科目	地域活性化システム論	専門 必修	1年 前期	2	—	—	—	—	—	—	—	—	強	2
	歴史・風土から見た食環境	専門 必修	2年 前期	2	食文化論Ⅰ	専門 必修	2年 前期	2	食文化論Ⅰ	専門 選択	2年 前期	2	強	2
	1次産業論	専門 選択	1年 後期	2	農業ビジネス論Ⅰ	専門 必修	1年 後期	2	農業ビジネス論Ⅰ	専門 必修	1年 後期	2	中	2
	2次産業論	専門 選択	2年 前期	2	地域産業ビジネス論	専門 必修	2年 前期	2	地域産業ビジネス論	専門 必修	2年 前期	2	強	2
	食文化論	専門 選択	2年 前期	2	食文化論Ⅱ	専門 必修	2年 前期	2	食文化論Ⅱ	専門 選択	2年 前期	2	強	2
フィールドワーク型演習	キャリア形成実践演習	教養 選択	1年 後期 ～ 3年 後期	1	キャリア形成実践演習	教養 必修	1年 後期 ～ 3年 後期	1	キャリア形成実践演習	教養 必修	1年 後期 ～ 3年 後期	1	強	2
	地域活性化フィールドワークⅠ	専門 必修	1年 後期	2	地域活性化フィールドワークⅠ	専門 必修	1年 後期	2	地域活性化フィールドワークⅠ	専門 必修	1年 後期	2	強	2
	地域活性化フィールドワークⅡ	専門 必修	3年 後期	2	地域活性化フィールドワークⅡ	専門 必修	3年 前期	2	地域活性化フィールドワークⅡ	専門 必修	3年 前期	2	強	2

授 業

授 業 時 間

授業時間は1時限90分です。

新津キャンパス、新津駅東キャンパスで授業時間が異なりますので、注意してください。

	新津キャンパス	新津駅東キャンパス
第1時限	9:00～10:30	8:45～10:15
第2時限	10:40～12:10	10:25～11:55
第3時限	13:10～14:40	13:10～14:40
第4時限	14:50～16:20	14:50～16:20
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00

なお、実験科目ではこれに関わらず別途時間を設定することがあります。

休 講

授業担当教員が学会出張などのためやむを得ず授業を実施できない場合があります。これを休講と言います。休講の場合は原則として予め Portal NUPALS で通知します。連絡なしに授業担当教員が教室に現れないときは、授業開始時間から30分を経過後「自然休講」となります。この場合、自然休講となった時点で、適当な代表者を決めて事務部教務課まで連絡してください。また、同一の授業科目で休講回数が多いなどの問題があれば、教務課まで申し出てください。

授業の振替と補講

授業担当教員の都合により他の授業科目と授業時間を振り替えることがあります。また、授業の進度の遅れや休講を補う措置として補講を実施することがあります。いずれも Portal NUPALS にて連絡しますので、常に Portal NUPALS をチェックしてください。

出席の励行

授業は原則として必ず出席しなければなりません。授業担当教員は各自の工夫で、教科書とは違った授業の進め方や、より詳しい説明をすることが多くありますので、それらを自身の確実な知識にできるように取り組む姿勢が望まれます。各授業での出席確認はその担当教員が行うのでその指示に従ってください。

欠席の届出

欠席した場合は、速やかに欠席の事由を証明する書類を添付し、「欠席届」(事務室設置)を提出してください。忌引及び届出により大学が適当と認めた場合は、欠席に算入しません(履修規程第3条第10項、第11項)。

欠席の取扱について

欠席の理由	取 扱
忌 引 き	父母の喪：7日以内、祖父母または兄弟姉妹の喪：5日以内、その他の親族の喪：1日、その他届出により学部が認めた場合は欠席回数に算入しない。
天災等による罹災	罹災状況により個別に対応する。
交通機関の遅延等	公共交通機関、公的機関の証明がある場合は欠席回数に算入しない。
入 院 (手術等)	原則として欠席回数に算入する。ただし、医師の診断書、あるいは入院の証明書の提出により算入しない場合もある。
体 調 不 良 (風邪、腹痛等)	原則として欠席回数に算入する。ただし、感染性の病気に罹患し、登校停止等となった場合等は、その証明書等の提出により算入しない場合がある。
そ の 他	部活動、就職活動、ボランティア活動等による欠席は、基本的に欠席回数に算入する(個別の事情に関しては、担当教員に相談)。

受 講 マ ナ ー

授業には教員も学生も真剣に取り組んでいます。授業の妨げになるような私語、遅刻、授業中の入退室などの行為は厳に慎んでください。また、教室内では携帯電話などの電源は必ず切っておいてください。

予 習 ・ 復 習

大学の講義は非常に早く進みます。さらに、一度説明したことは理解しているものとしてどんどん積み上げていきます。したがって授業の内容を理解し、次の授業への備えとするためにも予習・復習はかせません。毎日きちんと勉強する習慣を身につけましょう。また、毎日の授業で理解できなかったこと、疑問に思ったことをそのままにしておくと、学習が不十分となり、取り返しがつかなくなってしまいます。疑問に思ったこと理解できなかったことはすぐに担当教員に質問してください。教員は学生諸君の質問をいつでも歓迎しています。

食品衛生管理者及び食品衛生監視員養成課程について

応用生命科学科では、2021年度以降の入学生は全コース、2020年度までの入学生は食品科学コースの学生が各入学年度に応じて適用されるプログラムで指定された科目の中から一定の単位を修得することで、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得ることができます。

・食品衛生管理者

食品や食品添加物を製造、加工する施設で、食品衛生法及び関連する法規や法令に基づいて製造過程に従事する者の指導監督を行います。

・食品衛生監視員

官公庁において、食品衛生法に基づく食品製造業

や飲食店等の営業施設に立ち入り、食品衛生法上の監視ならびに指導を行います。

2020年度までの食品科学コースの入学生は、共通必修科目及び食品科学コース必修科目の他、★のついた専門選択科目の単位を修得することで要件を満たすことができます。

2021年度以降の入学生は所属するコースによって、必修科目の他に追加で履修を要する選択科目の単位数が異なりますので、資格取得を希望する場合は、よく確認して履修計画を立ててください。

【応用生命科学科食品衛生プログラム 令和3年度入学生より適用】

区 分	基本科目名	応用生命科学科指定科目（配当学年・選択必修の別）	必選区分	単位数	
A群 化学関係	分析化学	分析化学（1年・必修） 応用生命科学基礎実験Ⅰ（1年・必修）	必修 必修	2 1	
	有機化学	化学Ⅱ（1年・必修） 有機化学Ⅰ（2年・必修） 応用生命科学基礎実験Ⅳ（1年・必修）	必修 必修 必修	2 2 1	
	無機化学	化学Ⅰ（1年・必修） 無機化学（2年・生命環境化学コース必修）	必修 必修	2 2	
		計		12	
B群 生物化学関係	生物化学	生化学Ⅰ（2年・必修） 生化学Ⅱ（2年・必修） 応用生命科学基礎実験Ⅲ（1年・必修）	必修 必修 必修	2 2 1	
	食品化学	食品化学（2年・必修） 応用生命科学基礎実験Ⅴ（2年・必修）	必修 必修	2 2	
	食品分析学	食品分析学（2年・食品科学コース必修）	選択	2	
		計		11	
C群 微生物学関係	微生物学	微生物科学（2年・必修） 応用生命科学基礎実験Ⅱ（1年・必修）	必修 必修	2 1	
	食品微生物学	食品微生物学（3年・食品科学コース必修）	必修	2	
	食品製造学	食品製造学（2年・食品科学コース必修）	選択	2	
		計		7	
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学（3年・選択）	必修	2	
	食品衛生学	食品安全学（3年・選択）	必修	2	
	疫学	食中毒疫学（3年・選択）	選択	2	
		計		6	
A群からD群の合計で22単位以上を修得		最低取得単位数の小計（A+B+C+D）		30	
E群 その他関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生物有機化学（3年・選択）	選択	2	
		有機化学Ⅱ（2年・生命環境化学コース必修）	選択	2	
		環境科学Ⅰ（2年・必修）	必修	2	
		栄養科学（2年・食品科学コース必修）	選択	2	
		機能食品科学（3年・食品科学コース必修）	選択	2	
		栄養生理学（3年・食品科学コース必修）	選択	2	
		酵素化学（2年・バイオテクノロジーコース必修）	選択	2	
		発酵醸造学（3年・食品科学コース必修）	選択	2	
		分子生物学（3年・選択）	選択	2	
		植物バイオテクノロジー（3年・バイオテクノロジーコース必修）	選択	2	
		植物科学（2年・バイオテクノロジーコース必修）	選択	2	
		微生物バイオテクノロジー（3年・バイオテクノロジーコース必修）	選択	2	
		環境科学Ⅱ（3年・生命環境化学コース必修）	選択	2	
		環境汚染論（2年・選択）	選択	2	
			小計		28
			最低取得単位数の小計		2
	A群からE群を含め40単位以上を修得		最低取得単位数合計（A+B+C+D+E）		32

「必選区分」の必修及び選択を合わせて、A群からE群までの合計で40単位以上修得しなければならない。

（付記）

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

【食品科学コース食品衛生プログラム 平成29年度入学生より適用】

区 分	基本科目名	食品科学コース指定科目(配当学年・選択必修の別)	必修区分	単位数
A群 化学関係	分析化学	分析化学(1年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅱ(1年・必修)	必修 必修	2 1
	有機化学	化学Ⅱ(1年・必修) 有機化学Ⅰ(2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅳ(1年・必修)	必修 必修 必修	2 2 1
	無機化学	化学Ⅰ(1年・必修) 無機化学(2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅰ(1年・必修)	必修 必修 必修	2 2 1
	計			13
	生物化学	生化学Ⅰ(2年・必修) 生化学Ⅱ(2年・必修)	必修 必修	2 2
B群 生物化学関係	食品化学	食品化学(2年・必修)	必修	2
	食品分析学	食品分析学(2年・必修) 食品分析実験(2年・必修)	必修 必修	2 1
	計			9
	微生物学	微生物科学(2年・必修)	必修	2
	食品微生物学	食品微生物学(3年・必修)	必修	2
C群 微生物学関係	食品製造学	食品製造学(3年・必修) 食品製造・加工実験(3年・必修)	必修 必修	2 1
	計			7
	公衆衛生学	公衆衛生学(3年・選択)	★ 必修	2
	食品衛生学	食品安全学(3年・選択) 食品安全実験(3年・必修)	★ 必修 必修	2 1
	疫学	食中毒疫学(3年・選択)	選択	2
	計			7
A群からD群の合計で22単位以上を修得		最低取得単位数小計(A+B+C+D)		34
E群 その他の関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生物有機化学(3年・選択)	★ 必修	2
		有機化学Ⅱ(2年・必修)	必修	2
		環境科学Ⅰ(2年・必修)	必修	2
		栄養科学(2年・必修)	必修	2
		栄養生理学(3年・必修)	必修	2
		機能食品科学(3年・必修)	必修	2
		応用生命科学入門実験(2年・必修)	必修	1
		食品機能実験(2年・必修)	必修	1
		酵素化学(2年・必修)	必修	2
		発酵醸造学(3年・必修)	必修	2
	計			18
A群からE群を含め40単位以上を修得		最低取得単位数合計(A+B+C+D+E)		52

★食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得るためには、食品科学コース必修科目を修得し、かつD群公衆衛生学関係「公衆衛生学」及び「食品安全学」並びにE群その他の関連科目「生物有機化学」を修得しなければならない。

(付記)

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

【食品科学コース食品衛生プログラム 平成28年度以前入学生に適用】

区 分	基本科目名	食品科学コース指定科目(配当学年・選択必修の別)	必修区分	単位数	
A群 化学関係	分析化学	分析化学(2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅱ(1年・必修)	必修 必修	2 1	
	有機化学	化学Ⅱ(1年・必修) 有機化学Ⅰ(2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅳ(1年・必修)	必修 必修 必修	2 2 1	
	無機化学	化学Ⅰ(1年・必修) 無機化学(2年・必修) 応用生命科学基礎実験Ⅰ(1年・必修)	必修 必修 必修	2 2 1	
	計			13	
B群 生物化学関係	生物化学	生化学Ⅰ(2年・必修) 生化学Ⅱ(2年・必修)	必修 必修	2 2	
	食品化学	食品化学(2年・必修)	必修	2	
	食品分析学	食品分析学(2年・必修) 食品分析実験(2年・必修)	必修 必修	2 1	
	計			9	
C群 微生物学関係	微生物学	微生物科学(2年・必修)	必修	2	
	食品微生物学	食品微生物学(3年・必修)	必修	2	
	食品製造学	食品製造学(3年・必修) 食品製造・加工実験(3年・必修)	必修 必修	2 1	
	食品保存学	食品加工・保蔵学(3年・選択)○	選択	2	
	計			9	
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学(3年・選択)★	必修	2	
	食品衛生学	食品安全学(3年・選択)★ 食品安全実験(3年・必修)	必修 必修	2 1	
	疫学	食中毒疫学(3年・選択)	選択	2	
	計			7	
A群からD群の合計で22単位以上を修得		最低取得単位数小計(A+B+C+D)		34	
E群 その他の関連科目 ○は本年度開講しない。	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医化学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、蒸留酒製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、その他これらに類する食品衛生に関する科目	生物有機化学(2年・必修)	必修	2	
		有機化学Ⅱ(2年・必修)	必修	2	
		環境科学Ⅰ(1年・必修)	必修	2	
		栄養科学(2年・必修)	必修	2	
		栄養生理学(3年・必修)	必修	2	
		機能食品科学(3年・必修)	必修	2	
		応用生命科学入門実験(2年・必修)	必修	1	
		食品機能実験(2年・必修)	必修	1	
		食品酵素化学(2年・必修)	必修	2	
		発酵醸造学(3年・必修)	必修	2	
		食料・食品資源学(2年・選択)○	選択	2	
		環境分析化学(3年・選択)○	選択	2	
		計			22
			最低取得単位数小計		18
A群からE群を含め40単位以上を修得		最低取得単位数合計(A+B+C+D+E)		52	

★食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を得るためには、食品科学コース必修科目を修得し、かつD群公衆衛生学関係「公衆衛生学」及び「食品安全学」を修得しなければならない。

(付記)

食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設への転入学者等の取り扱いについて

他の学部及び他の学科または学年度途中からの編入については認めない。

転入学者については、「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の登録養成施設」として登録された学校の養成施設からでないと認めない。また、登録養成施設であっても既に取得した単位が当大学の科目内容と一致しなければ、資格取得に必要な単位数と認めない。

○：今年度開講しない科目

教職課程について

はじめに

教職課程とは、大学を卒業した後、中学校あるいは高等学校の教員になりたいと考えている学生の皆さんが、教員免許状を取得するために履修する課程です。

(1) 取得可能な教員免許状

新潟薬科大学応用生命科学部教職課程（以下「本課程」といいます。）では、中学校教諭一種免許状（理科）（以下「中学一種免許」）及び高等学校教諭一種免許状（理科）（以下「高校一種免許」）の取得が可能です。

(2) 履修上の注意

教員免許状を取得するためには、本学部の卒業要件となる授業科目だけではなく、さらに教職課程の授業科目の履修が必要となります。従って、多くの努力が必要であることは言うまでもありません。また、学士号を取得することが基礎資格となるため、卒業できなければ教員免許状を取得できません。

本課程の履修を希望する学生は、年度始めに開催される**教職課程履修ガイダンス**に必ず出席してください。

正当な理由なく欠席した場合または理由の如何にかかわらず欠席が多い場合は、以降の本課程の履修を認めない場合があります。

また、「学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲ」及び「教育実習Ⅰ・Ⅱ」並びに「介護等の体験」などの学外実習に参加する際には審査があり、その審査に合格しなければ参加することはできません。審査は、学力、出席等の平常の態度等を考慮して面接により行われます。これらの学外実習は、参加した学生の行為により、実習先や生徒たちに多大な迷惑をかける可能性があるためです。

履修について

(1) 免許状取得に必要な単位数

本課程で教員免許状を取得するためには、教育職員免許法及び教育免許法施行規則（以下「免許法等」）に定めるところに従って本学部が定めた単位を取得しなければなりません。本課程で教員免許状を取得するために必要な単位数は次の表のとおりです。

【平成30年度までの入学生】

科目区分	中学校教諭一種免許状取得に必要な単位数	高等学校教諭一種免許状取得に必要な単位数
教科に関する科目	26単位	32単位
教職に関する科目	33単位	27単位
教科又は教職に関する科目	1単位	
小 計	60単位	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	9単位	
合 計	69単位	

【平成31年度以降の入学生】

科目区分	中学校教諭一種免許状取得に必要な単位数	高等学校教諭一種免許状取得に必要な単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	32単位	36単位
教育の基礎的理解に関する科目	11単位	11単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	8単位
教育実践に関する科目	7単位	5単位
大学が独自に設定する科目	1単位	
小 計	61単位	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	9単位	
合 計	70単位	

(2) 授業科目について

授業科目の区分、単位数、必修選択の別及び配当学期は別表『新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧』のとおりです。教員免許状取得のための単位は本学の卒業要件として算入されない場合があるので、注意して履修してください。以下に各科目区分について説明します。

【平成30年度までの入学生】

i) 「教科に関する科目」について

教科に関する科目とは、本課程では免許教科である理科に関する専門的知識を習得するための科目群です。物理、化学、生物、地学の区分で構成され、本学では特に化学と生物に重点が置かれています。中学一種免許、高校一種免許のいずれの取得にも、物理、化学、生物、地学のそれぞれの一般的包括的内容を含む科目として規定する「物理学」、「化学Ⅰ」、「化学Ⅱ」、「生物科学」、「地学」のすべてを修得しなければなりません。また、中学一種免許を取得するためには、一般的包括的内容を含む実験科目「応用生命科学基礎実験Ⅰ」、「応用生命科学基礎実験Ⅱ」、「物理学実験」、「地学実験」のすべてを、

高校一種免許を取得するためにはそのうち2科目以上を修得しなければなりません。

ii)「教職に関する科目」について

教職に関する科目とは、教員として生徒に接し授業を行う上で必要な知識と技能を習得するための科目です。教職の意義、教育の基礎理論、各教科の指導法、生徒指導、進路相談、教育実習及び教職実践演習などから構成され、多くの科目が教員免許取得のために必修となっています。「道徳教育の指導法」は、中学一種免許取得にあっては「教職に関する科目」の必修科目ですが、高校一種免許取得にあっては「教科又は教職に関する科目」の選択科目となりますので注意してください。教職に関する科目は、応用生命科学部の卒業要件単位に算入しないものが多いので、履修計画を立てる際は注意してください。

iii)「教科又は教職に関する科目」について

教科又は教職に関する科目とは、文字どおり「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」を指し、免許法等で規定する「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の最低取得単位数を超える分はこれに振り替えられます。

さらに、これに準じて教員養成に必要な科目として設けられた科目も「教科又は教職に関する科目」に区分します。本課程では教員養成の充実に向け、「学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲ」を設定しています。これらは本課程の履修の早い段階で、直接生徒と触れ合い学習を支援したり、現場の教員の仕事を手伝うことで、職業理解を深める科目です。これらの体験は、自己のキャリア形成に大いに有効であり、本課程を履修していく際の励みとなりますので、規定の単位数に関わらず積極的に参加することを推奨します。

iv)「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」について

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目は、免許状の種類及び教科によって修得科目や単位数に違いのない科目群です。日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位及び情報機器の操作2単位を法令上の最低修得単位数とし、本課程では合計9単位の取得を必須としています。

〈参考〉教育職員免許法で定める最低取得単位数

科目区分	中学校教諭一種免許状取得に必要な単位数	高等学校教諭一種免許状取得に必要な単位数
教科に関する科目	20単位	
教職に関する科目	31単位	23単位
教科又は教職に関する科目	8単位	16単位
小 計	59単位	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8単位	
合 計	67単位	

【平成31年度以降の入学生】

i)「教科及び教科の指導法に関する科目」について

理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的として構成されています。本課程では、物理学、化学、生物学、地学等の区分で構成され、応用生命科学部としての特徴を最大限に生かすため、特に化学と生物学を重視した構成となっています。併せて「理科教育法Ⅰ～Ⅳ」において、理科教育に関する指導法を修得します。「中学一種免許」「高校一種免許」により必要単位数が異なりますので科目一覧をよく確認の上、履修してください。

ii) 教育の基礎的理解に関する科目

教員として生徒に接し授業を行う上で必要な知識と技能を修得するための科目です。教職の意義、教育の理念、生徒の心身の発達、教育に関する社会的事項、特別の支援を必要とする生徒に対する理解などを修得するため、「教職概論」「教育原論」「教育心理学」等の科目で構成されています。「中学一種免許」「高校一種免許」の取得には全ての科目の修得が必要です。

iii) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

教員として必要な道徳の理論や指導法、特別活動や総合的な学習の時間の指導法、生徒指導、進路指導、教育相談の方法を修得するため、「道徳教育の指導法」「教育方法論」「教育相談の理論と方法」等の科目で構成されています。「中学一種免許」の取得には全ての科目の修得が必要であり、「高校一種免許」の取得には「道徳教育の指導法」以外の科目の修得が必要です。

iv) 教育実践に関する科目

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会です。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることを目的としています。「教育実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教職実践演習(中・高)」の科目で構成されています。なお、「教育実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」を履修するためには条件がありますので別頁「教育実習について」をよく確認してください。

v) 大学が独自に設定する科目

学校現場やその他の教育施設において教育活動や校務、部活動などに関する支援や補助業務などの諸活動を体験させるための学校インターンシップや学校ボランティアなどの取組を行う科目です。従来「教科又は教職に関する科目」として実施されていましたが、「大学が独自に設定する科目」に位置付けられ実施します。本課程では「学習支援実地演習Ⅰ」「学習支援実地演習Ⅱ」「学習支援実地演習Ⅲ」の科目で構成されています。

vi) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目は、免許状の種類及び教科によって修得科目や単位数に違いのない科目群です。日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位及び情報機器の操作2単位を法令上の最低修得単位数とし、本課程では合計9単位の取得を必須としています。

〈参考〉教育職員免許法で定める最低取得単位数

科目区分	中学校教諭一種免許状取得に必要な単位数	高等学校教諭一種免許状取得に必要な単位数
教科及び教科の指導法に関する科目	32単位	36単位
教育の基礎的理解に関する科目	11単位	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10単位	8単位
教育実践に関する科目	7単位	5単位
大学が独自に設定する科目	1単位	
小 計	61単位	
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	9単位	
合 計	70単位	

教育実習について

(1) 教育実習とは

実際に中学校や高等学校の担当教諭の指導を受けながら生徒の教育・指導をします。中学一種免許取得希望者及び中学、高校両方の免許取得希望者は4年次に「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」及び「教育実習事前事後指導」の履修が必要です。高校一種免許のみ取得希望者は「教育実習Ⅰ」及び「教育実習事前事後指導」を履修します。

(2) 教育実習の履修条件

教育実習は、実際の教育現場の協力を仰いで行う学外実習です。教育実習の履修に際しては、中学一種免許取得希望者にあつては、次の1から5まで、高校一種免許取得希望者にあつては、1から4までのすべてを満たさなければなりません。

- 1 教育実習受講年度において、卒業見込みであること。
- 2 運営委員会による審査結果の報告に基づき、学長が教育実習受講適格者と認めた者であること。
- 3 教育実習にかかる指導及びガイダンスに全て出席していること。
- 4 下表に規定する科目区分等毎の単位数を取得していること。

【平成30年度までの入学生】

科目区分等	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教科に関する科目	24単位	30単位
教職に関する科目	24単位 (理科教育法4単位必ず含む)	18単位 (理科教育法2単位必ず含む)
教科又は教職に関する科目	学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲから1単位	学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲから1単位

【平成31年度以降の入学生】

科目区分等	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教科及び教科の指導法に関する科目	30単位 (理科教育法4単位必ず含む)	34単位 (理科教育法2単位必ず含む)
教育の基礎的理解に関する科目	併せて 19単位	併せて 15単位
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲから1単位	学習支援実地演習Ⅰ～Ⅲから1単位

5 「介護等の体験」を済ませていること。

小学校免許取得の課程

明星大学との教育業務提携により、在学時に小学校教諭二種免許状の取得が可能です。これは2年次4月から明星大学の科目等履修生として学修を開始し、卒業までの3年間で免許取得を目指すものです。なお履修に関する経費は自己負担となります。

＜スケジュール＞

1年次11月：本学でオリエンテーション及び選考を実施

2月：明星大学に出願

2年次4月：通信教育による履修を開始

そ の 他

(1) 介護等の体験について

平成10年4月1日より、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律」（以下、「介護等の体験法」という）が施行され、中学校教諭の普通免許状を取得するには、介護等の体験を行うことが義務づけられました。「介護等の体験法」が求める体験とは、盲学校、聾学校、養護学校及び障害者や高齢者の福祉施設で、介護、介助を通してこれらの人々との交流を深めるものです。期間は7日間で、原則として特殊教育諸学校で2日間、社会福祉施設で5日間実施することになっています。本学では、3年次に実施します。

介護等の体験は、都道府県教育委員会への免許状申請の要件であり、免許状申請時に申請者は当該機関・施設の発行する「介護等の体験修了証明書」（コピーは不可）を添付しなければなりません。

(2) 教職課程履修に必要な費用

教育実習等の学外実習を行う際には、実習機関によっては実習費等を支払う必要があります。また、実習機関までの交通費も個人負担となります。

別表(1) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔令和4年度入学生より適用〕

科目	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	単位数	教員免許取得のための 必修選択の区分		配当学年・学期と単位数							
				中一種免 (理科)	高一種免 (理科)	1	2	3	4	5	6	7	8
						1年 前	2年 後	3年 前	4年 後	5年 前	6年 後	7年 前	8年 後
教科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	物理学	物理学	2	必修	必修	2							
		化学Ⅰ	2	必修	必修	2							
	化学	化学Ⅱ	2	必修	必修		2						
		無機化学	2	必修	必修			2					
		有機化学Ⅰ	2	必修	必修		2						
		物理化学	2	—	必修		2						
		分析化学	2	—	必修		2						
		食品化学	2	—	必修			2					
	生物学	生物科学	2	必修	必修					2			
		生物学Ⅰ	2	3科目 選択必修	5科目 選択必修	2							
		生物学Ⅱ	2				2						
		生化学Ⅰ	2					2					
		生化学Ⅱ	2					2					
		微生物科学	2					2					
		分子生物学	2						2				
	地学	地学	2	必修	必修		2						
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修	*印の 科目より2科目 選択必修				1				
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅰ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択			1						
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択			1						
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修					1				
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	理科教育法Ⅰ	2	必修	必修			2					
		理科教育法Ⅱ	2	必修	選択				2				
		理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2			
		理科教育法Ⅳ	2	必修	選択						2		
	必要単位数			32単位以上	36単位以上								
教育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2	必修	必修	2							
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	必修	必修					2			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修			2					
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学 校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修					2			
	特別の支援を必要とする幼児、児童 及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修			1					
	教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修					2			
	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	—						2		
	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の 時間の指導法	2	必修	必修		2						
	総合的な学習の時間の指導法	教育の方法及び技術(情報通信 技術の活用含む)	2	必修	必修			2					
	教育の方法及び技術	生徒指導の理論及び方法	2	必修	必修						2		
教育 等 の 指 導 法 及 び 生 徒 指 導 、 関 関 する 科 目 に 関 する 科 目	情報通信技術を活用した教育の理 論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修						2		
	生徒指導の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2					
	進路指導及びキャリア教育の理論 及び方法	教育実習事前事後指導	1	必修	必修							1	
	教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育実習Ⅰ	2	必修	必修							2	
	教育実習	教育実習Ⅱ	2	必修	選択							2	
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								2
	必要単位数			28単位以上	24単位以上								
	大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅰ	1	1科目 選択必修	1科目 選択必修	1							
		学習支援実地演習Ⅱ	1					1					
		学習支援実地演習Ⅲ	1							1			
	必要単位数			1単位以上	1単位以上								
6 免 許 法 施 行 規 則 第 66 条 の に 定 め る 科 目	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2						
	体育	健康管理	2	必修	必修		2						
		スポーツ	1	必修	必修		1						
	情報機器の操作	生命情報科学概論	1	必修	必修	1							
		生命情報科学演習Ⅰ	0.5	必修	必修	0.5							
		生命情報科学演習Ⅱ	0.5	必修	必修		0.5						
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1	必修	必修	1							
		英語Ⅱ	1	必修	必修		1						
	必要単位数			9単位	9単位								

別表(2) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔平成31年度入学生より適用〕

科目	各科目に含めることが 必要な事項	授業科目	単位数	教員免許取得のための 必修選択の区分		配当学年・学期と単位数							
				中一種免 (理科)	高一種免 (理科)	1年 前	2年 後	3年 前	4年 後	5年 前	6年 後	7年 前	8年 後
教科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目	物理学	物理学	2	必修	必修	2							
		化学Ⅰ	2	必修	必修	2							
	化学	化学Ⅱ	2	必修	必修		2						
		無機化学	2	必修	必修			2					
		有機化学Ⅰ	2	必修	必修		2						
		物理化学	2	—	必修	2							
		分析化学	2	—	必修	2							
		食品化学	2	—	必修		2						
	生物学	生物科学	2	必修	必修					2			
		生物学Ⅰ	2	3科目 選択必修	5科目 選択必修	2							
		生物学Ⅱ	2				2						
		生化学Ⅰ	2					2					
		生化学Ⅱ	2					2					
		微生物科学	2				2						
		分子生物学	2						2				
	地学	地学	2	必修	必修	2							
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修	*印の 科目より2科目 選択必修			1					
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅰ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択			1						
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択			1						
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修				1					
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	理科教育法Ⅰ	2	必修	必修		2						
		理科教育法Ⅱ	2	必修	選択			2					
		理科教育法Ⅲ	2	必修	必修				2				
		理科教育法Ⅳ	2	必修	選択					2			
	必要単位数			32単位以上	36単位以上								
教育 の 基 礎 的 理 解 に 関 す る 科 目	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職概論	2	必修	必修	2							
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	2	必修	必修				2				
	幼児、児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育心理学	2	必修	必修			2					
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学 校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育制度・行政	2	必修	必修				2				
	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解	特別支援教育概論	1	必修	必修			1					
	教育課程の意義及び編成の方法(カリ キュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2	必修	必修				2				
	道徳の理論及び指導法	道徳教育の指導法	2	必修	—					2			
	特別活動の指導法	特別活動及び総合的な学習の 時間の指導法	2	必修	必修	2							
	総合的な学習の時間の指導法	教育方法論	2	必修	必修		2						
	教育の方法及び技術(情報機器及び 教材の活用を含む。)	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修					2			
教育 等 の 指 導 法 及 び 生 徒 指 導 に 関 す る 科 目	生徒指導の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修		2						
	進路指導及びキャリア教育の理論 及び方法												
	教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)	教育相談の理論と方法	2	必修	必修		2						
	教育実習	教育実習	2	必修	必修								
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								2
関 する 科 目	必要単位数			28単位以上	24単位以上								
	大学が独自に設定する科目	学習支援実地演習Ⅰ	1	1科目 選択必修	1科目 選択必修	1							
		学習支援実地演習Ⅱ	1				1						
		学習支援実地演習Ⅲ	1						1				
	必要単位数			1単位以上	1単位以上								
6 免 許 法 施 行 規 則 第 66 条 の 科 目	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2						
	体育	健康管理	2	必修	必修		2						
		スポーツ	1	必修	必修		1						
	情報機器の操作	生命情報科学概論	1	必修	必修	1							
		生命情報科学演習Ⅰ	0.5	必修	必修	0.5							
		生命情報科学演習Ⅱ	0.5	必修	必修		0.5						
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1	必修	必修	1							
		英語Ⅱ	1	必修	必修		1						
	必要単位数			9単位	9単位								

別表(3) 新潟薬科大学応用生命科学部教職課程授業科目一覧〔平成29年度から平成30年度入学生に適用〕

科目	教育職員免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	単位数	教員免許取得のための必修選択の区分		配当学年・学期と単位数							
				中一種免 (理科)	高一種免 (理科)	1年		2年		3年		4年	
						前	後	前	後	前	後	前	後
教科に関する科目	物理学	物理学	2	必修	必修	2							
	化学	化学Ⅰ	2	必修	必修	2							
		化学Ⅱ	2	必修	必修		2						
		無機化学	2	必修	必修				2				
		有機化学Ⅰ	2					2					
		有機化学Ⅱ	2						2				
		生物有機化学	2	2科目 選択必修	4科目 選択必修					2			
		物理化学	2				2						
		分析化学	2				2						
		食品化学	2					2					
	生物学	生物科学	2	必修	必修					2			
		生物学Ⅰ	2	3科目 選択必修	5科目 選択必修	2							
		生物学Ⅱ	2				2						
		生化学Ⅰ	2					2					
		生化学Ⅱ	2						2				
		微生物科学	2					2					
		分子生物学	2							2			
	地学	地学	2	必修	必修		2						
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験 *	1	必修	*印の 科目より2科目 選択必修				1				
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅰ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1	選択			1						
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	応用生命科学基礎実験Ⅱ *	1	必修		1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1	選択			1						
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	必修					1				
	必要単位数			26単位以上	32単位以上								
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職概論	2	必修	必修	2							
		教育原論	2	必修	必修					2			
	教育の基礎理論に関する科目	教育心理学	2	必修	必修				2				
		教育制度・行政	2	必修	必修					2			
	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	必修	必修					2			
	各教科の指導法	理科教育法Ⅰ	2	必修	必修			2					
		理科教育法Ⅱ	2	必修	選択				2				
		理科教育法Ⅲ	2	必修	必修					2			
		理科教育法Ⅳ	2	選択	選択						2		
	道徳の指導法	道徳教育の指導法	2	必修	—						2		
	特別活動の指導法	特別活動の指導	2	必修	必修		2						
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	2	必修	必修			2					
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導の理論と方法	2	必修	必修						2		
	進路指導の理論及び方法												
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	必修	必修			2					
	教育実習	教育実習事前事後指導	1	必修	必修								1
		教育実習Ⅰ	2	必修	必修								2
		教育実習Ⅱ	2	必修	選択								2
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	必修	必修								2
	必要単位数			33単位以上	27単位以上								
に教科又は科目職	教科又は教職に関する科目	学習支援実地演習Ⅰ	1	1科目 選択必修	1科目 選択必修	1							
		学習支援実地演習Ⅱ	1					1					
		学習支援実地演習Ⅲ	1							1			
		道徳教育の指導法	2	—	選択						2		
	必要単位数			1単位以上	1単位以上								
6 免許に 定める 科目第 66条の	日本国憲法	法学	2	必修	必修		2						
	体育	健康管理	2	必修	必修		2						
		スポーツ	1	必修	必修		1						
	情報機器の操作	生命情報科学概論	1	必修	必修	1							
		生命情報科学演習Ⅰ	0.5	必修	必修	0.5							
		生命情報科学演習Ⅱ	0.5	必修	必修		0.5						
	外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1	必修	必修	1							
		英語Ⅱ	1	必修	必修		1						
	必要単位数			9単位	9単位								

応用生命科学科 授業科目単位配分表

別表第1の1

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表（令和4年度1年次入学生より適用）

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (13単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	フレッシュャーズ・セミナー	2	2							
	早期体験学習	1	1							
	生命情報科学概論	1	1							
	生命情報科学演習Ⅰ	0.5	0.5							
	生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
	健康管理	2		2						
	データサイエンス入門	1		1						
	キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (13単位以上)	外国語 3単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1			1				
		コミュニケーション英語Ⅱ	1			1				
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1			1				
		TOEIC英語Ⅱ	1				1			
		中国語	2	2						
		韓国語	2	2						
		海外語学研修	1			1				
	自然科学系 4単位以上	基礎数学	2	2						
		物理学	2	2						
		地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
	社会・人文科学系 4単位以上	Ⅱ基礎経済学Ⅰ	2	2						
		Ⅱ基礎経済学Ⅱ	2		2					
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
	体育	スポーツ	1	1						
専門必修科目 (61単位)	共通必修科目 (34単位)	生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅰ	2	2						
		化学Ⅰ演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		生化学Ⅰ	2			2				
		生化学Ⅱ	2				2			
		分析化学	2		2					
		機器分析学	2			2				
		微生物科学	2			2				
		環境科学Ⅰ	2			2				
		食品化学	2			2				
		科学技術英語	1					1		
		応用生命科学基礎実験Ⅰ	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1					
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1					
		応用生命科学基礎実験Ⅴ	2			2				

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (61単位)	食品科学コース 必修科目 (27単位)	食品微生物学	2					2			
		食品製造学	2				2				
		機能食品科学	2					2			
		食品分析学	2				2				
		栄養科学	2				2				
		発酵醸造学	2					2			
		栄養生理学	2					2			
		食品科学実験	1				1				
		食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	バイオテクノロジー コース必修科目 (27単位)	微生物バイオテクノロジー	2					2			
		植物バイオテクノロジー	2					2			
		動物バイオテクノロジー	2					2			
		生物工学	2				2				
		植物科学	2				2				
		バイオインフォマティクス	2					2			
		酵素化学	2				2				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	生命環境化学コース 必修科目 (27単位)	無機化学	2				2				
		有機化学Ⅱ	2				2				
		環境科学Ⅱ	2					2			
		有機合成化学	2					2			
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		環境分析化学	2				2				
		生体分子化学	2					2			
		環境工学実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生体分子化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	理科教職コース 必修科目 (27単位)	*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2					2			
		*教育制度・行政	2					2			
		*教職演習Ⅰ	2				2				
		*教職演習Ⅱ	2					2			
		物理学実験	1				1				
		地学実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
専門選択科目 (37単位以上) 専門選択科目には他コースのコース 別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を 修得していなければ履修できない]		基礎生物学	1	1							
		基礎化学Ⅰ	1	1							
		基礎化学Ⅱ	1		1						
		生物学Ⅱ演習	1		1						
		生化学Ⅰ演習	1			1					
		生化学Ⅱ演習	1				1				
		物理化学	2		2						
		資源循環論	2				2				
		環境汚染論	2				2				
		生物有機化学	2						2		
		分子生物学	2					2			
		環境修復論	2					2			
		細胞免疫学	2					2			
		分子構造解析学	2						2		
		構造生物学とタンパク質工学	2					2			
		植物育種学	2						2		

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門選択科目（37単位以上） 専門選択科目には他コースのコース別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を修得していなければ履修できない]	廃棄物管理工学	2						2		
	食品安全学	2						2		
	食中毒疫学	2						2		
	食品流通学	2						2		
	食品商品学	2					2			
	公衆衛生学	2						2		
	生物科学	2						2		
	食品の予防コントロール	2							2	
	*理科教育法Ⅰ	2			2					
	*教育原論	2					2			
	*生徒・進路指導の理論と方法	2						2		
	*道徳教育の指導法	2						2		
	b 農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	b 農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
	b 食品管理論	2			2					
	b 経営管理論	2			2					
	b 地域産業ビジネス論	2			2					
	b レギュラトリーサイエンス	2					2			
	b 食文化論Ⅰ	2			2					
	b 食文化論Ⅱ	2			2					
	b 食品経済学	2				2				
	b 産業組織論	2			2					
	b 食品・植物資源論	2				2				
	b 食品開発論Ⅰ	2				2				
	b 食品開発論Ⅱ	2						2		
	b 農業経済学	2				2				
	b 商品デザイン論	2						2		
	b コンサルティング論	2						2		
	b 知的財産論	2						2		
	b 食品製造論	2					2			
	b 食品産業の危機管理	2						2		
	# 薬用植物と生薬	1.5					1.5			
	# 生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5		
	# 生命情報と遺伝子	1.5					1.5			
	# 生体の情報伝達	1.5					1.5			
	# 化学物質と毒性	1.5						1.5		
	# 地球・生活環境と健康	1.5						1.5		
	# 薬理作用と薬物治療の基礎	1.5						1.5		
	# 神経系の疾患と薬	1.5					1.5			
	# 呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5			
	# 免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5						1.5		
	# 感染症と薬	1.5					1.5			
	# 香粧品の科学	1						1		
	# サプリメントと保健機能食品の科学	1					1			
自由科目 (教員免許取得関係科目)	教職概論	2	2							
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		2						
	教育方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	2			2					
	理科教育法Ⅳ	2						2		
	教育相談の理論と方法	2			2					
	特別支援教育概論	1				1				
	教育実習事前事後指導	1							1	
	教育実習Ⅰ	2							2	
	教育実習Ⅱ	2							2	
	教職実践演習（中・高）	2								2
	学習支援実地演習Ⅰ	1	1							
	学習支援実地演習Ⅱ	1			1					
	学習支援実地演習Ⅲ	1					1			

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

bの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目

別表第2の1

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以上を必ず含む)
教養選択科目	8単位	8単位	8単位
専門選択科目		6単位	20単位

別表第2の1付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	12.5	13.5	16	10(11)	10(9)	2	10	
学 期 累 積	12.5	26	42	52(53)	62	64	74	
学 年 計	26		26(27)		12(11)		10	
2年次進級単位数	15							
3年次進級単位数	41							
4年次進級単位数	52							

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第2の1付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専 門 科 目		合 計
		共通科目	コース別科目	
必修科目	13単位	34単位	27単位	74単位
選択科目	13単位以上	—	37単位以上	50単位以上
合 計	26単位以上	34単位	64単位以上	124単位以上

別表第1の2

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表（令和3年度1年次入学生に適用）

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (13単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	初年次セミナー	3	3							
	生命情報科学概論	1	1							
	生命情報科学演習Ⅰ	0.5	0.5							
	生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
	健康管理	2		2						
	データサイエンス入門	1		1						
	キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (13単位以上)	外国語 3単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1			1				
		コミュニケーション英語Ⅱ	1				1			
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1				1			
		TOEIC英語Ⅱ	1					1		
		中国語	2	2						
		韓国語	2	2						
		海外語学研修	1			1				
	自然科学系 4単位以上	基礎数学	2	2						
		物理学	2	2						
		地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
	社会・人文科学系 4単位以上	Ⅱ基礎経済学Ⅰ	2	2						
		Ⅱ基礎経済学Ⅱ	2		2					
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
	体育	スポーツ	1	1						
専門必修科目 (61単位)	共通必修科目 (34単位)	生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅰ	2	2						
		化学Ⅰ演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		生化学Ⅰ	2			2				
		生化学Ⅱ	2				2			
		分析化学	2		2					
		機器分析学	2			2				
		微生物科学	2			2				
		環境科学Ⅰ	2			2				
		食品化学	2			2				
		科学技術英語	1					1		
		応用生命科学基礎実験Ⅰ	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1						
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1					
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1					
		応用生命科学基礎実験Ⅴ	2			2				

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (61単位)	食品科学コース 必修科目 (27単位)	食品微生物学	2					2			
		食品製造学	2				2				
		機能食品科学	2					2			
		食品分析学	2				2				
		栄養科学	2				2				
		発酵醸造学	2					2			
		栄養生理学	2					2			
		食品科学実験	1				1				
		食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	バイオテクノロジー コース必修科目 (27単位)	微生物バイオテクノロジー	2					2			
		植物バイオテクノロジー	2					2			
		動物バイオテクノロジー	2					2			
		生物工学	2				2				
		植物科学	2				2				
		バイオフィーマティクス	2					2			
		酵素化学	2				2				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	生命環境化学コース 必修科目 (27単位)	無機化学	2				2				
		有機化学Ⅱ	2				2				
		環境科学Ⅱ	2					2			
		有機合成化学	2					2			
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		環境分析化学	2				2				
		生体分子化学	2					2			
		環境工学実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生体分子化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	理科教職コース 必修科目 (27単位)	*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2					2			
		*教育制度・行政	2					2			
		*教職演習Ⅰ	2				2				
		*教職演習Ⅱ	2					2			
		物理学実験	1				1				
		地学実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
専門選択科目 (37単位以上) 専門選択科目には他コースのコース 別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を 修得していなければ履修できない]		基礎生物学	1	1							
		基礎化学Ⅰ	1	1							
		基礎化学Ⅱ	1		1						
		生物学Ⅱ演習	1		1						
		生化学Ⅰ演習	1			1					
		生化学Ⅱ演習	1				1				
		物理化学	2		2						
		資源循環論	2				2				
		環境汚染論	2				2				
		生物有機化学	2						2		
		分子生物学	2					2			
		環境修復論	2					2			
		細胞免疫学	2					2			
		分子構造解析学	2						2		
		構造生物学とタンパク質工学	2					2			
		植物育種学	2						2		

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門選択科目（37単位以上） 専門選択科目には他コースのコース別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を修得していなければ履修できない]	廃棄物管理工学	2						2		
	食品安全学	2						2		
	食中毒疫学	2						2		
	食品流通学	2						2		
	食品商品学	2					2			
	公衆衛生学	2						2		
	生物科学	2						2		
	食品の予防コントロール	2							2	
	*理科教育法Ⅰ	2			2					
	*教育原論	2					2			
	*生徒・進路指導の理論と方法	2						2		
	*道德教育の指導法	2						2		
	ｂ農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	ｂ農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
	ｂ食品管理論	2			2					
	ｂ経営管理論	2			2					
	ｂ地域産業ビジネス論	2			2					
	ｂレギュラトリーサイエンス	2					2			
	ｂ食文化論Ⅰ	2			2					
	ｂ食文化論Ⅱ	2			2					
	ｂ食品経済学	2				2				
	ｂ産業組織論	2			2					
	ｂ食品・植物資源論	2				2				
	ｂ食品開発論Ⅰ	2				2				
	ｂ食品開発論Ⅱ	2						2		
	ｂ農業経済学	2				2				
	ｂ商品デザイン論	2						2		
	ｂコンサルティング論	2						2		
	ｂ知的財産論	2						2		
	ｂ食品製造論	2					2			
	ｂ食品産業の危機管理	2						2		
	#薬用植物と生薬	1.5					1.5			
	#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5		
	#生命情報と遺伝子	1.5					1.5			
	#生体の情報伝達	1.5					1.5			
	#化学物質と毒性	1.5						1.5		
	#地球・生活環境と健康	1.5						1.5		
	#薬理作用と薬物治療の基礎	1.5						1.5		
	#神経系の疾患と薬	1.5					1.5			
	#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5			
	#免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	1.5						1.5		
	#感染症と薬	1.5					1.5			
	#香粧品の科学	1						1		
	#サプリメントと保健機能食品の科学	1					1			
自由科目 (教員免許取得関係科目)	教職概論	2	2							
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		2						
	教育方法論	2			2					
	理科教育法Ⅳ	2						2		
	教育相談の理論と方法	2			2					
	特別支援教育概論	1				1				
	教育実習事前事後指導	1							1	
	教育実習Ⅰ	2							2	
	教育実習Ⅱ	2							2	
	教職実践演習（中・高）	2								2
	学習支援実地演習Ⅰ	1	1							
	学習支援実地演習Ⅱ	1			1					
	学習支援実地演習Ⅲ	1					1			

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

ｂの科目は、生命産業創造学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の2付表

別表第1の2と別表第1の1の授業科目の対応表

令和3年度の入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の2の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
初年次セミナー	フレッシュヤーズ・セミナー
	早期体験学習

別表第2の2

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	52単位 (実験7単位以上を必ず含む)
教養選択科目	8単位	8単位	8単位
専門選択科目		6単位	20単位

別表第2の2付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	12.5	13.5	16	10(11)	10(9)	2	10	
学 期 累 積	12.5	26	42	52(53)	62	64	74	
学 年 計	26		26(27)		12(11)		10	
2年次進級単位数	15							
3年次進級単位数	41							
4年次進級単位数	52							

※カッコ内は理科教職コースのみの単位数です。

別表第2の2付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専 門 科 目		合 計
		共通科目	コース別科目	
必修科目	13単位	34単位	27単位	74単位
選択科目	13単位以上	—	37単位以上	50単位以上
合 計	26単位以上	34単位	64単位以上	124単位以上

別表第1の3

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表

(平成31年度及び令和2年度1年次入学生に適用、ただし平成30年度入学生の休学生を含む)

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (12単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	初年次セミナー	3	3							
	生命情報科学概論	1	1							
	生命情報科学演習Ⅰ	0.5	0.5							
	生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
	健康管理	2		2						
	キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (14単位以上)	外国語 3単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1			1				
		コミュニケーション英語Ⅱ	1			1				
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1			1				
		TOEIC英語Ⅱ	1				1			
		中国語	2	2						
		韓国語	2	2						
		海外語学研修	1			1				
	自然科学系 4単位以上	基礎数学	2	2						
		物理学	2	2						
		地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
	社会・人文科学系 4単位以上	基礎経済学	2	2						
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
	体育	スポーツ	1	1						
専門必修科目 (77単位)	共通必修科目 (47単位)	生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅰ演習	1	1						
		生物学Ⅱ	2		2					
		生物学Ⅱ演習	1		1					
		化学Ⅰ	2	2						
		化学Ⅰ演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		無機化学	2			2				
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		有機化学Ⅱ	2			2				
		生化学Ⅰ	2			2				
		生化学Ⅱ	2			2				
		物理化学	2		2					
		分析化学	2		2					
		機器分析学	2				2			
		微生物科学	2			2				
		分子生物学	2				2			
		生物工学	2			2				
		環境科学Ⅰ	2			2				

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (77単位)	共通必修科目 (47単位)	食品化学	2			2					
		応用生命科学特別講義	2					2			
		科学技術英語	1						1		
		応用生命科学基礎実験Ⅰ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1						
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1						
		応用生命科学入門実験	1			1					
	バイオ工学コース 必修科目 (30単位)	微生物バイオテクノロジー	2					2			
		植物バイオテクノロジー	2				2				
		動物バイオテクノロジー	2					2			
		植物科学	2				2				
		有機合成化学	2					2			
		細胞免疫学	2					2			
		バイオインフォマティクス	2					2			
		酵素化学	2				2				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	環境科学コース 必修科目 (30単位)	環境科学Ⅱ	2				2				
		資源循環論	2				2				
		バイオインフォマティクス	2					2			
		有機合成化学	2					2			
		微生物バイオテクノロジー	2					2			
		環境汚染論	2				2				
		環境修復論	2					2			
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		環境工学実験	1					1			
		有機化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	食品科学コース 必修科目 (30単位)	食品微生物学	2					2			
		食品製造学	2					2			
		機能食品科学	2					2			
		食品分析学	2				2				
		栄養科学	2				2				
		発酵醸造学	2					2			
		酵素化学	2				2				
		栄養生理学	2					2			
		食品分析実験	1				1				
		食品機能実験	1				1				
		食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	理科教職コース 必修科目 (30単位)	*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2					2			
		*教育原論	2					2			
		*教育制度・行政	2					2			
		*教職演習Ⅰ	2				2				
		*教職演習Ⅱ	2					2			
		物理学実験	1				1				

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (77単位)	理科教職コース 必修科目 (30単位)	地学実験				1				
		有機化学実験					1			
		生化学・細胞工学実験					1			
		卒業研究							10	
専門選択科目 (21単位以上) 専門選択科目には他コースのコース 別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を 修得していなければ履修できない]		基礎生物学Ⅰ	1							
		基礎生物学Ⅱ		1						
		基礎化学Ⅰ	1	1						
		基礎化学Ⅱ		1						
		生物有機化学	2					2		
		分子構造解析学	2					2		
		構造生物学とタンパク質工学	2				2			
		植物育種学	2					2		
		廃棄物管理工学	2					2		
		食品安全学	2					2		
		食中毒疫学	2					2		
		食品流通学	2					2		
		食品商品学	2				2			
		公衆衛生学	2					2		
		生物科学	2					2		
		食品の予防コントロール	2						2	
		*理科教育法Ⅰ	2		2					
		*生徒・進路指導の理論と方法	2					2		
		*道徳教育の指導法	2					2		
		食品管理論	2		2					
		食文化論Ⅰ	2		2					
		食文化論Ⅱ	2		2					
		食品・植物資源論	2			2				
		食品開発論Ⅰ	2			2				
		食品産業の危機管理	2					2		
		#薬用植物と生薬	1.5				1.5			
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5					1.5		
		#生命情報と遺伝子	1.5				1.5			
		#生体の情報伝達	1.5				1.5			
		#化学物質と毒性	1.5					1.5		
		#地球・生活環境と健康	1.5					1.5		
		#薬理作用と薬物治療の基礎	1.5					1.5		
		#神経系の疾患と薬	1.5				1.5			
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5				1.5			
		#免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	1.5					1.5		
		#感染症と薬	1.5				1.5			
		#化粧品科学	1					1		
		#サプリメントと保健機能食品の科学	1				1			
自由科目 (教員免許取得関係科目)		教職概論	2	2						
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		2					
		教育方法論	2			2				
		理科教育法Ⅳ	2					2		
		教育相談の理論と方法	2			2				
		特別支援教育概論	1			1				
		教育実習事前事後指導	1						1	
		教育実習Ⅰ	2						2	
		教育実習Ⅱ	2						2	
		教職実践演習(中・高)	2							2
		学習支援実地演習Ⅰ	1	1						
		学習支援実地演習Ⅱ	1			1				
		学習支援実地演習Ⅲ	1					1		

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の3付表

別表第1の3と別表第1の1の授業科目の対応表

平成31年度及び令和2年度の入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の3の授業科目 (平成31年度及び令和2年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
初年次セミナー	フレッシュヤーズ・セミナー
	早期体験学習
基礎経済学	基礎経済学Ⅰ
生物学Ⅰ	生物学Ⅱ
生物学Ⅰ演習	生物学Ⅱ演習
免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬

別表第2の3

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	18単位 (実験4単位を必ず含む)	47単位 (実験7単位を必ず含む)	66単位 (実験9単位を必ず含む)
教養 選択科目	8単位	8単位	8単位

別表第2の3付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	13.5	15.5	13	17	18	2	10	
学 期 累 積	13.5	29	42	59	77	79	89	
学 年 計	29		30		20		10	
2年次進級単位数	18							
3年次進級単位数	47							
4年次進級単位数	66							

別表第2の3付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専 門 科 目		合 計
		共通科目	コース別科目	
必修科目	12単位	47単位	30単位	89単位
選択科目	14単位以上	—	21単位以上	35単位以上
合 計	26単位以上	47単位	51単位以上	124単位以上

別表第1の4

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表

(平成29年度及び平成30年度1年次入学生に適用、ただし平成30年度入学生の休学生を除く)

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (12単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	1年次セミナー	1	1							
	スタートアップセミナー	2	2							
	生命情報科学概論	1	1							
	生命情報科学演習Ⅰ	0.5	0.5							
	生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
	健康管理	2		2						
	キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (14単位以上)	外国語 3単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1			1				
		コミュニケーション英語Ⅱ	1			1				
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1			1				
		TOEIC英語Ⅱ	1				1			
		中国語	2	2						
		韓国語	2	2						
		海外語学研修	1			1				
	自然科学系 4単位以上	基礎数学	2	2						
		物理学	2	2						
		地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
	社会・人文科学系 4単位以上	バイオとフードに関する経済	2		2					
		基礎経済学	2	2						
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
		キャリアアップセミナー	0.5		0.5					
		研究室探訪	0.5			0.5				
	体育	スポーツ	1	1						
専門必修科目 (77単位)	共通必修科目 (47単位)	生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅰ演習	1	1						
		生物学Ⅱ	2		2					
		生物学Ⅱ演習	1		1					
		化学Ⅰ	2	2						
		化学Ⅰ演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		無機化学	2			2				
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		有機化学Ⅱ	2			2				
		生化学Ⅰ	2			2				
		生化学Ⅱ	2			2				
		物理化学	2		2					
		分析化学	2		2					

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (77単位)	共通必修科目 (47単位)	機器分析学	2					2			
		微生物科学	2			2					
		分子生物学	2					2			
		生物工学	2				2				
		環境科学Ⅰ	2			2					
		食品化学	2			2					
		応用生命科学特別講義	2					2			
		科学技術英語	1						1		
		応用生命科学基礎実験Ⅰ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1						
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1						
		応用生命科学入門実験	1			1					
	バイオ工学コース 必修科目 (30単位)	微生物バイオテクノロジー	2					2			
		植物バイオテクノロジー	2				2				
		動物バイオテクノロジー	2					2			
		植物科学	2				2				
		有機合成化学	2					2			
		細胞免疫学	2					2			
		バイオインフォマティクス	2					2			
		酵素化学	2				2				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	環境科学コース 必修科目 (30単位)	環境科学Ⅱ	2				2				
		資源循環論	2				2				
		バイオインフォマティクス	2					2			
		有機合成化学	2					2			
		微生物バイオテクノロジー	2					2			
		環境汚染論	2				2				
		環境修復論	2					2			
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		環境工学実験	1					1			
		有機化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	食品科学コース 必修科目 (30単位)	食品微生物学	2					2			
		食品製造学	2					2			
		機能食品科学	2					2			
		食品分析学	2				2				
		栄養科学	2				2				
		発酵醸造学	2					2			
		酵素化学	2				2				
		栄養生理学	2					2			
		食品分析実験	1				1				
		食品機能実験	1				1				
		食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	理科教職コース 必修科目 (30単位)	*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2					2			

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (77単位)	理科教職コース 必修科目 (30単位)	*教育原論					2			
		*教育制度・行政					2			
		*教職演習Ⅰ				2				
		*教職演習Ⅱ					2			
		物理学実験				1				
		地学実験				1				
		有機化学実験					1			
		生化学・細胞工学実験					1			
		卒業研究							10	
専門選択科目 (21単位以上) 専門選択科目には他コースのコース 別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位を 修得していなければ履修できない]		生物有機化学						2		
		分子構造解析学						2		
		構造生物学とタンパク質工学					2			
		植物育種学						2		
		廃棄物管理工学						2		
		食品安全学						2		
		食中毒疫学						2		
		食品流通学						2		
		食品商品学					2			
		公衆衛生学						2		
		生物科学						2		
		食品の予防コントロール							2	
		*理科教育法Ⅰ			2					
		*生徒・進路指導の理論と方法						2		
		*道徳教育の指導法						2		
		食品管理論			2					
		歴史・風土から見た食環境			2					
		食文化論			2					
		食品科学概論				2				
		食品開発論				2				
		食品産業の危機管理						2		
		#薬用植物と生薬					1.5			
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬						1.5		
		#生命情報と遺伝子					1.5			
		#生体の情報伝達					1.5			
		#化学物質と毒性						1.5		
		#地球・生活環境と健康						1.5		
		#薬理作用と薬物治療の基礎						1.5		
		#神経系の疾患と薬					1.5			
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬					1.5			
		#免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬						1.5		
		#感染症と薬					1.5			
		#香粧品の科学							1	
		#サプリメントと保健機能食品の科学					1			
自由科目 (教員免許取得関係科目)		教職概論	2							
		特別活動の指導	2		2					
		教育方法論	2			2				
		理科教育法Ⅳ	2					2		
		教育相談の理論と方法	2			2				
		特別支援教育概論	1			1				
		教育実習事前事後指導	1						1	
		教育実習Ⅰ	2						2	
		教育実習Ⅱ	2						2	
		教職実践演習(中・高)	2							2
		学習支援実地演習Ⅰ	1	1						
		学習支援実地演習Ⅱ	1			1				
		学習支援実地演習Ⅲ	1					1		

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。

*の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の4付表

別表第1の4と別表第1の1・1の2の授業科目の対応表

平成29年度及び平成30年度の入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2の授業科目」欄も開講されていない場合は、「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の4の授業科目 (平成29年度及び平成30年度入学生の配当科目)	別表第1の2の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
1年次セミナー	初年次セミナー	フレッシュャーズ・セミナー
スタートアップセミナー		早期体験学習
基礎経済学	基礎経済学Ⅰ	基礎経済学Ⅰ
生物学Ⅰ	生物学Ⅱ	生物学Ⅱ
生物学Ⅰ演習	生物学Ⅱ演習	生物学Ⅱ演習
特別活動の指導	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬

別表第2の4

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	18単位 (実験4単位を必ず含む)	47単位 (実験7単位を必ず含む)	66単位 (実験9単位を必ず含む)
教養選択科目	8単位	8単位	8単位

別表第2の4付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	13.5	15.5	13	17	18	2	10	
学 期 累 積	13.5	29	42	59	77	79	89	
学 年 計	29		30		20		10	
2年次進級単位数	18							
3年次進級単位数	47							
4年次進級単位数	66							

別表第2の4付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目		合 計
		共通科目	コース別科目	
必修科目	12単位	47単位	30単位	89単位
選択科目	14単位以上	—	21単位以上	35単位以上
合 計	26単位以上	47単位	51単位以上	124単位以上

別表第1の5

応用生命科学部応用生命科学科授業科目単位配分表〔平成28年度1年次入学生に適用〕

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (11単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	1年次セミナー	1	1							
	スタートアップセミナー	2	2							
	生命情報科学概論	1	1							
	生命情報科学演習Ⅰ	0.5	0.5							
	生命情報科学演習Ⅱ	0.5		0.5						
	健康管理	2		2						
教養選択科目 (15単位以上)	外国語3単位以上 [ドイツ語、中国語、 韓国語は、それぞ れのⅠを履修しなけ ればそのⅡを履修 できない]	コミュニケーション英語Ⅰ	1	1						
		コミュニケーション英語Ⅱ	1		1					
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1				1			
		TOEIC英語Ⅱ	1					1		
		ドイツ語Ⅰ	1			1				
		ドイツ語Ⅱ	1				1			
		中国語Ⅰ	1			1				
		中国語Ⅱ	1				1			
		韓国語Ⅰ	1			1				
		韓国語Ⅱ	1				1			
		海外語学研修	1			1				
	自然科学系 4単位以上	基礎数学	2	2						
		物理学	2	2						
		地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
	社会・人文科学系 4単位以上	バイオとフードに関する経済	2		2					
		バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
		キャリア教育	1			1				
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		キャリア形成実践演習	1			1				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
		キャリアアップセミナー	0.5		0.5					
	体育	研究室探訪	0.5			0.5				
		スポーツ	1	1						
専門必修科目 (81単位)	共通必修科目 (51単位)	生物学Ⅰ	2	2						
		生物学Ⅰ演習	1	1						
		生物学Ⅱ	2		2					
		生物学Ⅱ演習	1		1					
		化学Ⅰ	2	2						
		化学Ⅰ演習	1	1						
		化学Ⅱ	2		2					
		化学Ⅱ演習	1		1					
		無機化学	2			2				
		有機化学Ⅰ	2			2				
		有機化学Ⅰ演習	1			1				
		有機化学Ⅱ	2				2			
		生化学Ⅰ	2			2				

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (81単位)	共通必修科目 (51単位)	生化学Ⅱ	2				2				
		生物有機化学	2				2				
		物理化学	2		2						
		分析化学	2			2					
		機器分析学	2				2				
		微生物科学	2			2					
		細胞生物学	2			2					
		分子生物学	2				2				
		生物工学	2			2					
		環境科学Ⅰ	2		2						
		食品化学	2			2					
		応用生命科学特別講義	2					2			
		科学技術英語	1						1		
		応用生命科学基礎実験Ⅰ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅱ	1	1							
		応用生命科学基礎実験Ⅲ	1		1						
		応用生命科学基礎実験Ⅳ	1		1						
		応用生命科学入門実験	1			1					
	バイオ工学コース 必修科目 (30単位)	微生物バイオテクノロジー	2					2			
		植物バイオテクノロジー	2				2				
		動物バイオテクノロジー	2					2			
		植物生理学	2				2				
		有機合成化学	2					2			
		機能形態学	2				2				
		細胞免疫学	2					2			
		バイオインフォマティクス	2					2			
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	環境科学コース 必修科目 (30単位)	環境科学Ⅱ	2				2				
		資源循環論	2				2				
		バイオインフォマティクス	2					2			
		有機合成化学	2					2			
		微生物バイオテクノロジー	2					2			
		環境汚染論	2				2				
		環境修復論	2					2			
		化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
		植物バイオテクノロジー実験	1				1				
		微生物・遺伝子工学実験	1				1				
		環境工学実験	1					1			
		有機化学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	食品科学コース 必修科目 (30単位)	食品微生物学	2					2			
		食品製造学	2					2			
		機能食品科学	2					2			
		食品分析学	2				2				
		栄養科学	2				2				
		発酵醸造学	2					2			
		食品酵素化学	2				2				
		栄養生理学	2					2			
		食品分析実験	1				1				
		食品機能実験	1				1				

区	分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1 年		2 年		3 年		4 年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (81単位)	食品科学コース 必修科目 (30単位)	食品製造・加工実験	1					1			
		食品安全実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
	理科教職コース 必修科目 (30単位)	*教育心理学	2				2				
		*教育課程論	2					2			
		*理科教育法Ⅱ	2				2				
		*理科教育法Ⅲ	2					2			
		*教育原論	2					2			
		*教育制度・行政	2					2			
		*教職演習Ⅰ	2				2				
		*教職演習Ⅱ	2					2			
		物理学実験	1				1				
		地学実験	1				1				
		有機化学実験	1					1			
		生化学・細胞工学実験	1					1			
		卒業研究	10							10	
専門選択科目（17単位以上） 専門選択科目には他コースのコース 別必修科目を含む。 ただし、自コースと共通の必修科目 は除く。 [食品安全学は食品微生物学の単位 を修得していなければ履修できない]		分子構造解析学	2						2		
		構造生物学とタンパク質工学	2					2			
		生体機能学	2					2			
		生体分子認識科学	2					2			
		植物育種学	2						2		
		植物環境学	2					2			
		環境分析化学	2						2		
		環境保全学	2					2			
		廃棄物管理工学	2						2		
		食品安全学	2						2		
		食中毒疫学	2						2		
		食品流通学	2						2		
		食品商品学	2					2			
		公衆衛生学	2						2		
		生物科学	2						2		
		食品の予防コントロール	2							2	
		*理科教育法Ⅰ	2			2					
		*生徒・進路指導の理論と方法	2						2		
		*道徳教育の指導法	2						2		
		食品管理論	2			2					
		歴史・風土から見た食環境	2			2					
		食文化論	2			2					
		食品科学概論	2				2				
		食品開発論	2				2				
		食品産業の危機管理	2						2		
		#薬用植物と生薬	1.5					1.5			
		#生薬と天然由来活性物質・漢方薬	1.5						1.5		
		#生命情報と遺伝子	1.5					1.5			
		#生体の情報伝達	1.5					1.5			
		#化学物質と毒性	1.5						1.5		
		#地球・生活環境と健康	1.5						1.5		
		#薬理作用と薬物治療の基礎	1.5						1.5		
		#神経系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#呼吸器系・消化器系の疾患と薬	1.5					1.5			
		#免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	1.5						1.5		
		#感染症と薬	1.5					1.5			
		#化粧品科学	1						1		
		#サプリメントと保健機能食品の科学	1					1			

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
自由科目 (教員免許取得関係科目)	教職概論	2	2							
	特別活動の指導	2		2						
	教育方法論	2			2					
	理科教育法Ⅳ	2						2		
	教育相談の理論と方法	2			2					
	教育実習事前事後指導	1								1
	教育実習Ⅰ	2								2
	教育実習Ⅱ	2								2
	教職実践演習(中・高)	2								2
	学習支援実地演習Ⅰ	1	1							
	学習支援実地演習Ⅱ	1			1					
	学習支援実地演習Ⅲ	1					1			

教員免許取得関係科目は卒業要件に含まない。
 *の科目は、理科教職コース以外の卒業要件には含まない。
 #の科目は、薬学部開講科目

別表第1の5付表

別表第1の5と別表第1の1・1の2の授業科目の対応表

平成28年度の入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2の授業科目」欄も開講されていない場合は、「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の5の授業科目 (平成28年度入学生の配当科目)	別表第1の2の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
1年次セミナー	初年次セミナー	フレッシュヤーズ・セミナー
スタートアップセミナー		早期体験学習
中国語Ⅰ	中国語	中国語
中国語Ⅱ		
韓国語Ⅰ	韓国語	韓国語
韓国語Ⅱ		
生物学Ⅰ	生物学Ⅱ	生物学Ⅱ
生物学Ⅰ演習	生物学Ⅱ演習	生物学Ⅱ演習
食品酵素化学	酵素化学	酵素化学
植物生理学	植物科学	植物科学
特別活動の指導	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法
免疫系・炎症・アレルギー、骨・関節の疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬	免疫系・炎症・アレルギー疾患と薬

別表第2の5

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	18単位 (実験4単位を必ず含む)	57単位 (実験7単位を必ず含む)	70単位 (実験9単位を必ず含む)
教養選択科目	8単位	13単位	15単位

別表第2の5付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目		合 計
		共通科目	コース別科目	
必修科目	11単位	51単位	30単位	92単位
選択科目	15単位以上	—	17単位以上	32単位以上
合 計	26単位以上	51単位	47単位以上	124単位以上

別表第2の5付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	13.5	15.5	21	17	14	1	10	
学 期 累 積	13.5	29	50	67	81	82	92	
学 年 計	29		38		15		10	
2年次進級単位数	18							
3年次進級単位数	57							
4年次進級単位数	70							

生命産業創造学科 授業科目単位配分表

別表第1の1

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表

(令和4年度1年次入学生より適用)

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (14単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	フレッシュヤーズ・セミナー	2	2							
	早期体験学習	1	1							
	健康管理	2		2						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	キャリア形成実践演習	1				1				
	◎情報リテラシー基礎	2	2							
	◎情報リテラシー応用	2		2						
教養選択科目 (12単位以上)	外国語 3 単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1	1						
		コミュニケーション英語Ⅱ	1		1					
		上級リーディング英語	1			1				
		TOEIC英語Ⅰ	1				1			
		TOEIC英語Ⅱ	1					1		
		◎ドイツ語	2	2						
		◎中国語	2	2						
		◎ロシア語	2	2						
		◎ロシア語	2	2						
		海外語学研修	1			1				
		ビジネス英語	1				1			
		ビジネス英語	1					1		
	自然科学系 2 単位以上	地学	2		2					
		確率と統計	2	2						
		◎気象学	1		1					
		◎昆虫と人のかかわり	1		1					
	社会・人文科学系 4 単位以上	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1					
		バイオとフードに関する法律	2		2					
		生命倫理	2	2						
		科学技術論	2	2						
		法学	2		2					
		歴史学	2	2						
		◎マス・メディア論	1	1						
		◎哲学	1		1					
		◎文化人類学	1		1					
		◎文化人類学	1		1					
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1				
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1					1		
	体育	◎スポーツ	1	1						
	専門医療薬学系科目	◎アロマセラピー	1	1						
専門必修科目 (50単位)	生物学入門	2	2							
	化学入門	2	2							
	食品・環境科学入門実験	2		2						
	地域活性化フィールドワークⅠ	2		2						
	学習論	2	2							
	ITアドバンスト	2			2					
	食品管理論	2			2					
	ブランド構築論	2			2					
	経営管理論	2	2							
	基礎経済学Ⅰ	2	2							
	基礎経済学Ⅱ	2		2						
	環境科学概論	2			2					

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (50単位)	社会調査論	2					2			
	地域産業ビジネス論	2			2					
	論理的思考論	2		2						
	レギュラトリーサイエンス	2					2			
	マーケティング論	2			2					
	経営組織論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	会計学	2		2						
	地域活性化フィールドワークⅡ	2					2			
	食品商品学	2					2			
	卒業研究Ⅰ	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3								3
専門選択科目 (48単位以上)	食文化論Ⅰ	2			2					
	食文化論Ⅱ	2			2					
	食品経済学	2				2				
	産業組織論	2			2					
	食品・植物資源論	2				2				
	食品開発論Ⅰ	2				2				
	サービス産業論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
	地域コミュニケーション演習	1			1					
	ビジネスプロデュース論	2					2			
	環境汚染論	2				2				
	農業経済学	2				2				
	商品デザイン論	2						2		
	研究入門	2					2			
	コンサルティング論	2					2			
	知的財産論	2						2		
	リサイクル論	2					2			
	食品製造論	2					2			
	環境技術論	2						2		
	食品開発論Ⅱ	2						2		
	食品産業の危機管理	2						2		
	ｂ食品化学	2			2					
	ｂ食品分析学	2				2				
	ｂ栄養科学	2				2				
	ｂ酵素化学	2				2				
	ｂ化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	ｂ食品微生物学	2					2			
	ｂ機能食品科学	2					2			
	ｂ発酵醸造学	2					2			
	ｂ栄養生理学	2					2			
	ｂ廃棄物管理工学	2						2		
	ｂ食品安全学	2						2		
	ｂ食品流通学	2						2		
	ｂ公衆衛生学	2						2		
	ｂ食品の予防コントロール	2							2	
	＃香粧品の科学	1						1		
自由科目	教育心理学	2				2				

ｂの科目は、応用生命科学に関連が深い科目

＃の科目は、薬学部開講科目

○の科目は、他学部との共通科目

別表第2の1

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教養 選択科目	4単位	8単位	12単位
専門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の1付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	16	17	13	3	8	1	3	3
学 期 累 積	16	33	46	49	57	58	61	64
学 年 計	33		16		9		6	
2年次進級単位数	22							
3年次進級単位数	38							
4年次進級単位数	47							

別表第2の1付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	14単位	50単位	64単位
選択科目	12単位以上	48単位以上	60単位以上
合 計	26単位以上	98単位以上	124単位以上

別表第1の2

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表

(令和3年度1年次入学生、及び令和4年度の2年次に編入した学生に適用、ただし令和2年度入学生の休学生を含む)

区 分		授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
				1	2	3	4	5	6	7	8
				1年		2年		3年		4年	
				前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (11単位)		英語Ⅰ	1	1							
		英語Ⅱ	1		1						
		初年次セミナー	3	3							
		健康管理	2		2						
		データサイエンス入門	1		1						
		英語Ⅲ	1			1					
		英語Ⅳ	1				1				
		キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (13単位以上)	外国語 3単位以上	コミュニケーション英語Ⅰ	1	1							
		コミュニケーション英語Ⅱ	1		1						
		上級リーディング英語	1			1					
		TOEIC英語Ⅰ	1				1				
		TOEIC英語Ⅱ	1					1			
		中国語	2			2					
		韓国語	2			2					
		海外語学研修	1			1					
		ビジネス英語	1					1			
	自然科学系 2単位以上	基礎数学	2	2							
		地学	2		2						
		確率と統計	2	2							
		生命情報科学概論	1	1							
	社会・人文科学系 4単位以上	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1						
		バイオとフードに関する法律	2		2						
		生命倫理	2	2							
		科学技術論	2	2							
		法学	2		2						
		歴史学	2	2							
	キャリア教育	職業とキャリア形成Ⅰ	1				1				
		大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2				2				
		大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2				2				
		職業とキャリア形成Ⅱ	1						1		
	体育	スポーツ	1	1							
専門必修科目 (54単位)		生物学入門	2	2							
		化学入門	2	2							
		食品・環境科学入門実験	2		2						
		地域活性化フィールドワークⅠ	2		2						
		学習論	2	2							
		ITリテラシー基礎	2	2							
		ITリテラシー応用	2		2						
		ITアドバンスト	2			2					
		食品管理論	2			2					
		ブランド構築論	2			2					
		経営管理論	2	2							
		基礎経済学Ⅰ	2	2							
		基礎経済学Ⅱ	2		2						
		環境科学概論	2			2					
		社会調査論	2					2			
		地域産業ビジネス論	2			2					
		論理的思考論	2		2						
		レギュラトリーサイエンス	2					2			
		マーケティング論	2			2					

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (54単位)	経営組織論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	会計学	2		2						
	地域活性化フィールドワークⅡ	2					2			
	食品商品学	2					2			
	卒業研究Ⅰ	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3								3
専門選択科目 (46単位以上)	食文化論Ⅰ	2			2					
	食文化論Ⅱ	2			2					
	食品経済学	2				2				
	産業組織論	2			2					
	食品・植物資源論	2				2				
	食品開発論Ⅰ	2				2				
	サービス産業論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
	地域コミュニケーション演習	1				1				
	ビジネスプロデュース論	2					2			
	環境汚染論	2				2				
	農業経済学	2				2				
	商品デザイン論	2						2		
	研究入門	2					2			
	コンサルティング論	2					2			
	知的財産論	2						2		
	リサイクル論	2					2			
	食品製造論	2					2			
	環境技術論	2						2		
	食品開発論Ⅱ	2						2		
	食品産業の危機管理	2						2		
	ｂ食品化学	2			2					
	ｂ食品分析学	2				2				
	ｂ栄養科学	2				2				
	ｂ酵素化学	2				2				
	ｂ化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	ｂ食品微生物学	2					2			
	ｂ機能食品科学	2					2			
	ｂ発酵醸造学	2					2			
	ｂ栄養生理学	2					2			
	ｂ廃棄物管理工学	2						2		
	ｂ食品安全学	2						2		
	ｂ食品流通学	2						2		
	ｂ公衆衛生学	2						2		
	ｂ食品の予防コントロール	2							2	
	#香粧品の科学	1						1		
自由科目	教育心理学	2				2				

ｂの科目は、応用生命科学に関連が深い科目

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の2付表

別表第1の2と別表第1の1の授業科目の対応表

令和3年度入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の右欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の2の授業科目 (令和3年度入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度入学生の配当科目)
初年次セミナー	フレッシュヤーズ・セミナー
	早期体験学習
ITリテラシー基礎	情報リテラシー基礎
ITリテラシー応用	情報リテラシー応用
韓国語	コリア語

別表第2の2

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	38単位	47単位
教養 選択科目		8単位	12単位
専門 選択科目		10単位	36単位

別表第2の2付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	16	18	13	3	8	1	3	3
学 期 累 積	16	34	47	50	58	59	62	65
学 年 計	34		16		9		6	
2年次進級単位数	22							
3年次進級単位数	38							
4年次進級単位数	47							

別表第2の2付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	11単位	54単位	65単位
選択科目	13単位	46単位以上	59単位以上
合 計	24単位以上	100単位以上	124単位以上

別表第1の3

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表

(平成31年度及び令和2年度1年次入学生に適用、ただし令和2年度入学生の休学生を除く)

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (10単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	初年次セミナー	3	3							
	健康管理	2		2						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	キャリア形成実践演習	1				1				
教養選択科目 (14単位以上)	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1						
	バイオとフードに関する法律	2		2						
	生命倫理	2	2							
	科学技術論	2	2							
	法学	2		2						
	歴史学	2	2							
	基礎数学	2	2							
	地学	2		2						
	確率と統計	2	2							
	スポーツ	1	1							
	生命情報科学概論	1	1							
	コミュニケーション英語Ⅰ	1	1							
	コミュニケーション英語Ⅱ	1		1						
	上級リーディング英語	1			1					
	TOEIC英語入門	1				1				
	TOEIC英語基礎	1					1			
	中国語Ⅰ	1			1					
	中国語Ⅱ	1				1				
	韓国語Ⅰ	1			1					
	韓国語Ⅱ	1				1				
	海外語学研修	1			1					
	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1					
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2					
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2					
	職業とキャリア形成Ⅱ	1						1		
	英語Ⅴ	1					1			
	英語Ⅵ	1						1		
専門必修科目 (56単位)	生物学入門	2	2							
	化学入門	2		2						
	食品・環境科学入門実験	2	2							
	地域活性化フィールドワークⅠ	2		2						
	学習論	2	2							
	ITリテラシー基礎	2	2							
	ITリテラシー応用	2		2						
	食品管理論	2			2					
	食文化論Ⅰ	2			2					
	食文化論Ⅱ	2			2					
	ブランド構築論	2			2					
	経営管理論	2	2							
	基礎経済学	2	2							
	食品・植物資源論	2				2				
	食品開発論Ⅰ	2				2				
	環境科学概論	2			2					
	社会調査論	2			2					
	地域産業ビジネス論	2			2					

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (56単位)	論理的思考論	2		2						
	レギュラトリーサイエンス	2					2			
	マーケティング論	2		2						
	経営組織論	2		2						
	農業ビジネス論Ⅰ	2		2						
	地域活性化フィールドワークⅡ	2					2			
	食品商品学	2					2			
	卒業研究Ⅰ	3							3	
	卒業研究Ⅱ	3								3
専門選択科目 (44単位以上)	産業会計学	2		2						
	ITアドバンスト	2			2					
	食品経済学Ⅰ	2			2					
	サービス産業論	2				2				
	農業ビジネス論Ⅱ	2				2				
	地域コミュニケーション演習	1				1				
	起業論	2					2			
	低炭素論	2					2			
	環境汚染論	2				2				
	食品経済学Ⅱ	2				2				
	農業経済学	2				2				
	商品デザイン論	2						2		
	研究入門	2					2			
	コンサルティング論	2					2			
	知的財産論	2						2		
	リサイクル論	2					2			
	食品製造論	2					2			
	環境技術論	2						2		
	スマートシティ論	2						2		
	食品開発論Ⅱ	2						2		
	食品産業の危機管理	2						2		
	食品化学	2			2					
	食品分析学	2				2				
	栄養科学	2				2				
	酵素化学	2				2				
	化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	食品微生物学	2					2			
	機能食品科学	2					2			
	発酵醸造学	2					2			
	栄養生理学	2					2			
	廃棄物管理工学	2						2		
	食品安全学	2						2		
	食品流通学	2						2		
	公衆衛生学	2						2		
	食品の予防コントロール	2							2	
	#香粧品の科学	1						1		
自由科目	教育心理学	2				2				

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の3付表

別表第1の3と別表第1の1・1の2の授業科目の対応表

平成31年度及び令和2年度の入学生が左欄の科目を令和3年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の1の授業科目」欄の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の3の授業科目 (平成31年度及び令和2年度入学生の配当科目)	別表第1の2の授業科目 (令和3年度の入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
初年次セミナー	初年次セミナー	フレッシュャーズ・セミナー
		早期体験学習
TOEIC英語入門	TOEIC英語 I	TOEIC英語 I
TOEIC英語基礎	TOEIC英語 II	TOEIC英語 II
中国語 I	中国語	中国語
中国語 II		
韓国語 I	韓国語	コリア語
韓国語 II		
英語 V	ビジネス英語	ビジネス英語
ITリテラシー基礎	ITリテラシー基礎	情報リテラシー基礎
ITリテラシー応用	ITリテラシー応用	情報リテラシー応用
基礎経済学	基礎経済学 I	基礎経済学 I
産業会計学	会計学	会計学
起業論	ビジネスプロデュース論	ビジネスプロデュース論

別表第2の3

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	22単位	41単位	50単位
教養 選択科目	6単位	10単位	12単位
専門 選択科目		10単位	32単位

別表第2の3付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	14	19	15	5	6	1	3	3
学 期 累 積	14	33	48	53	59	60	63	66
学 年 計	33		20		7		6	
2年次進級単位数	22							
3年次進級単位数	41							
4年次進級単位数	50							

別表第2の3付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	10単位	56単位	66単位
選択科目	14単位以上	44単位以上	58単位以上
合 計	24単位以上	100単位以上	124単位以上

別表第1の4

応用生命科学部生命産業創造学科授業科目単位配分表（平成30年度までの入学生に適用）

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1年		2年		3年		4年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
教養必修科目 (11単位)	英語Ⅰ	1	1							
	英語Ⅱ	1		1						
	1年次セミナー	1	1							
	スタートアップセミナー	2	2							
	健康管理	2		2						
	英語Ⅲ	1			1					
	英語Ⅳ	1				1				
	英語Ⅴ	1					1			
	英語Ⅵ	1						1		
教養選択科目 (10単位以上)	バイオとフードを巡る国際関係論	1		1						
	バイオとフードに関する法律	2		2						
	生命倫理	2	2							
	科学技術論	2	2							
	法学	2		2						
	歴史学	2	2							
	化学	2	2							
	生物学	2	2							
	基礎数学	2	2							
	地学	2		2						
	確率と統計	2	2							
	スポーツ	1	1							
	生命情報科学概論	1	1							
	コミュニケーション英語Ⅰ	1			1					
	コミュニケーション英語Ⅱ	1				1				
	上級リーディング英語	1			1					
	TOEIC英語入門	1		1						
	TOEIC英語基礎	1			1					
	中国語Ⅰ	1			1					
	中国語Ⅱ	1				1				
	韓国語Ⅰ	1			1					
	韓国語Ⅱ	1				1				
	海外語学研修	1			1					
	職業とキャリア形成Ⅰ	1			1					
	キャリア形成実践演習	1			1					
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2			2					
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2			2					
	職業とキャリア形成Ⅱ	1						1		
専門必修科目 (64単位)	基礎科学実験Ⅰ	1	1							
	基礎科学実験Ⅱ	1		1						
	地域活性化フィールドワークⅠ	2		2						
	地域活性化システム論	2	2							
	学習論	2	2							
	ITリテラシー基礎	2	2							
	ITリテラシー応用	2		2						
	コンビニエンスストア論	2		2						
	食品管理論	2			2					
	歴史・風土から見た食環境	2			2					
	中食・外食論	2			2					
	自然共生論	2		2						
	生命産業に関わる情報システム学	2		2						
	ブランド構築論	2			2					
	情報収集論	2				2				
	産業経営管理論	2			2					
	生命産業のビジネス論	2				2				

区 分	授 業 科 目	単位	配当学年・学期と単位数							
			1	2	3	4	5	6	7	8
			1 年		2 年		3 年		4 年	
			前	後	前	後	前	後	前	後
専門必修科目 (64単位)	生命産業経済学	2				2				
	食品科学概論	2				2				
	食品開発論	2				2				
	環境科学概論	2				2				
	生命産業に関わる法学	2				2				
	社会調査論	2					2			
	論理的思考論	2					2			
	産業プロデュース論	2					2			
	レギュラトリーサイエンス	2					2			
	産業マーケティング論	2					2			
	地域活性化フィールドワークⅡ	2						2		
	卒業研究	10								10
専門選択科目 (39単位以上) ◎プレゼンテーション論について、 平成27年度入学生および平成28年度 入学生は2年次前期配当科目とする。	1次産業論	2		2						
	2次産業論	2			2					
	3次産業論	2			2					
	6次産業化論	2				2				
	産業会計学	2		2						
	ITアドバンスト	2			2					
	食文化論	2			2					
	生命産業情報論	2				2				
	地域コミュニケーション演習	1			1					
	低炭素論	2					2			
	環境汚染論	2				2				
	コミュニケーション論	2		2						
	プレゼンテーション論 ◎	2	2							
	産業プロジェクト管理論	2					2			
	生命産業デザイン論	2						2		
	情報共有論	2					2			
	生命産業に関わるコンサルティング論	2					2			
	知的財産論	2						2		
	リサイクル論	2					2			
	食品香粧学	2						2		
	食品製造論	2					2			
	環境技術論	2						2		
	スマートシティ論	2						2		
	健康食品論	2						2		
	食品産業の危機管理	2						2		
	食品化学	2			2					
	食品分析学	2				2				
	栄養科学	2				2				
	酵素化学	2				2				
	化学工業とグリーンケミストリー	2					2			
	食品微生物学	2					2			
	機能食品科学	2					2			
	発酵醸造学	2					2			
	栄養生理学	2					2			
	食品商品学	2					2			
	廃棄物管理工学	2						2		
	食品安全学	2						2		
	食品流通学	2						2		
	公衆衛生学	2						2		
	食品の予防コントロール	2							2	
	#香粧品の科学	1						1		
自由科目	教育心理学	2				2				

#の科目は、薬学部開講科目

別表第1の4付表

別表第1の4と別表第1の1・1の2・1の3の授業科目の対応表

平成30年度以前の入学生が左欄の科目を令和4年度以降に履修する際、その授業科目が開講されていない場合は、同表の「別表第1の3の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の3の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとし、「別表第1の2の授業科目」欄の授業科目も開講されていない場合は、同表の「別表第1の1の授業科目」欄の授業科目の履修で読み替えるものとする。下表に定めのない授業科目は、それと名称が同じ授業科目を履修する。

別表第1の4の授業科目 (平成30年度までの入学生の配当科目)	別表第1の3の授業科目 (平成31年度及び令和2年度の入学生の配当科目)	別表第1の2の授業科目 (令和3年度の入学生の配当科目)	別表第1の1の授業科目 (令和4年度以降の入学生の配当科目)
1年次セミナー	初年次セミナー	初年次セミナー	フレッシュャーズ・セミナー
スタートアップセミナー			早期体験学習
英語Ⅴ	英語Ⅴ	ビジネス英語	ビジネス英語
化学	化学入門	化学入門	化学入門
生物学	生物学入門	生物学入門	生物学入門
TOEIC英語入門	TOEIC英語入門	TOEIC英語Ⅰ	TOEIC英語Ⅰ
TOEIC英語基礎	TOEIC英語基礎	TOEIC英語Ⅱ	TOEIC英語Ⅱ
中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	中国語	中国語
中国語Ⅱ	中国語Ⅱ		
韓国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	韓国語	コリア語
韓国語Ⅱ	韓国語Ⅱ		
基礎科学実験Ⅰ	食品・環境科学入門実験	食品・環境科学入門実験	食品・環境科学入門実験
基礎科学実験Ⅱ			
ITリテラシー基礎	ITリテラシー基礎	ITリテラシー基礎	情報リテラシー基礎
ITリテラシー応用	ITリテラシー応用	ITリテラシー応用	情報リテラシー応用
コンビニエンスストア論	食品経済学Ⅰ		
歴史・風土から見た食環境	食文化論Ⅰ	食文化論Ⅰ	食文化論Ⅰ
中食・外食論	食品経済学Ⅱ		
産業経営管理論	経営管理論	経営管理論	経営管理論
生命産業経済学	農業経済学	農業経済学	農業経済学
食品科学概論	食品・植物資源論	食品・植物資源論	食品・植物資源論
食品開発論	食品開発論Ⅰ	食品開発論Ⅰ	食品開発論Ⅰ
産業プロデュース論	起業論	ビジネスプロデュース論	ビジネスプロデュース論
産業マーケティング論	マーケティング論	マーケティング論	マーケティング論
1次産業論	農業ビジネス論Ⅰ	農業ビジネス論Ⅰ	農業ビジネス論Ⅰ
2次産業論	地域産業ビジネス論	地域産業ビジネス論	地域産業ビジネス論
3次産業論	サービス産業論	サービス産業論	サービス産業論
6次産業化論	農業ビジネス論Ⅱ	農業ビジネス論Ⅱ	農業ビジネス論Ⅱ
産業会計学	産業会計学	会計学	会計学
食文化論	食文化論Ⅱ	食文化論Ⅱ	食文化論Ⅱ
生命産業デザイン論	商品デザイン論	商品デザイン論	商品デザイン論
情報共有論	研究入門	研究入門	研究入門
生命産業に関わるコンサルティング論	コンサルティング論	コンサルティング論	コンサルティング論
健康食品論	食品開発論Ⅱ	食品開発論Ⅱ	食品開発論Ⅱ

別表第2の4

進級要件単位数

	1年次	2年次	3年次
必修科目	15単位	41単位	55単位
教養 選択科目	6単位	10単位	10単位
専門 選択科目		8単位	28単位

別表第2の4付表1

進級基準および学期進行にともなう必修科目の単位取得状況

学 期	1	2	3	4	5	6	7	8
学 年	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修単位数	11	14	11	15	11	3	0	10
学 期 累 積	11	25	36	51	62	65	65	75
学 年 計	25		26		14		10	
2年次進級単位数	15							
3年次進級単位数	41							
4年次進級単位数	55							

別表第2の4付表2

卒業要件単位区分表

区 分	教養科目	専門科目	合 計
必修科目	11単位	64単位	75単位
選択科目	10単位以上	39単位以上	49単位以上
合 計	21単位以上	103単位以上	124単位以上

資 料

履修登録について

事務部教務課

履修登録は、学期毎に指定された期間にインターネットに接続したPC等から行うことができます。
履修登録をしていない科目および登録に不備のある科目については授業に全て出席しても試験を受けることはできず、単位を取得できませんので、間違いのないように登録を完了してください。

1. 履修登録に必要な資料

- シラバス：今年度開講される科目の授業内容が記載されています。「応用生命科学部授業科目単位配分表」をよく読み、進級・卒業または資格取得のためにはどの科目を修得すればよいのかを確認し、各自で履修計画をたてなければなりません。特に留年を経験した学生や、再履修科目を履修しなければならない学生は、履修のルールをよく理解してください。
- 学生便覧：各学科の授業科目履修規程を各自で確認してください。
- 授業時間割表：今年度開講される各学年、各学科の全科目の時間割が記載されています。
- 成績通知書：直近に通知された「学業成績通知書」で単位の取得状況および平成 27 年度以降入学生はGPAをチェックしてください。

教務課ではいつでも皆さんからの履修相談に応じます。成績表の見方、進級に必要な科目や単位数、資格取得に必要な科目等何でも尋ねてください。相談の際は、上記の資料を持ってきてください。

2. 履修登録日程

項 目	前 期	夏期集中講義	後 期	注 意 等
Web 履修登録説明会 (前期・新入生のみ) ↓	4/6 (火)	—	—	新入生の皆さんはオリエンテーションで配布されている ID・パスワード通知書を必ず持参してください。また無くさないよう大切に保管してください。 <u>(再発行する場合は翌日発行となります)</u>
履修科目の選定 ↓ 再履修出席免除手続 ↓ 履修計画表に記入 ↓	授業開始後 ～	—	授業開始後 ～	選択科目は初回から積極的に参加して決めてください。 出席免除手続をする場合は、3. 再履修科目及び次年度科目の履修登録についての(1)を読んで手続してください。 予め履修計画表を作成して登録の準備をすると良いでしょう。
履修登録 本番 ↓	4/8(金)～ 4/14(木) 17:00	7/1(金)～ 7/5(火) 13:40	9/12(月)～ 9/16(金) 17:00	期間内は何度でも修正・登録可能。 <u>期間終了後の登録はできません！</u>
【重要】 時間割表の受領 <確認・修正> ↓	4/18(月)～ 4/20(水) 17:00	7/7(木)～ 7/11(月)	9/21(火)～ 9/26(月) 17:00	<u>確認用の時間割を必ず受領して、すぐに内容を確認。修正があれば、赤字で修正して教務課に再提出。修正がなければここで登録完了。</u>
時間割の最終確認	4/21(木)	7/12(火)	9/27(火)	修正版の時間割表を教務課で受け取り、確認して完了。 <u>確認を怠ったために、履修できなかった人が毎年います。各自の責任になりますので注意してください。</u>
履修登録取消期間	4/21(木)～ 4/25(月) 13:40	—	9/27(火)～ 10/3(月) 13:40	

3. 再履修科目及び次年次科目の履修登録について

(1) 再履修科目の出席免除を願い出る方は・・・

授業をしっかり受けて（3分の2以上出席して）試験を受けたけれども不合格となった必修科目（未修得必修科目）は、上級学年に進級しても合格するまで履修（再履修）し続けなければなりません。未修得必修科目と自分の今の学年の必修科目が同じ時間に開講されていて授業に出られない場合は、今いる学年の必修科目に出席しなければなりません。このような場合、届出することにより、未修得必修科目の担当教員が、授業への出席に代えて別の学習を指定することがあります。該当する場合は①②の手順で出席免除の手続きをしてください。

- ①事務室設置の『再履修科目の授業出席免除願』に必要事項を記入し、科目担当教員の許可（サイン、印鑑）を受けて教務課へ提出してください。
- ②提出後1日たってからWeb履修登録をしてください。（提出直後は出席免除コマがWeb上にアップされません。）再履修出席免除の授業は集中講義の欄に表示されます。

※再履修出席免除は科目担当者の判断で認められないこともあります。
その場合は翌年度以降に再履修してください。

(2) 留年経験のある方は・・・

時間割に余裕がある場合は次年次の授業も履修することができます。Webで履修登録する際は登録方法が少し複雑になりますので、事務室にマニュアルを取りに来てください。

4. 利用環境

【利用施設等】

- ・情報実習室、図書館等学内LANに接続のパソコンから利用できます。
- ・無線LAN使用可能エリア（A棟エントランスホール、B棟各講義室、C棟地下2階臨床大講義室及びロビー、C棟1階ロビー及びカフェテリア、C棟2階学生ロビー、D棟2階・3階ロビー、J棟1階図書館、J棟2階大講義室、J棟2階ロビー及び学生自習室、K棟体育館及びロビー、L棟（部室棟）共用スペース、新津駅東キャンパス）からも自分のパソコンを持ちこんで利用できます。
- ・学外からもアクセスできます。

【利用時間】

- ・利用時間は各施設の開放時間に準じます。

【その他】

- ・登録の際に不明な点がある場合は、教務課に問い合わせてください。
（ただし、平日17:00～08:30および土日祝日は対応できません）
- ・登録最終日は混雑しますので、なるべく早く履修計画を立てて、登録を済ませるよう心がけてください。

履修計画表

自分の履修計画を記入し、登録の際の資料にしてください。また、履修相談の際に利用してください。

◎自分の直近年度のGPA（ ）→今年度履修登録可能単位（ ）単位）

【前期】

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

実験・スポーツ等			
集中講義			
その他（出席免除科目等）			

【後期】

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					

実験・スポーツ等			
集中講義			
その他（出席免除科目等）			

履修登録単位数の確認

【入学年度と授業科目単位配分表の対応】(自分がどの別表か確認しましょう。)

	応用生命科学科	生命産業創造学科
別表第1の1	22S～	22S～
別表第1の2	21S	21S
別表第1の3	19S、20S	19S、20S
別表第1の4	17S、18S	～18S
別表第1の5	16S	－

※例えば、学籍番号21Sは2021年度入学生を意味します。

※転学部、転学科などを含む編入した学生は、上記表に適用しないため、事務部教務課に確認してください。

【履修単位数確認表】①～⑦の順に、合計単位数が履修登録単位数の上限内に収まるように単位数を入れてください。

学年	前期	後期	合計	
① 教養必修(在籍年次)				←自分の入学年度に応じた別表第○の1付表1を確認する。
③ 教養必修(過年次)				※前年度以前の未修得科目(1年生はなし) 再履修出席免除の単位数も含む。
⑤ 教養選択				
② 専門必修(在籍年次)				←自分の入学年度に応じた別表第○の1付表1を確認する。
④ 専門必修(過年次)				※前年度以前の未修得科目(1年生はなし) 再履修出席免除の単位数も含む。
⑦ 専門選択				
⑥ 自由科目				※2019年度までの入学生は除外します。
△ 夏期集中講義科目				←除外します。
合計				※履修登録単位数の上限を上回っていないことを確認してください。
今年度履修登録単位数の上限				

【入学年度の履修登録単位数の上限】

2020年度以降入学生は49単位

【2年次以降の前年度GPAとCAPの対応表】

	2020年度以降入学生		2019年度までの入学生	
前年度GPA	応用生命科学科	生命産業創造学科	応用生命科学科	生命産業創造学科
3.0以上	49		59	58
2.5以上3.0未満	48		57	56
1.5以上2.5未満			53	52
1.5未満	47		49	48

教職課程について

教職課程運営委員会

【中高免許の取得と 2021 年度までの実績について】

応用生命科学部応用生命学科では、教職課程を履修することにより「中学校教諭一種免許状（理科）」「高等学校教諭一種免許状（理科）」を取得することができます。

年度によって差はありますが、毎年15～30人程度が教職課程を履修しています。教員免許を取得するためには、ある程度余分に単位を取得しなければなりません。たとえば1年生では「教職概論」などを卒業に必要な124単位以外に、自由科目として取得する必要があります。また、これ以外にも教員免許取得のためには、教養選択科目（自然科学系）として「物理学」「地学」、4年次の教育実習なども必ず受講する必要があります。つまり、教員免許を取得するためには、1年生の時から教職科目を計画的に履修していく必要があります。途中から教職課程を始めるのは原則的にはできません。1年次最初から必要な単位の履修することを心がけましょう。詳細は4月の授業開始後に教職オリエンテーションを行いますので、まず参加してみてください。

2021年度4年生の教員免許取得者は10人でした。このうち9人が教員採用試験に臨み、3人が現役で教員採用試験（新潟県、長野県、岐阜県）に合格しました。

また昨年までに卒業した既卒生を含めると、教職コースの学生は7年間で46名が正規採用されており、この教員就職率は、新潟県はもちろん教職課程を持つ私学ではトップクラスです。その他の卒業生も教員志望者は講師として教壇に立っています。また教職大学院に進学して更に学びを継続している学生もいて、いずれも最終的には正規教員として採用されることを目指しています。

【小学校免許の取得について】

中学校教職課程履修者は、明星大学との教育業務提携により、在学時に小学校教諭二種免許状の取得が可能です。これは2年次4月から科目等履修生として学修を開始し、通信教育を利用して卒業までの3年間で免許を取得するものです。2020年度には初めて小学校で正規採用者が出ました。履修に関する経費など、詳細は毎年11月頃説明会を開催します。

教職課程の履修は、免許状（資格）を取得するだけでなく、学習支援実地演習や教育実習など、多様な子ども／大人との関わりがあり、コミュニケーションや自己表現の能力等、汎用的な資質・能力を育成する価値ある学びの機会です。



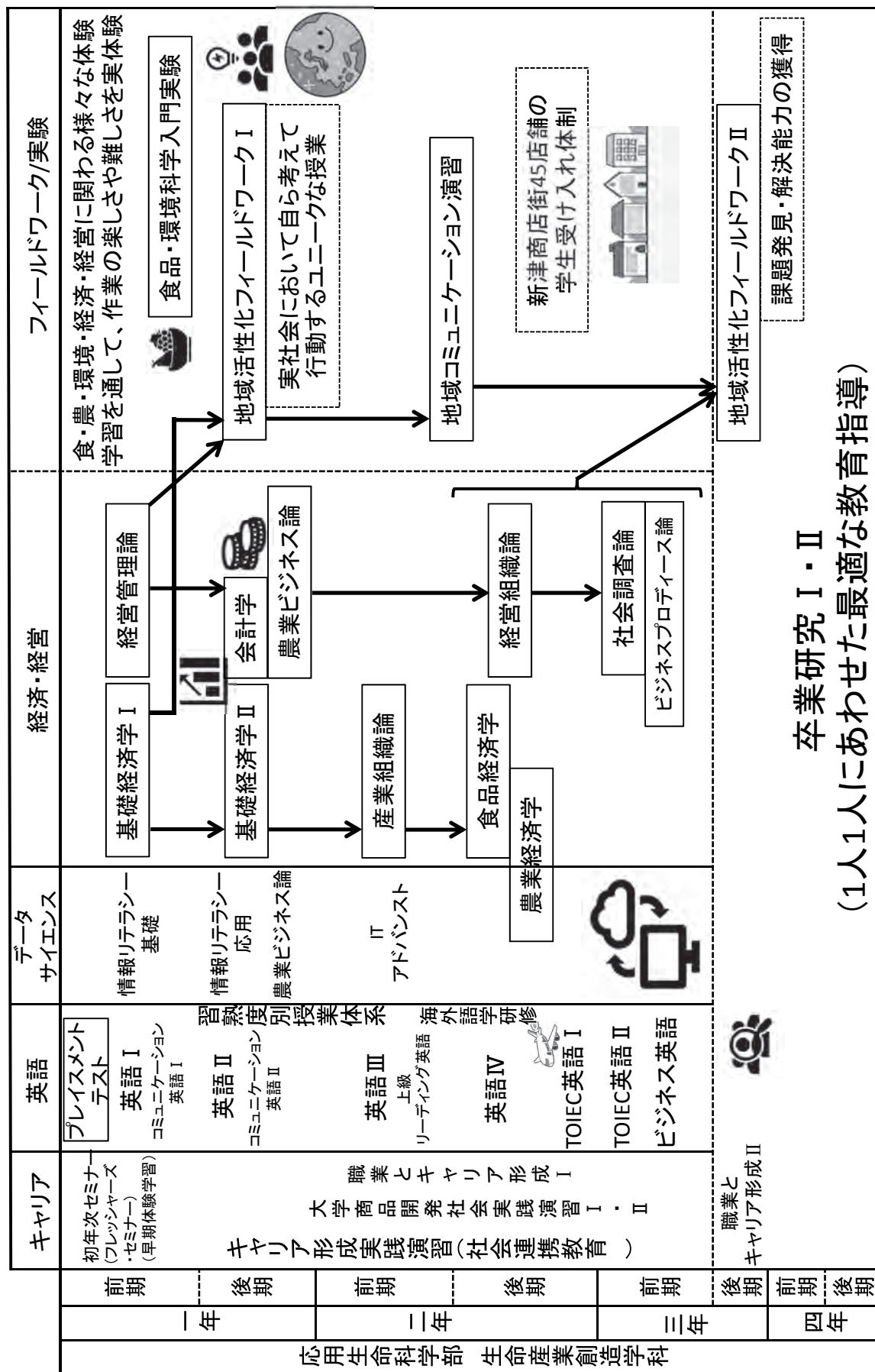
令和2年度以前
の入学生

応用生命科学部 シームレス教育プログラム(応用生命科学科)

		キャリア	英語	情報	生物・化学		
前期	後期	 初年次 セミナー	プレイスメント テスト	生命情報 科学概論	基礎生物学Ⅰ、Ⅱ (知識提供、問題発見)	生物学Ⅰ、Ⅱ (問題解決)	生物学演習Ⅰ、Ⅱ (知識定着確認)
一年	二年		英語Ⅰ	生命情報科 学演習Ⅰ・Ⅱ	応用生命科学基礎実験Ⅱ・Ⅲ (予習重視型)		
前期	後期	職業とキャリア形成Ⅰ キャリア形成実践演習(社会連携教育)	英語Ⅱ		化学Ⅰ、Ⅱ (知識提供、問題発見)	化学演習Ⅰ、Ⅱ (知識定着確認)	基礎化学Ⅰ、Ⅱ (問題解決)
二年	三年		英語Ⅲ		応用生命科学基礎実験Ⅰ・Ⅳ (復習重視型)		
			英語Ⅳ	 適性別授業体系	 成績優秀者プログラム 早期研究室配属 (研究者育成へ向け、学びを研 究面、経済面からサポート)		
			TOEIC英語Ⅰ				
			TOEIC英語Ⅱ				
		職業と キャリア形成Ⅱ	卒業研究 (1人1人にあわせた最適な教育指導)				
後期	前期	後期					
前期	後期						
三年	四年						
応用生命科学部 応用生命科学科					大学院 応用生命科学研究科		
					特別大学院入試(特待生、学費半額免除)		

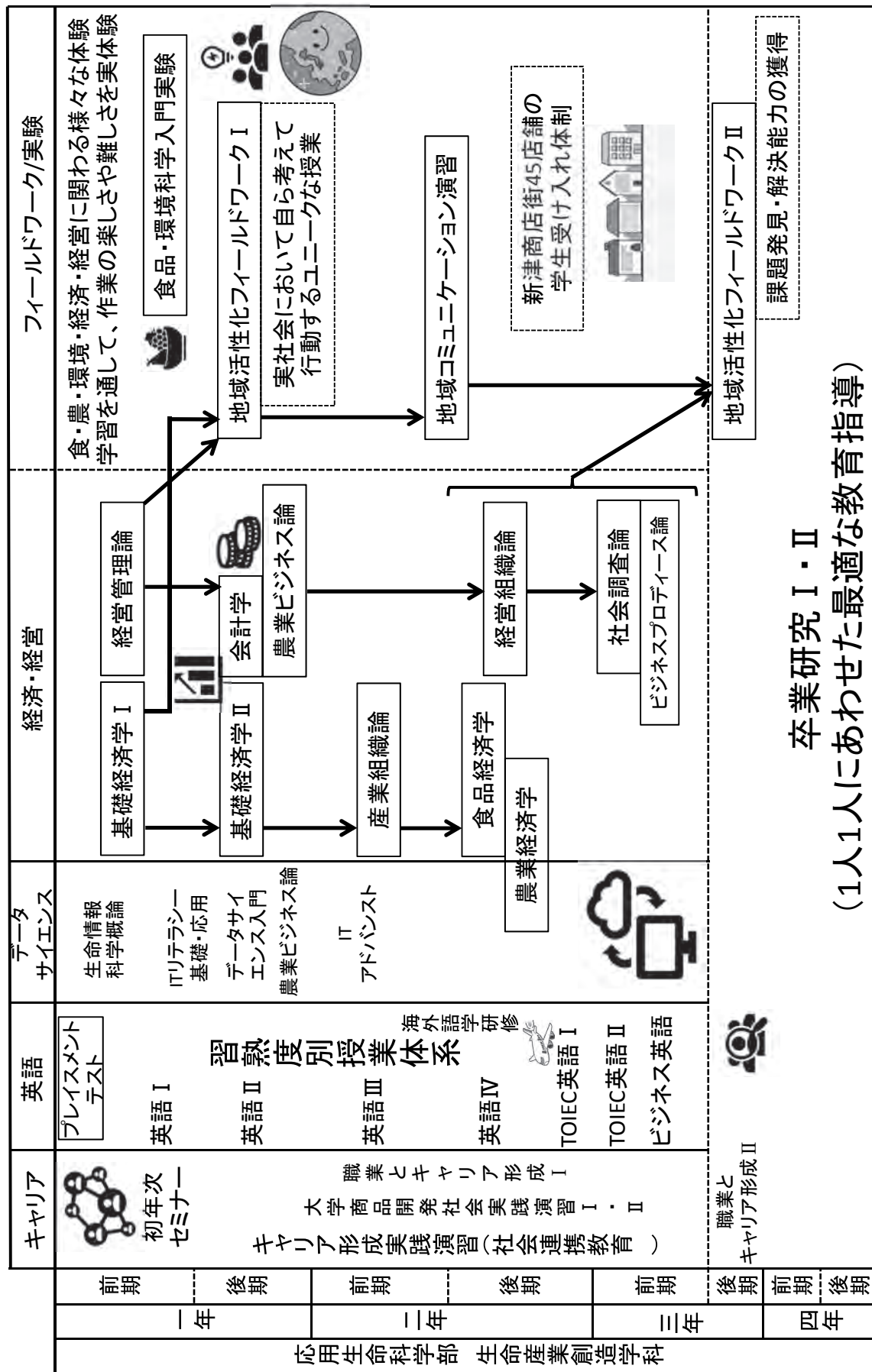
令和4年度以降
入学生

応用生命科学部 シームレス教育プログラム(生命産業創造学科)



令和3年度
入学生

応用生命科学部 シームレス教育プログラム(生命産業創造学科)



応用生命科学部 シームレス教育プログラム(生命産業創造学科)

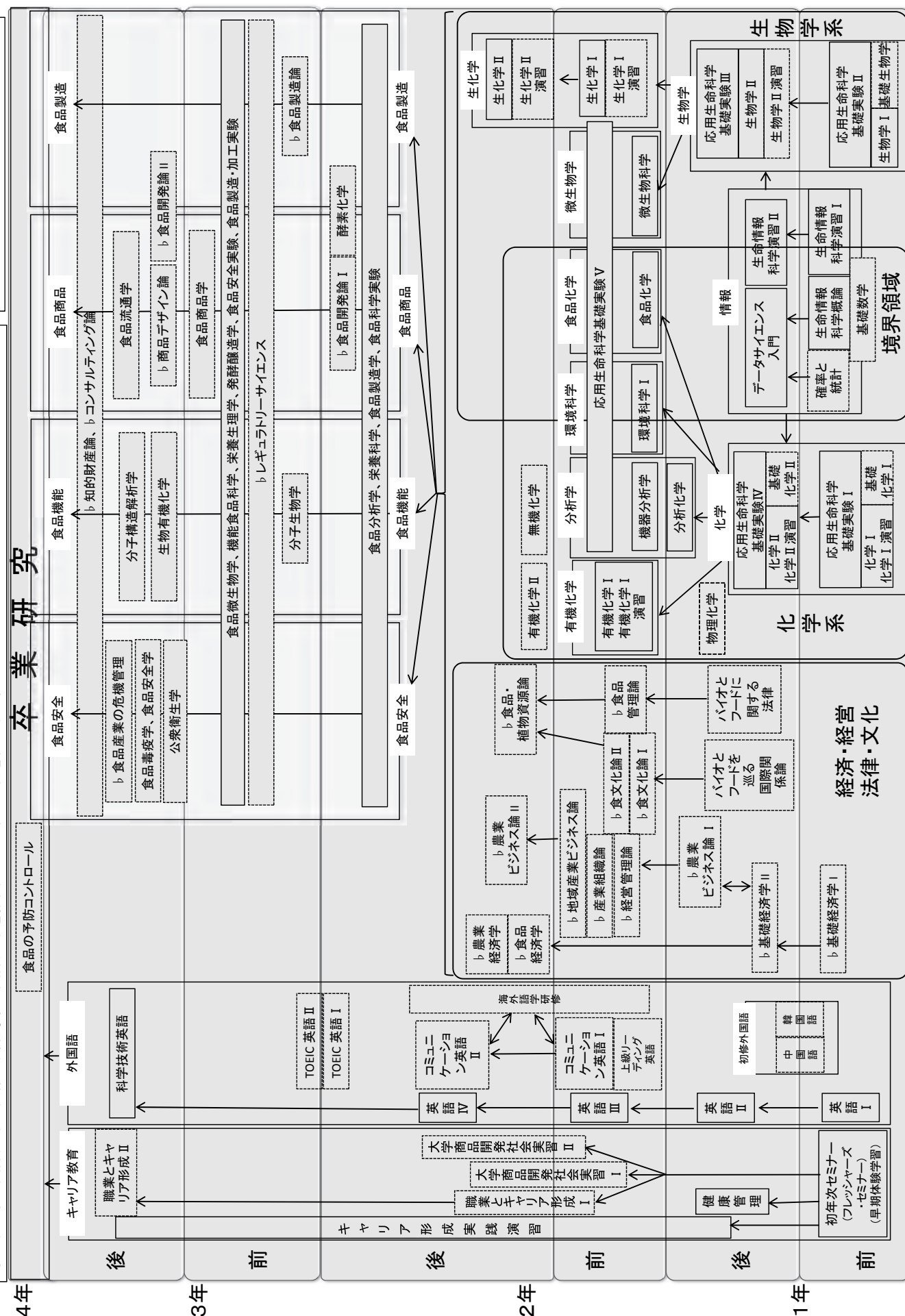
キャリア		英語	情報	フィールドワーク/実験
 初年次セミナー	キャリア形成実践演習(社会連携教育)	プレイスメントテスト 英語Ⅰ(初級) (文法、ライティング、リーディング)	ITリテラシー 基礎	食・農・環境・経営に関わる様々な体験学習を通して、作業の楽しさや難しさを実体験 食品・環境科学入門実験 地域活性化フィールドワークⅠ 実社会において自ら考えて行動するユニークな授業 新津商店街45店舗の学生受け入れ体制整う 地域活性化フィールドワークⅡ 課題発見・解決能力の獲得
		英語Ⅱ(初級) (文法、ライティング、リーディング)	ITリテラシー 応用	
職業とキャリア形成Ⅰ	職業とキャリア形成Ⅱ	英語Ⅲ(中級) (文法、ライティング、リーディング)	IT アドバンスト	
		英語Ⅳ(中級) (文法、ライティング、リーディング)	農業 ビジネス論	
		英語Ⅴ(上級) (オーラルコミュニケーション)		
		英語Ⅵ(上級) (オーラルコミュニケーション)		
前期	後期	前期	後期	
一年	二年	三年	四年	
応用生命科学部 生命産業創造学科				

卒業研究(1人1人に合わせた最適な教育指導)

食品科学コースカリキュラムツリー(2021年度以降の入学生に適用)

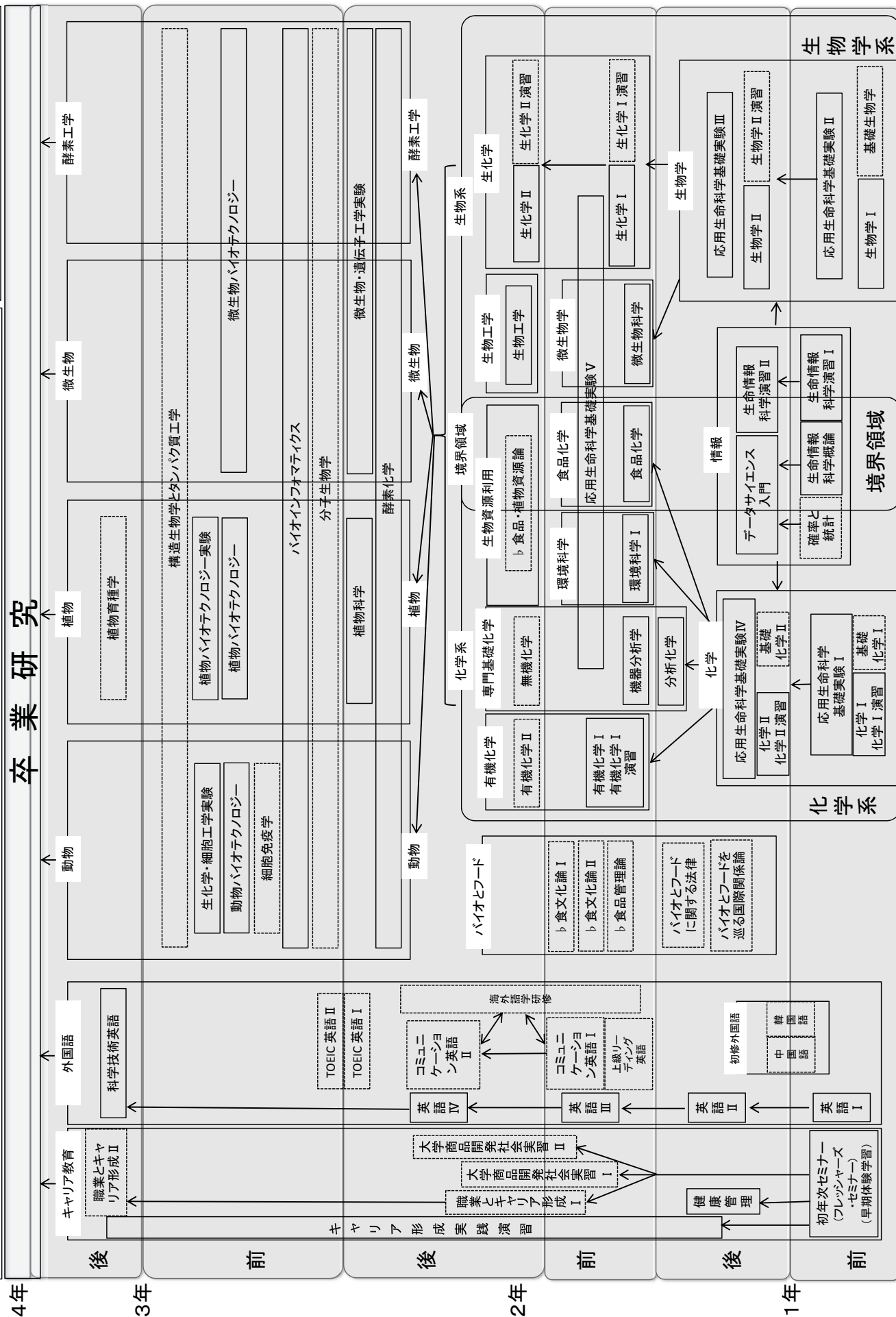
【人材像】食品の種類、安全性、成分、分析、機能、加工製造、流通、貯蔵、商品、商品開発、行政、文化、産業、マーケティングなどを幅広く学び、日本の食品産業に貢献し、新潟県の食品産業を振興できるような人材を育成する。

実線……必修科目、点線……選択科目
b……生命産業創造学に関連が深い科目



度以降の入学生に適用)

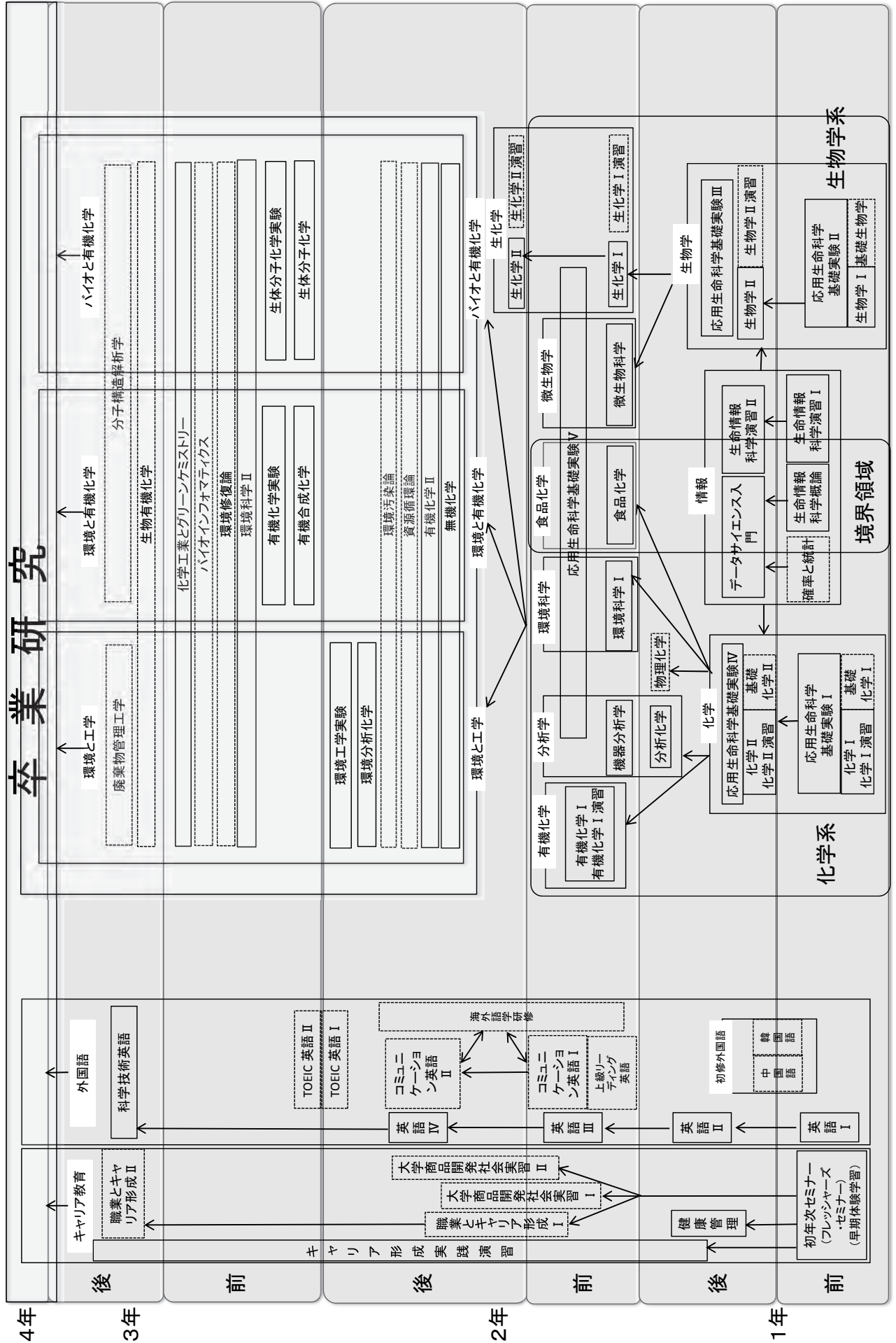
【人材像】動物・植物・微生物を対象に、生命科学の基礎を高度に利用でき、生物資源を高度に利用する専門分野で活躍することのできる人材を育成する。活躍できる分野として、医薬品(創薬)・化粧品・食品・農業・バイオ産業分野の研究者・技術者などが挙げられる。



生命環境化学コースカリキュラムツリー (2021年度以降の入学生に適用)

実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
 ↳・・・生命産業創造学に関連が深い科目

【人材像】医薬品・農薬・化粧品・プラスチック・機能性材料などの有機化合物を基盤とした化学産業、医薬品産業ならびに環境中の無機および有機化合物の挙動やリスク評価などを担う環境分析化学を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材を育成する。

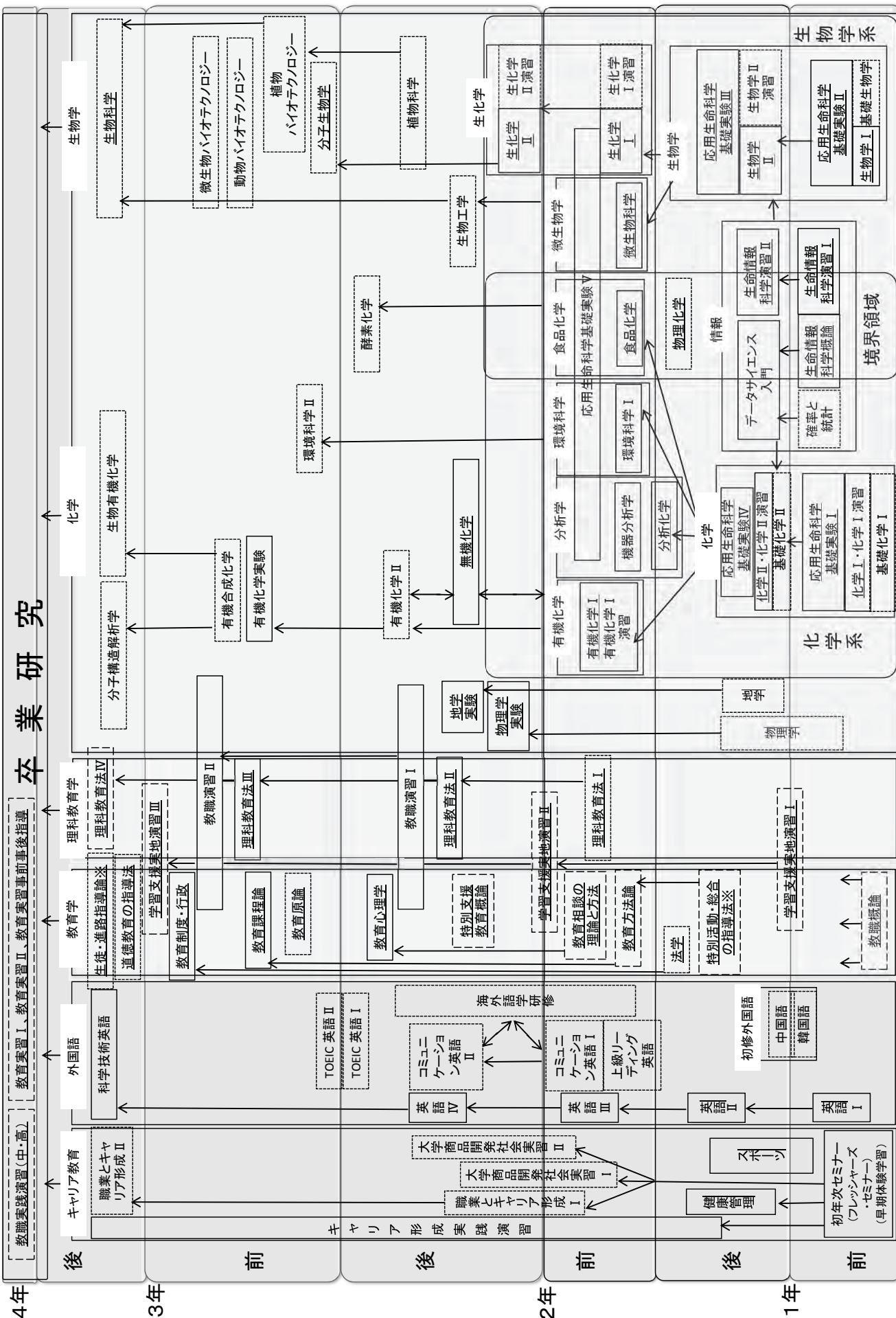


理科教職コースカリキュラムツリー

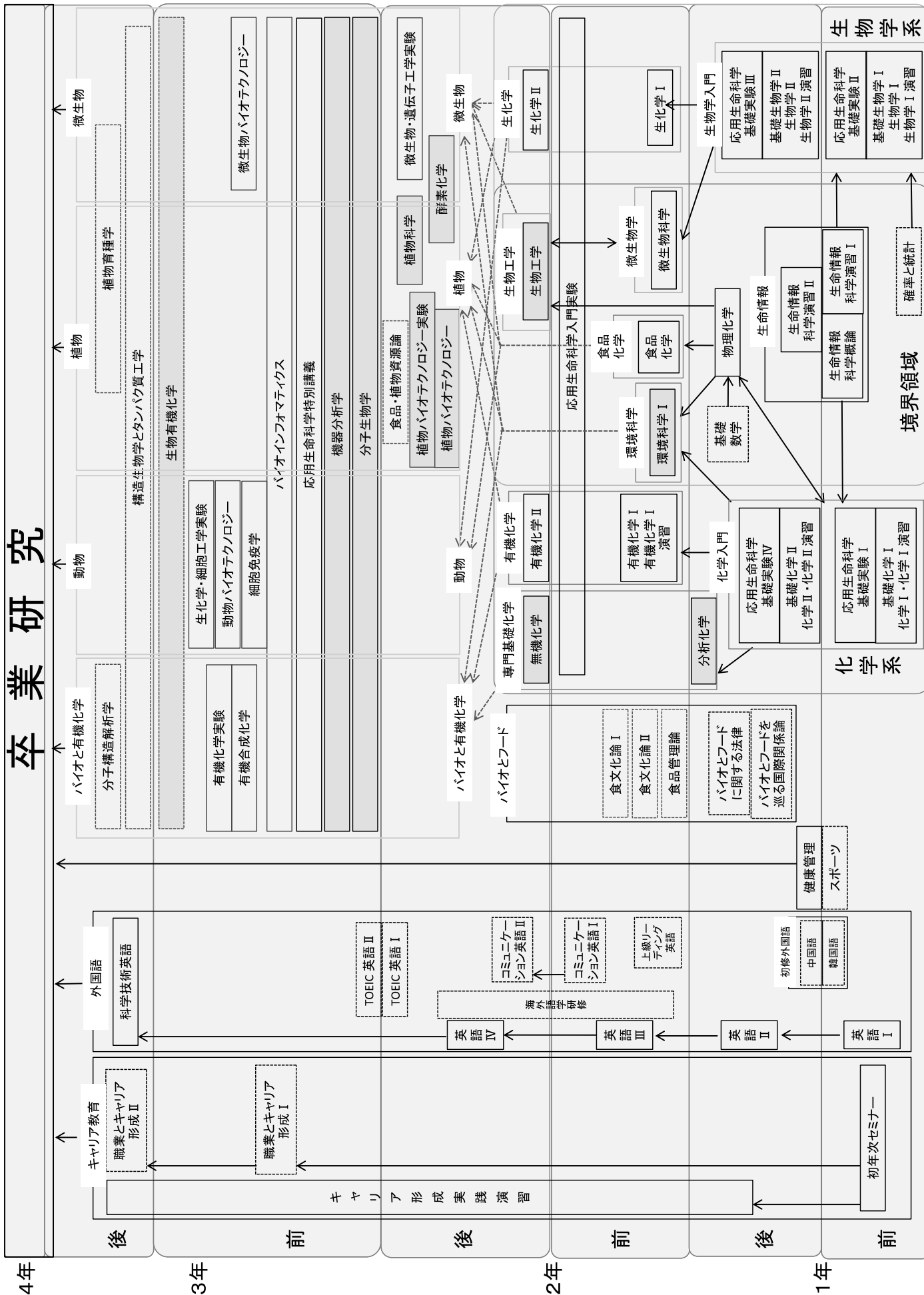
(2021年度以降の入学生に適用)

【人材像】理科中等教育関連領域において、高度な専門知識・技能を駆使して授業を実施し、学校の諸課題を実践的に解決する能力を育成する。

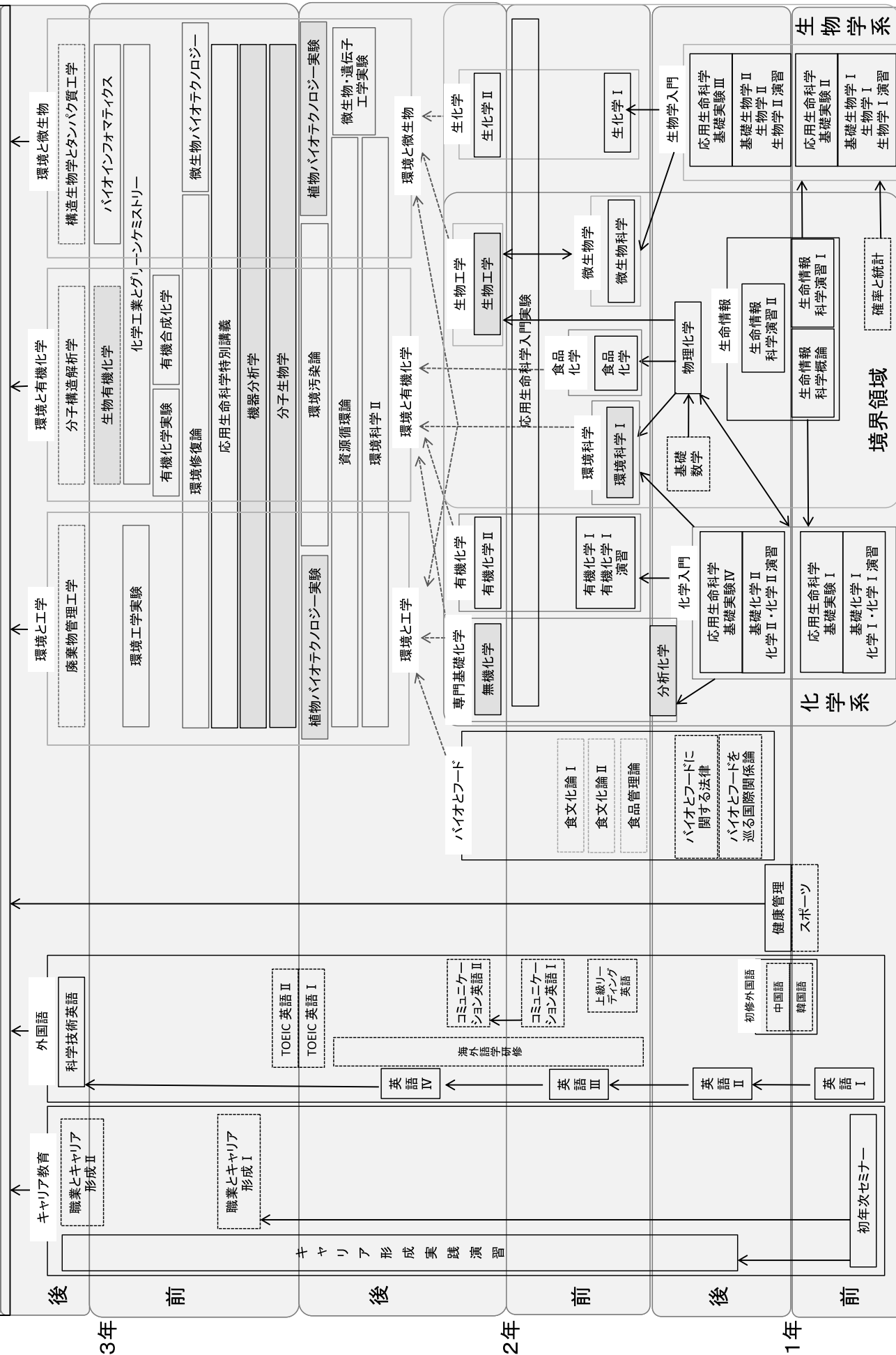
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目、破線・・・自由科目
下線・・・免許法上の必修科目 ※科目名を略称で表記

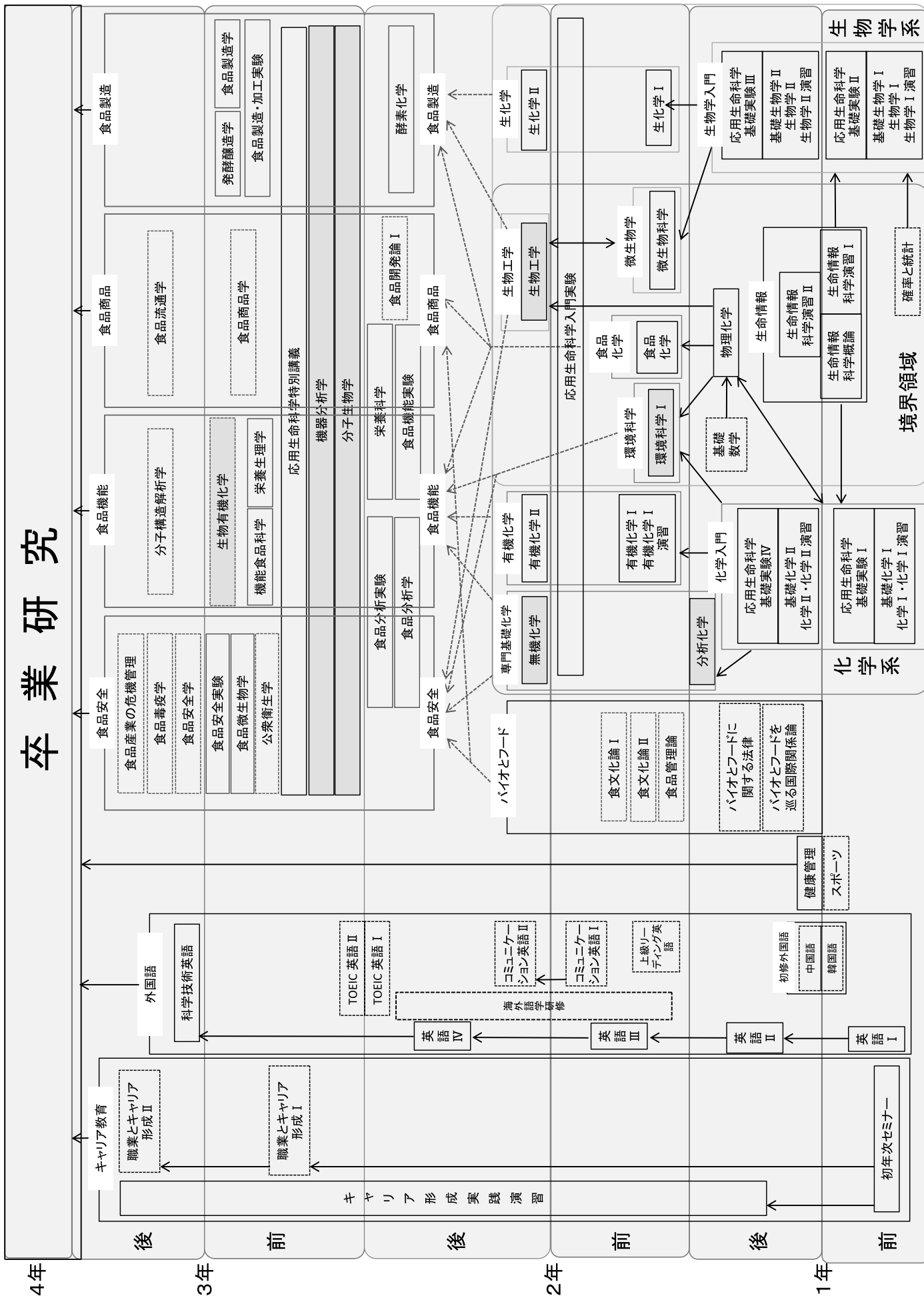


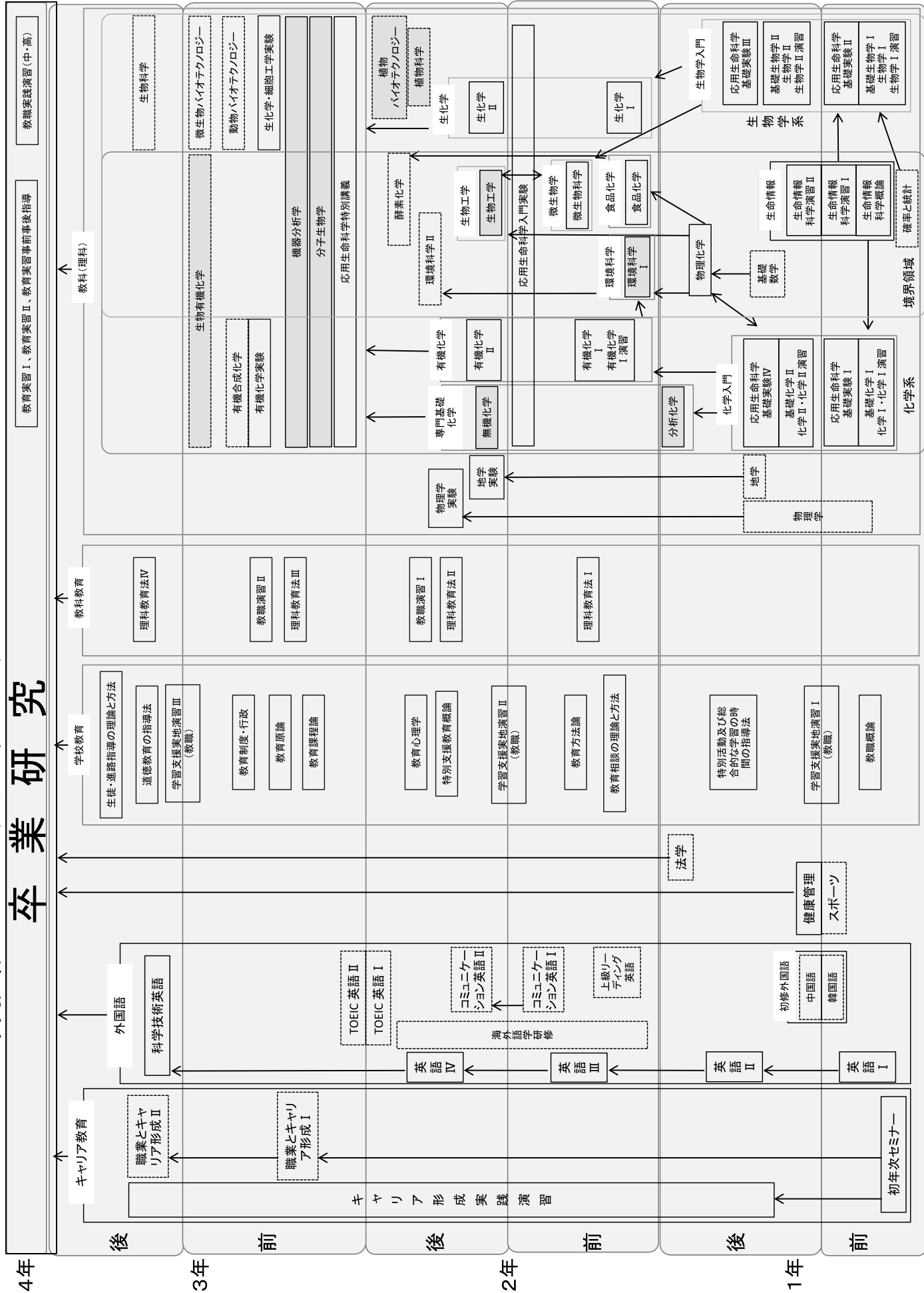
卒業研究

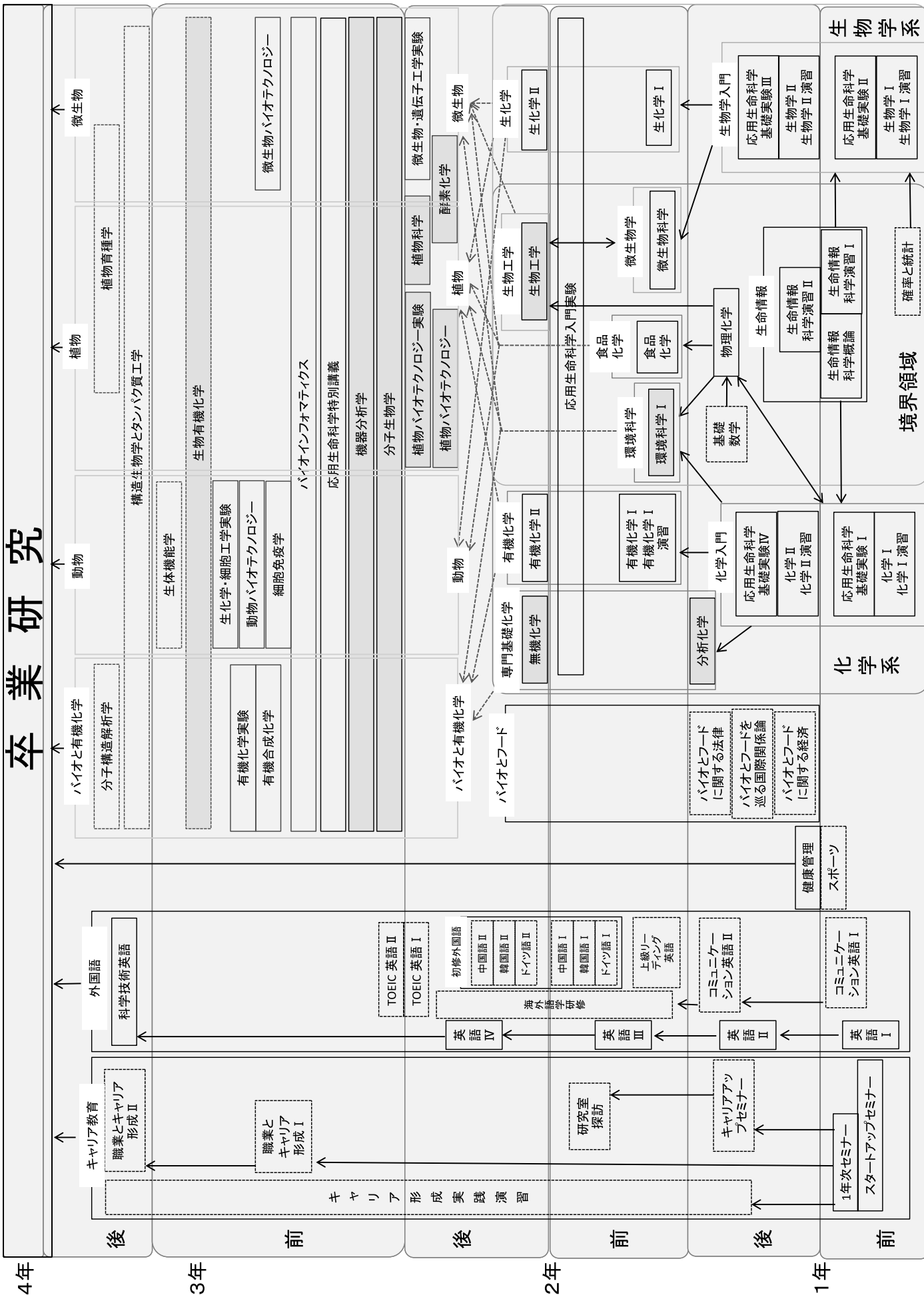


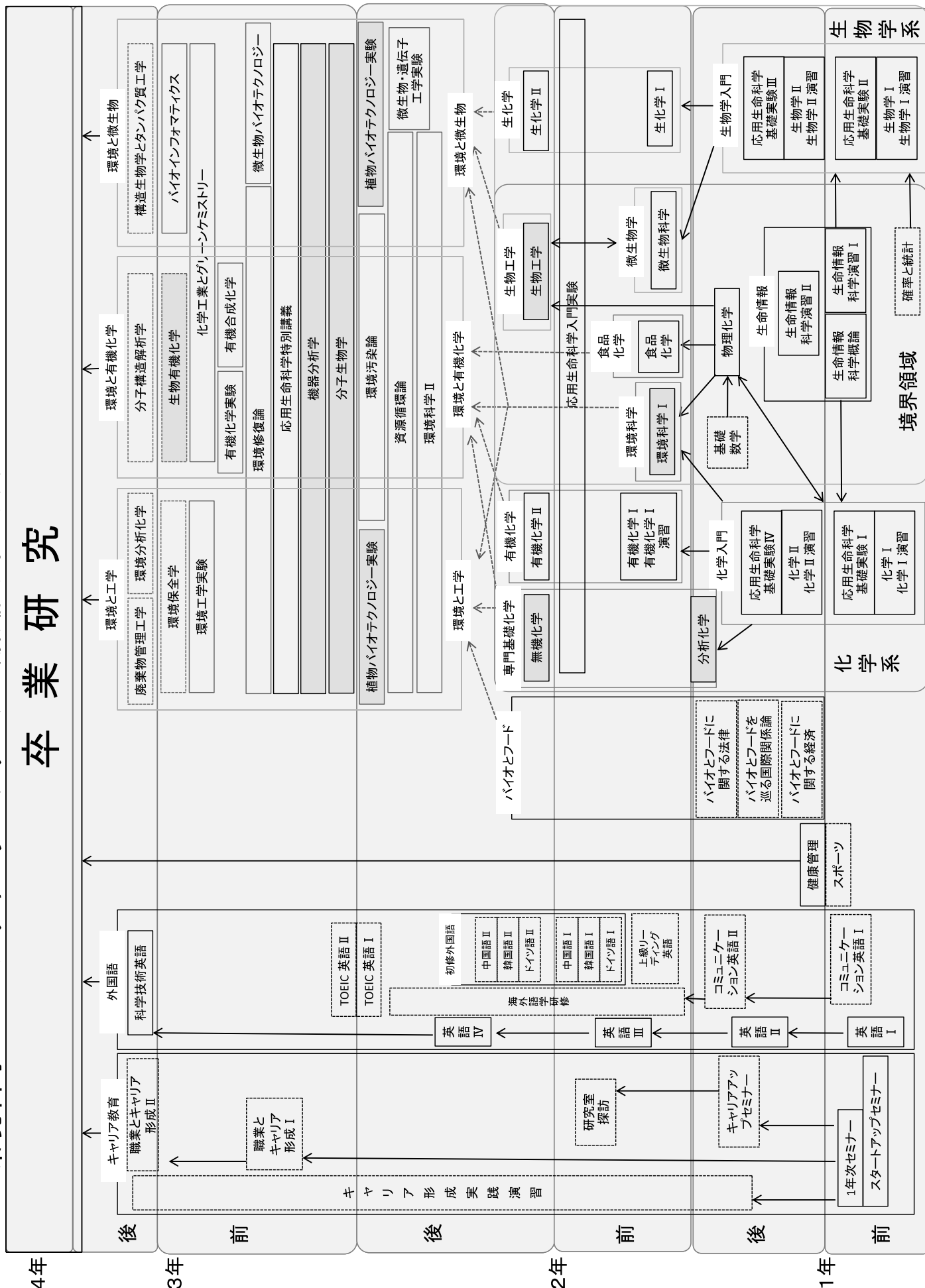
研究卒業

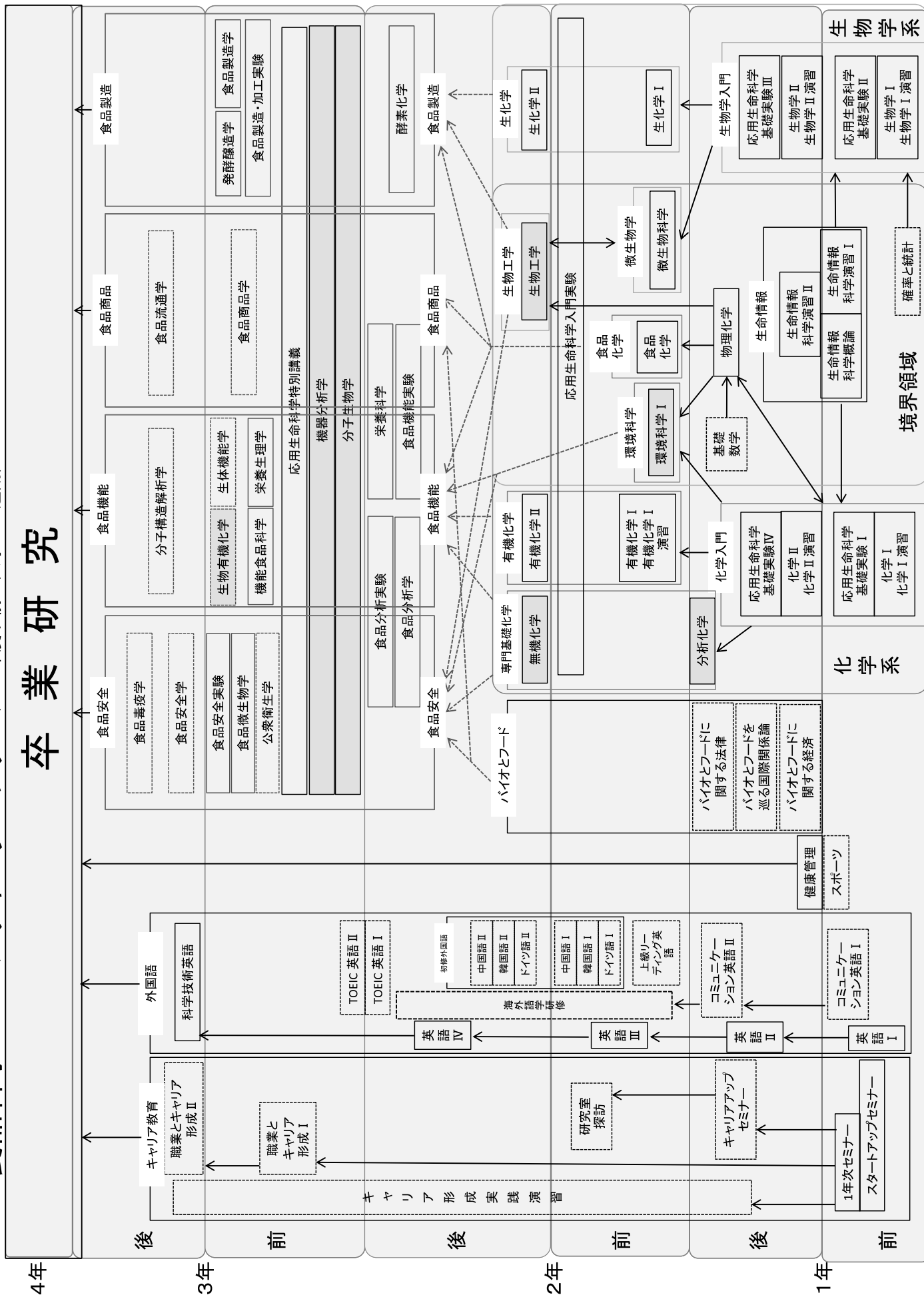




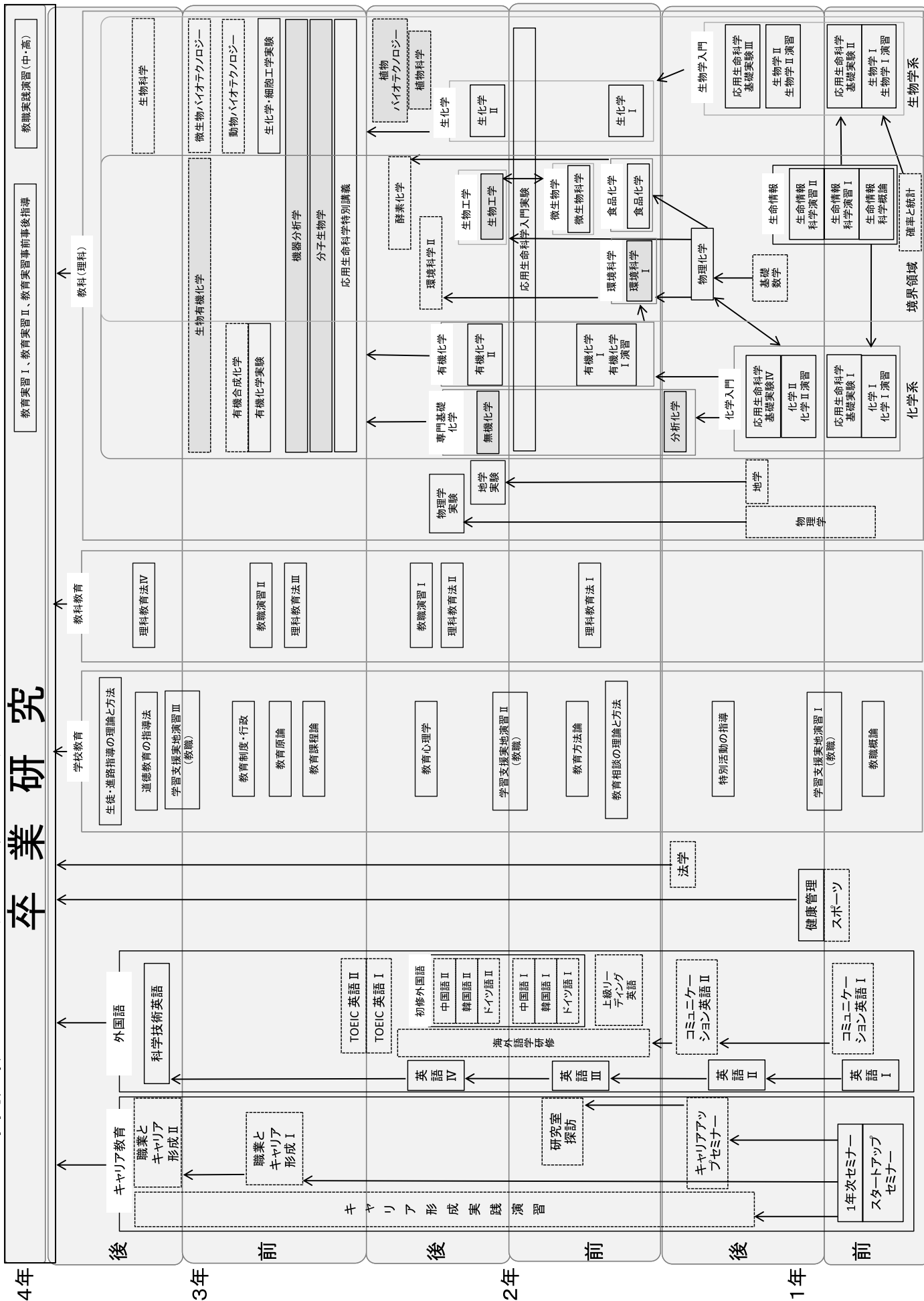








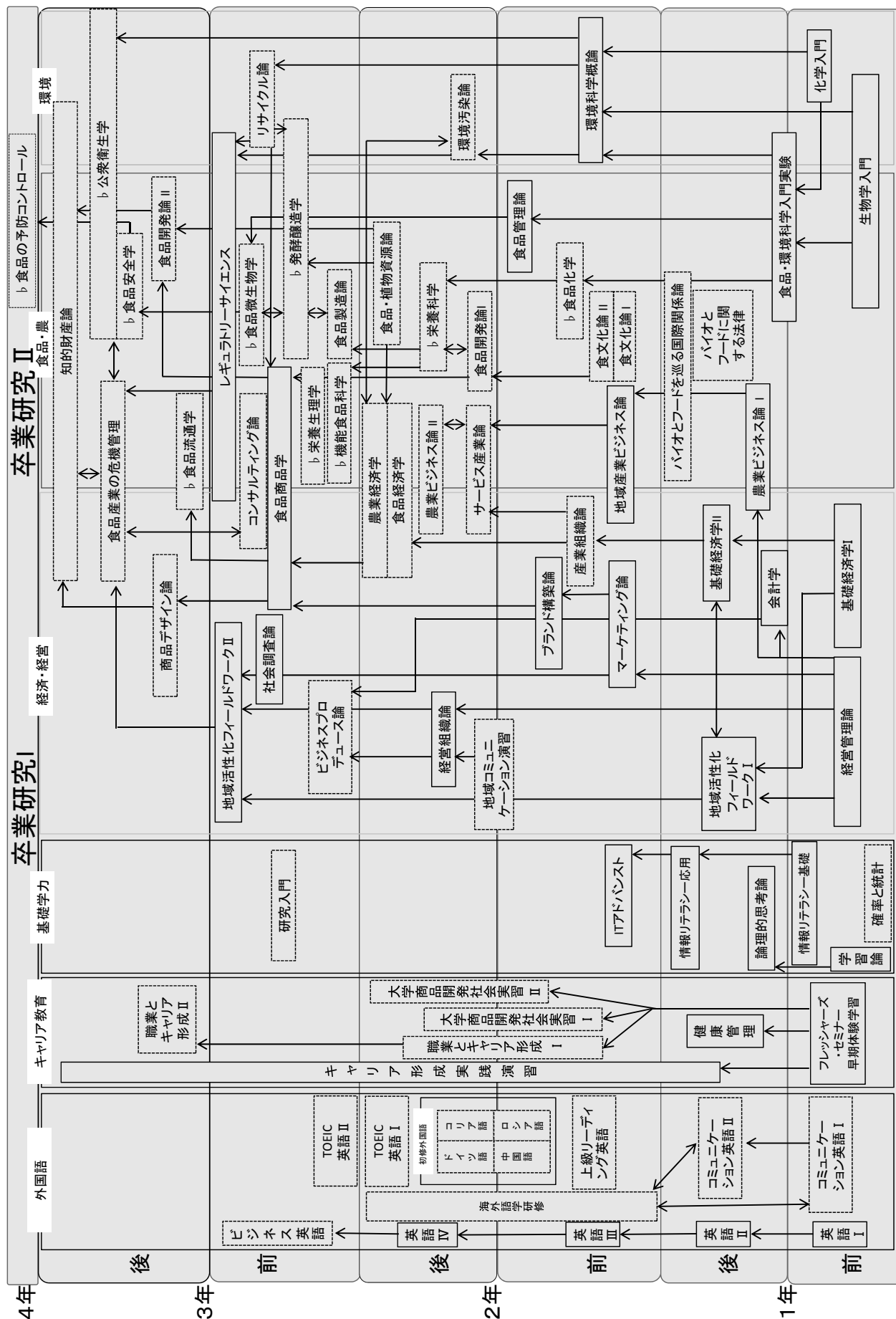
卒業研究



食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー（2022年度以降の入学生に適用）

【人材像】経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関とのコミュニケーション力を身に付けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関・農協等での農業政策の企画・運営、飲食品製造販売会社での商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

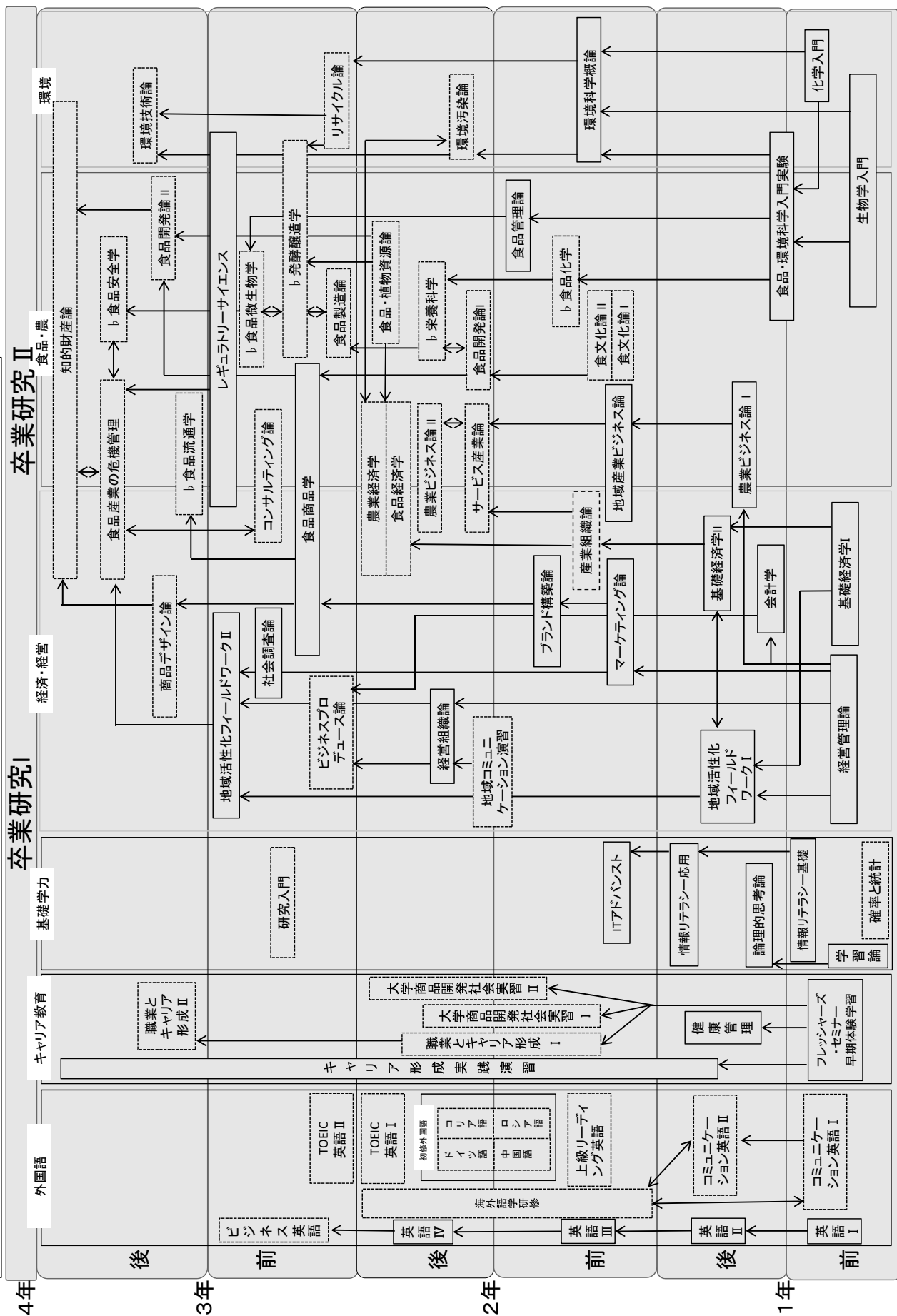
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
 ｂ・・・応用生命科学に関連が深い科目



経済学分野・経営学分野カリキュラムツリー（2022年度以降の入学生に適用）

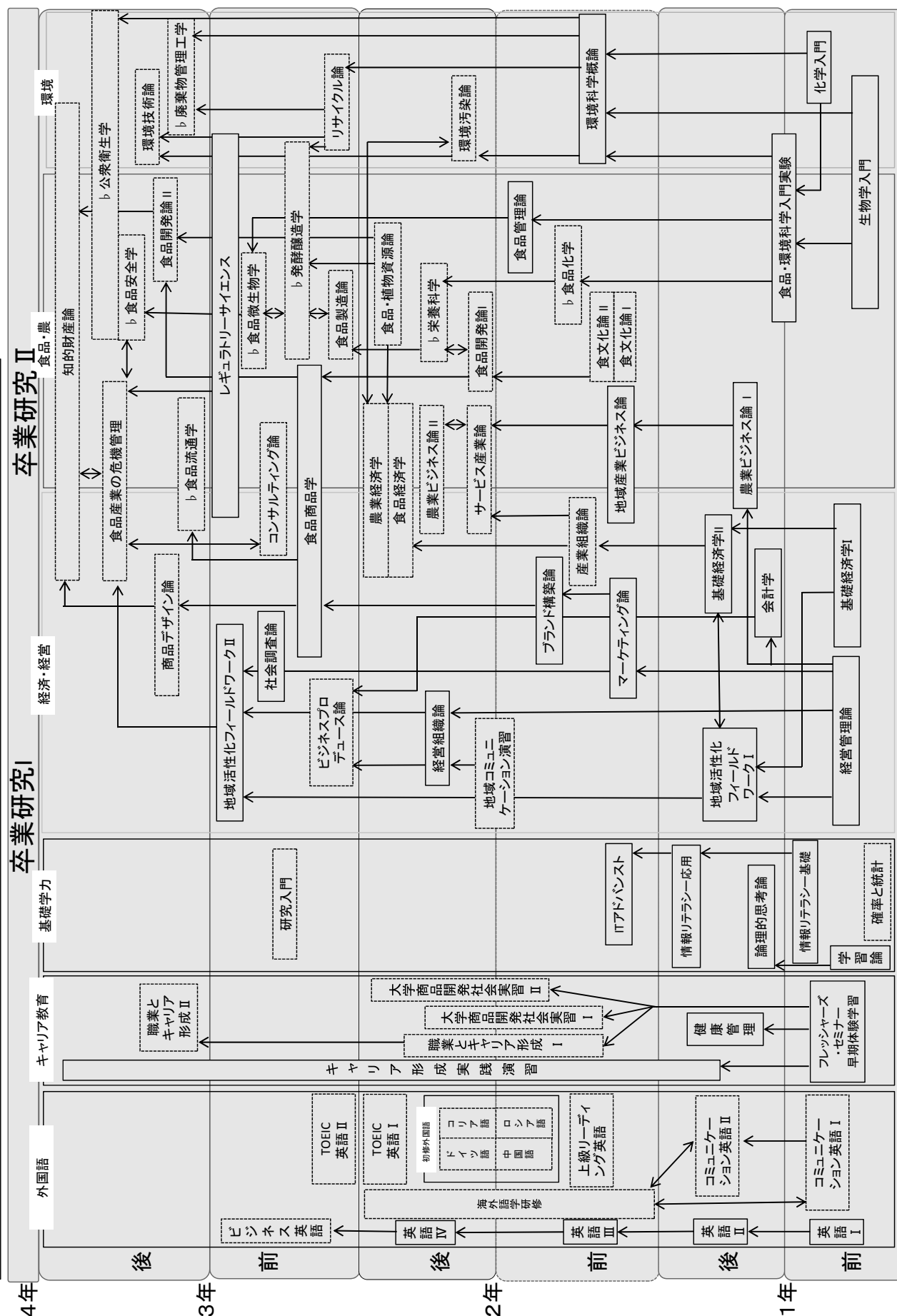
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
b・・・応用生命科学に関連が深い科目

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織(NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等)の企画・開発・製造・マーケティング・管理部門等経営に関する全般で活躍できる人材を育成する。



2022年度以降の入学生に適用)

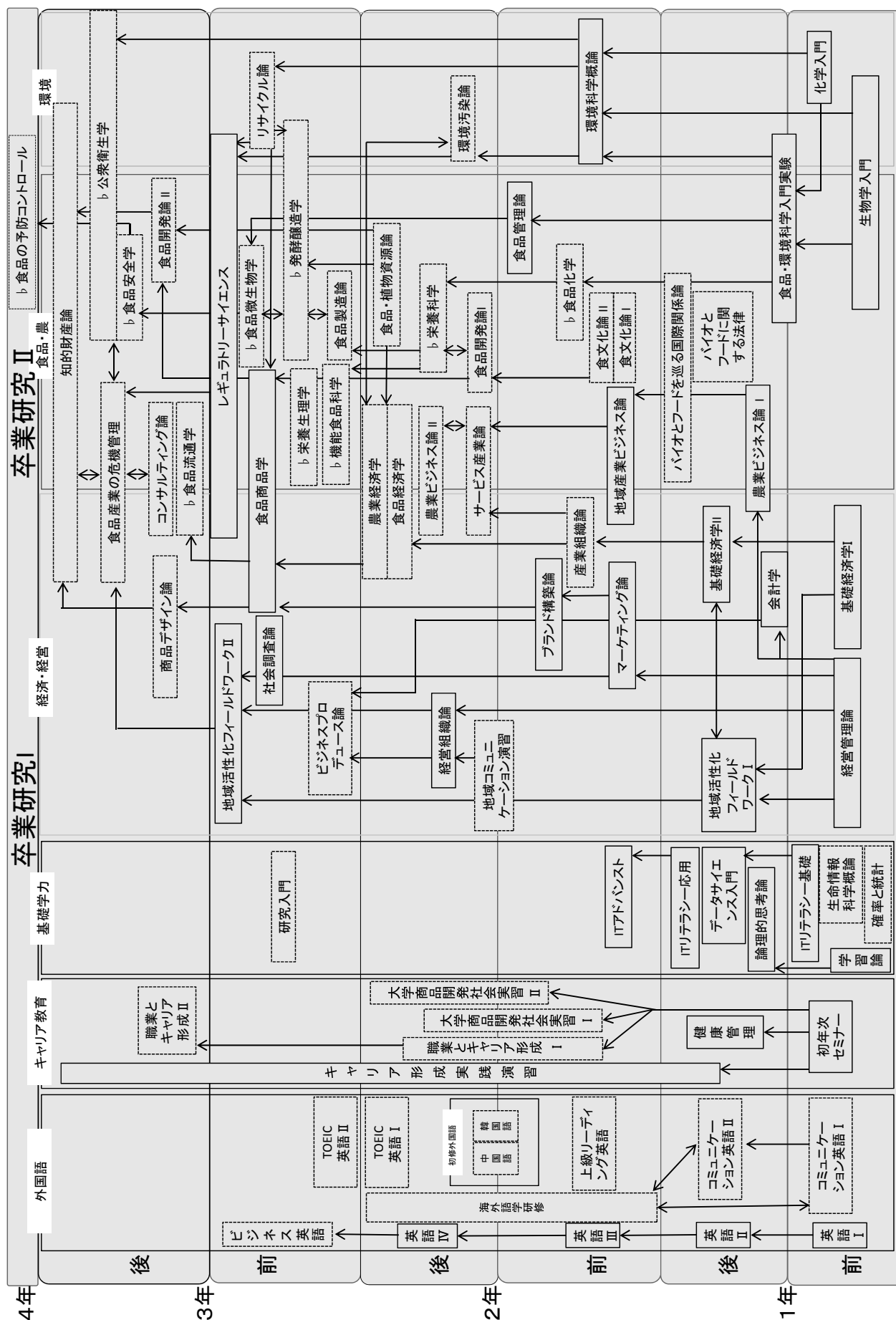
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
 ↳・・・応用生命科学に関連が深い科目



食品ビジネス分野・農業ビジネス分野カリキュラムツリー（2021年度入学生に適用）

【人材像】経営学・経済学に関する基礎知識やマーケティング・ブランディングなどのビジネスに必要な知識を修得し、地域や関係機関とのコミュニケーション力を身に付けながら農業・食品分野の専門的な知識を修得することで、行政機関・農協等での農業政策の企画・運営、飲食品製造販売会社での商品開発・マーケティングなどで活躍できる人材を育成する。

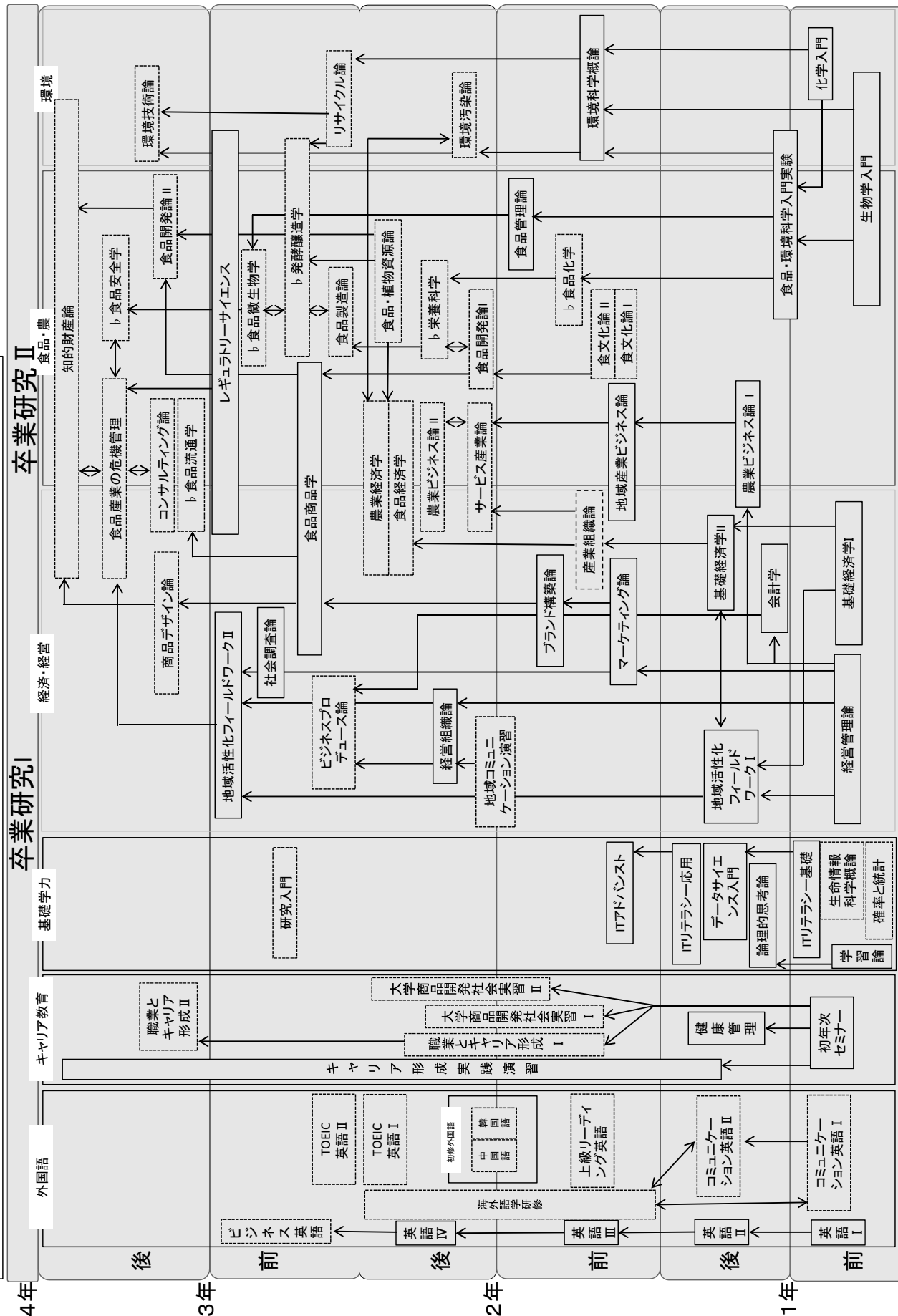
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
 ｂ・・・応用生命科学に関連が深い科目



経済学分野・経営学分野カリキュラムツリー（2021年度入学生に適用）

【人材像】経営学や経済学等の社会科学に関する知識を理解した上で、グローバル社会や地域活性化等の経営・経済等社会に関わる知識について深く学び、企業・行政・市民社会組織（NPO/NGO、農協漁協、学校、病院等）の企画・開発・製造・マーケティング・管理部門等経営に関する全般で活躍できる人材を育成する。

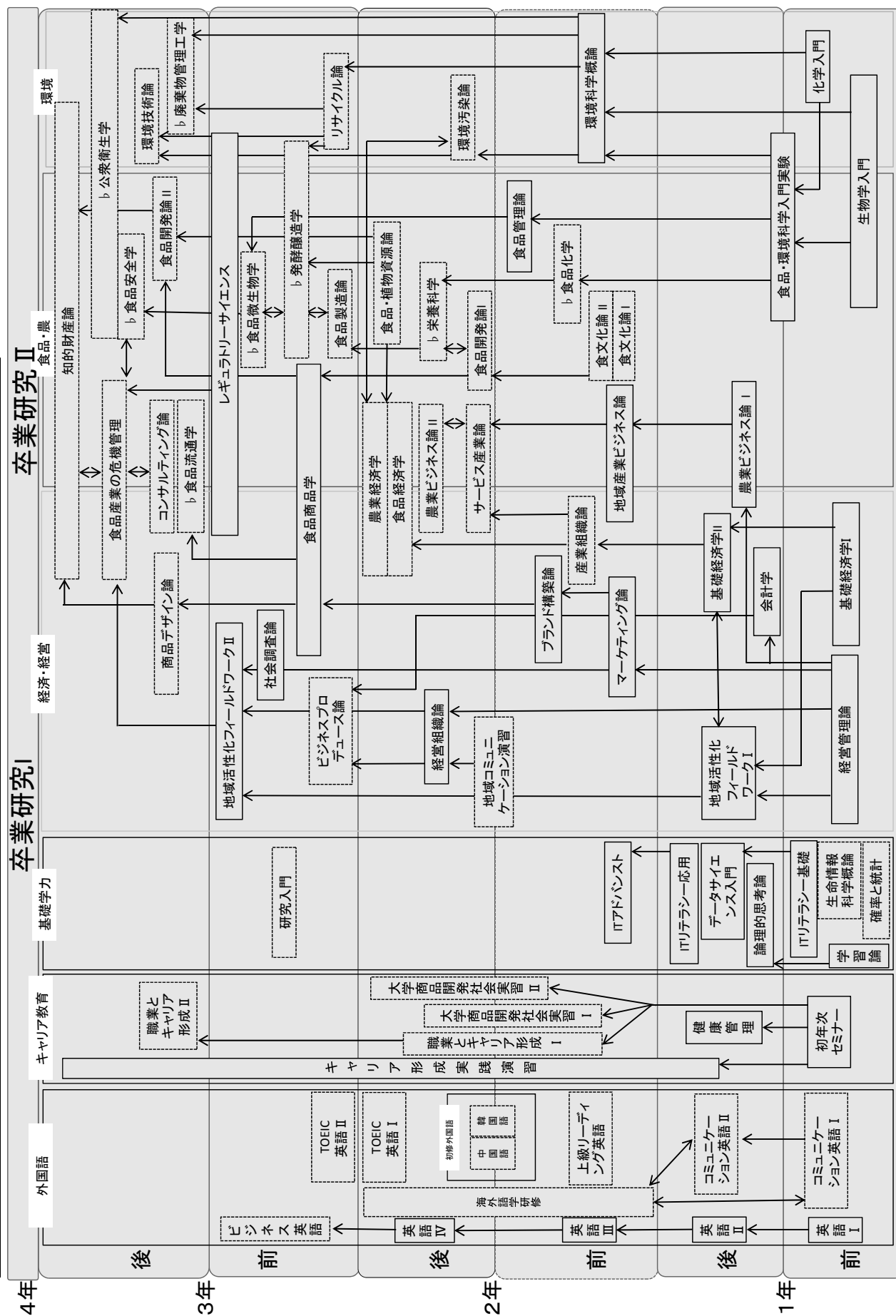
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
 ｂ・・・応用生命科学に関連が深い科目



地域活性化分野・環境ビジネス分野カリキュラムツリー（2021年度入学生に適用）

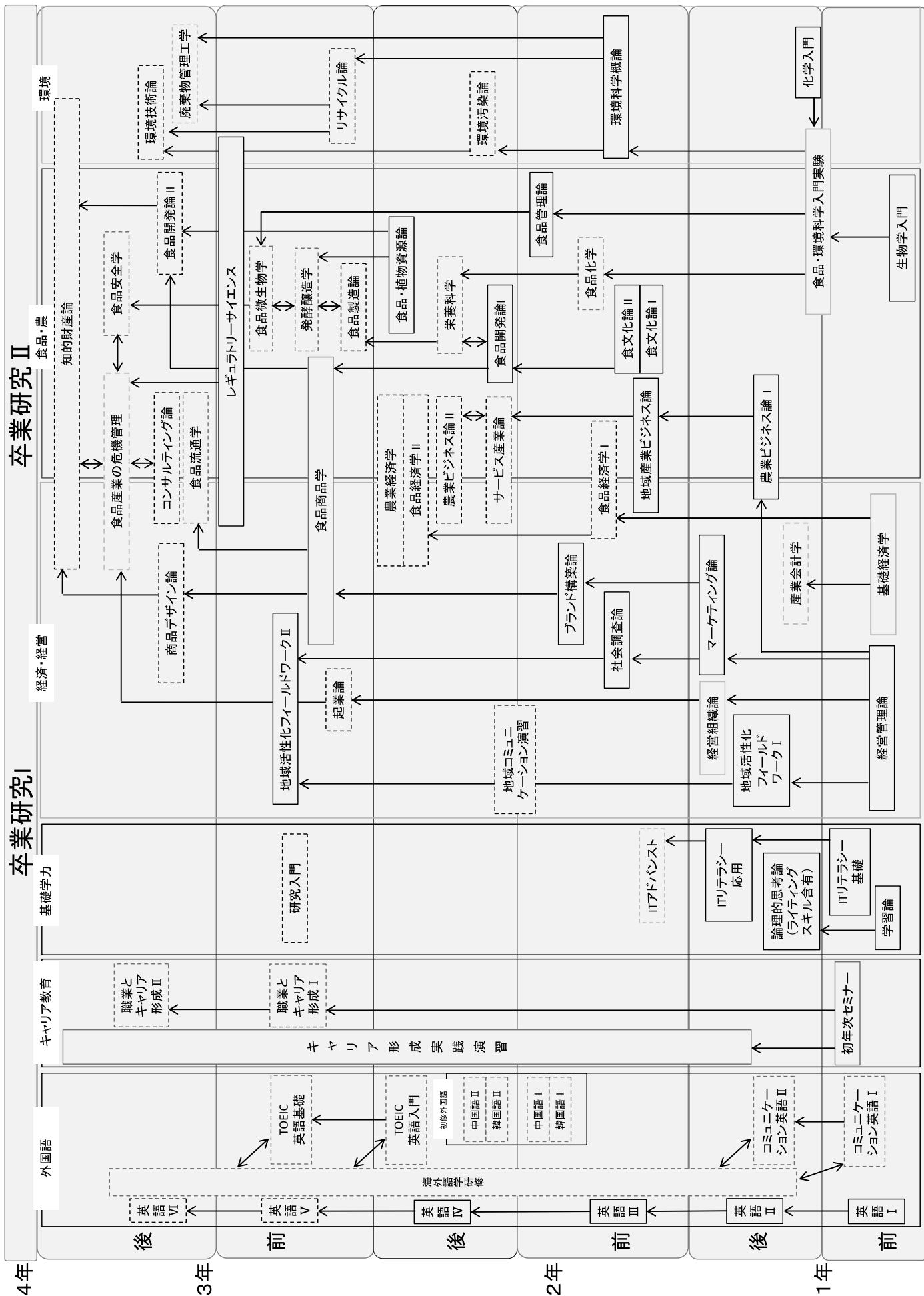
【人材像】生物学や化学等の基礎科学に関する知識を理解した上で、環境汚染や廃棄物管理等の環境産業に関する知識について深く学び、上下水道サービス、廃棄物処分量、環境分析企業の渉外・技術営業担当・各種メーカーの環境部門担当者・地域政策の企画運営等で活躍できる人材を育成する。

実線・・・必修科目、点線・・・選択科目
b・・・応用生命科学に関連が深い科目



生命産業創造学科カリキュラムツリー (2019年度及び2020年度の入学生に適用)

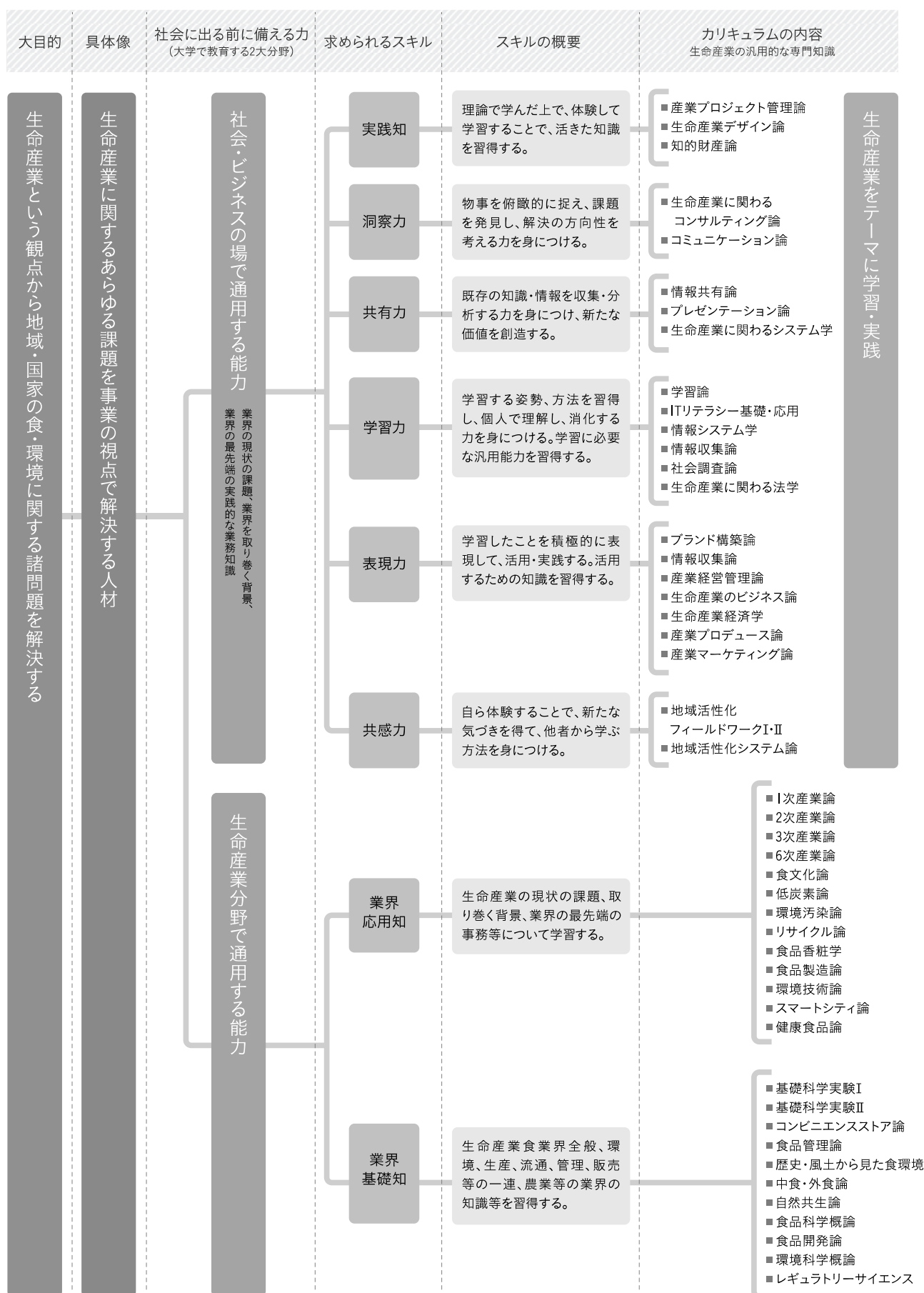
実線・・・必修科目、点線・・・選択科目



新潟薬科大学応用生命科学部生命産業創造学科カリキュラムツリー

(2018年度以前の入学生に適用)

プロデューサーとしての役割を担うための6つの汎用的能力



共通専門必修科目	生物学Ⅰ	1前	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△
	生物学Ⅱ	1後		△	△				◎		△	
	化学Ⅰ	1前			△				◎		◎	△
	化学Ⅰ演習	1前						○	◎		◎	
	化学Ⅱ	1後						○	◎		○	
	化学Ⅱ演習	1後							◎		◎	
	有機化学Ⅰ	2前						○	◎		○	
	有機化学Ⅰ演習	2前						○	◎		○	
	生化学Ⅰ	2前	△	△			△	○	◎		△	
	生化学Ⅱ	2後	△				△		◎		△	
	分析化学	1後					○			◎	△	
	機器分析学	2前					○				◎	△
	微生物科学	2前							◎		△	△
	環境科学Ⅰ	2前	△			○						○
	食品化学	2前	△		△				○		◎	△
	科学技術英語	3後									△	△
	応用生命科学基礎実験Ⅰ	1前	○		◎		△		○		○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅱ	1前	◎				○		◎		○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1後	◎				○		◎		○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1後					○		◎		○	
	応用生命科学基礎実験Ⅴ	2前				○			◎		◎	○
	食品微生物学	3前	○		△				◎		◎	
	食品製造学	2後	△						◎		○	△
食品科学コース必修科目	機能食品科学	3前	△		△		○		◎		△	
	食品分析学	2後			◎		○		◎		◎	◎
	栄養科学	2後			○		△				△	
	発酵醸造学	3前	△						◎		◎	△
	栄養生理学	3前						○	◎		◎	◎
	食品科学実験	2後	△	△	○	△			◎		△	
	食品製造・加工実験	3前	△						◎		○	
	食品安全実験	3前	○		○				◎		◎	△
	卒業研究	3後～4後	△		△				◎		◎	○
	微生物バイオテクノロジー	3前			△				◎		○	○
	植物バイオテクノロジー	3前	◎		○				◎		◎	○
	動物バイオテクノロジー	3前			△				△		△	
	生物工学	2後	△								○	△
	植物科学	2後	◎		○				◎		◎	○
	バイオインフォマティクス	3前	△		△				◎		○	
バイオテクノロジーコース必修科目	酵素化学	2後			△				◎		○	
	微生物・遺伝子工学実験	2後			○				◎		○	△
	植物バイオテクノロジー実験	3前	◎		○		○		◎		◎	△
	生化学・細胞工学実験	3前			○				◎		○	
	卒業研究	3後～4後										
	無機化学	2後			◎				◎		◎	△
	有機化学Ⅱ	2後							◎		○	
	環境科学Ⅱ	3前			◎							○
	有機合成化学	3前			△		○				○	△
	化学工業とグリーンケミストリー	3前					○				○	△
環境分析化学		2後			○		○				△	

教育目標： 学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学・生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、以下の単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。 ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルナリズム ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、食品科学に携わる者としての倫理観をもって行動できる。	・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高め、次世代を担う人材協働的に課題を解決することができ、意欲を示すことができる。	(2) コミュニケーション力 ・他者を尊重し、協調・知識・技能・普通的な教養を身に付けた協働的な良好な人間関係を構築できる。	(3) 食品科学関連領域の知識・技能 ・科学的探究心を備え、食品科学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を取集・評価して論理的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づき解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。	(4) 問題発見・解決力 ・科学的探究心を備え、食品科学を取り巻く諸問題を発見し、必要な情報を取集・評価して論理的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づき解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。	(5) 地域貢献力 ・食品科学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づき解決策の提案を通して地域の発展に貢献できる。	
理 科 教 職 コー ス 必 修 科 目	生命科学	3前				◎	○		
	環境工学実験	2後				◎		○	
	有機化学実験	3前		○		◎	○		
	生体分子化学実験	3前				◎	○		
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△	○	◎	◎	△	△	
	*教育課程論	3前	△	○	◎	◎	△	△	
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○	◎	◎	○	◎	
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	○	○	△	○	△	
	*教育制度・行政	3前	○	○	○	△	△	△	
	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○	○	△	◎	○	
	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○	○	△	◎	○	
	物理学実験	2後	◎	△	◎	◎	◎	○	
	地学実験	2後	○	○	◎	○	◎	○	
	3前	○	○	◎	◎	○	○		
有機化学実験	3前		○	○	◎	○			
専 門 選 択 科 目	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○	○	◎		○		
	基礎化学Ⅰ	1前		○	◎	△			
	基礎化学Ⅱ	1後		◎	○	△	○		
	生物学Ⅰ演習	1後		△	△	◎	△		
	生化学Ⅰ演習	2前		◎	◎	◎			
	生化学Ⅱ演習	2後		◎	◎	◎			
	物理化学	1後	◎	○	◎	◎	◎	◎	
	資源循環論	2後	○		○	○	△	○	
	環境汚染論	2後	○		○	△	○	△	
	生物有機化学	3後	△			◎	○		
	分子生物学	3前	△			◎	○		
	環境修復論	3前	◎		◎	◎		◎	
	細胞免疫学	3前	△			△	◎		
	分子構造解析学	3後				◎	○		
構造生物学とタンパク質工学	3前			△	◎	○			
植物育種学	3後	◎	○		◎	◎	○		
廃棄物管理工学	3後	△				◎	△		
食品安全学	3後	○	○	◎		◎			
食中毒疫学	3後	○	△		◎	◎			
食品流通学	3後	○		△			◎		
食品商品学	3前	◎				◎	○		
公衆衛生学	3後	◎			◎	○	○		
生物学	3後	◎	○	△	○	○	○		

自由科目

応用生命科学科（バイオテクノロジーコース） カリキュラムマップ（2022年度以降入学生）

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
教 養 必 修 科 目	区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルリズム	(2) コミュニケーション力	(3) バイオテクノロジー・関連領域の知識・技能	(4) 問題発見・解決力	(5) 地域貢献力	
	英語Ⅰ		1前	△		◎			
	英語Ⅱ		1後	△		◎			
	英語Ⅲ		2前	○		◎			
	英語Ⅳ		2後	○		◎			
	フレッシュヤーズ・セミナー		1前	◎		◎	△	△	
	早期体験学習		1前	◎		◎	△	△	
	生命情報科学概論		1前	△		○	○		
	生命情報科学演習Ⅰ		1前			◎	△	○	
	生命情報科学演習Ⅱ		1後			△	◎	△	
	健康管理		1後			△	◎		
	データサイエンス入門		1後		○	○	○	△	
	キャリア形成実践演習		1後～3後		○	◎	◎		
	コミュニケーション英語Ⅰ		2前		○	◎			
	コミュニケーション英語Ⅱ		2後		○	◎			
教 養 選 択 科 目	上級リーディング英語		2前	△		◎	△	△	
	TOEIC英語Ⅰ		2後		○	◎			
	TOEIC英語Ⅱ		3前		○	◎			
	中国語		1通	○		◎	△	○	
	韓国語		1通	△		◎		△	
	海外語学研修		2通	○		◎	○		
	基礎数学		1前		○	○		○	
	物理学		1通		△	△	◎	◎	
	地学		1後	○		◎	◎	○	
	確率と統計		1前		○	○	○	○	
	基礎経済学Ⅰ		1前	△		◎	△	◎	
	基礎経済学Ⅱ		1後	△		◎	△	◎	
	バイオとフードを巡る国際関係論		1後	○		○	◎	◎	
	バイオとフードに関する法律		1後	◎		○	○	△	
	生命倫理		1前	◎		○	◎		
科学技術論		1前	◎		○	◎	○		
法学		1後				◎			
歴史学		1前	○			◎	△		
職業とキャリア形成Ⅰ		2通	○			△	△		
大学商品開発社会実践演習Ⅰ		2通	○	△		○	○		
大学商品開発社会実践演習Ⅱ		2通	○	△		○	○		
職業とキャリア形成Ⅱ		3後	○			◎	△		
スポーツ		1前	△			△			

共通専門必修科目	生物学Ⅰ	1前	△	△	△				△	◎	△	
	生物学Ⅱ	1後		△	△				△	◎	△	
	化学Ⅰ	1前			○				△	◎	◎	△
	化学Ⅰ演習	1前						○	○	◎	◎	
	化学Ⅱ	1後						○	○	◎	○	
	化学Ⅱ演習	1後								◎	◎	
	有機化学Ⅰ	2前						○	○	◎	○	
	有機化学Ⅰ演習	2前						○	○	◎	○	
	生化学Ⅰ	2前			△			○	△	◎	○	
	生化学Ⅱ	2後			△		△		△	◎	○	
	分析化学	1後			○				◎	◎	△	
	機器分析学	2前			○				○	◎	◎	△
	微生物科学	2前							△	◎	△	△
	環境科学Ⅰ	2前		△	○				◎	○	○	○
	食品化学	2前			△					○	◎	△
	科学技術英語	3後								○	△	△
	応用生命科学基礎実験Ⅰ	1前		○	◎			△	△	○	◎	
	応用生命科学基礎実験Ⅱ	1前		◎				○	△	◎	○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1後		◎				○	△	◎	○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1後						○	○	◎	○	
	応用生命科学基礎実験Ⅴ	2前			○				○	◎	◎	○
	食品微生物学	3前		○	△					◎	◎	
	食品製造学	2後		△					○	◎	○	△
食品科学コース必修科目	機能食品科学	3前			△			○	○	◎	△	
	食品分析学	2後			◎			○	○	◎	◎	◎
	栄養科学	2後			○			△		◎	△	
	発酵醸造学	3前		△						◎	◎	△
	栄養生理学	3前						○		◎	◎	◎
	食品科学実験	2後		△	○			△		◎	△	
	食品製造・加工実験	3前		△					○	◎	○	
	食品安全実験	3前		○	○				○	◎	◎	△
	卒業研究	3後～4後										
	微生物バイオテクノロジー	3前			△				△	◎	○	○
	植物バイオテクノロジー	3前		◎	○					◎	◎	△
	動物バイオテクノロジー	3前		△	△				△	◎	○	
	生物工学	2後		△						◎	○	△
バイオテクノロジーコース必修科目	植物科学	2後		◎	○					◎	◎	△
	バイオインフォマティクス	3前		△	△					◎	○	
	酵素化学	2後			△					◎	○	
	微生物・遺伝子工学実験	2後			○				○	◎	○	△
	植物バイオテクノロジー実験	3前		◎	○		△		◎	◎	◎	△
	生化学・細胞工学実験	3前			○				◎	◎	◎	
	卒業研究	3後～4後		△	◎			△	○	◎	◎	○
	無機化学	2後			◎				△	◎	◎	△
	有機化学Ⅱ	2後								◎	○	
	環境科学Ⅱ	3前			◎				◎	◎	○	○
生命環境化学科必修科目	有機合成化学	3前		△				○		◎	○	△
	化学工業とグリーンケミストリー	3前			○			○		◎	○	△
	環境分析化学	2後			○			○	○	◎	○	△

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品・農業・環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学・生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、以下の学修・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッションナリズム						
			豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	常に自己を評価・省察し、自らに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、さらに自らを高め、後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。
理 科 教 育 科 目	生命科学	3前							
	環境工学実験	2後	◎					◎	
	有機化学実験	3前		○				◎	
	生体分子化学実験	3前						◎	
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△	○			◎	△	△
	*教育課程論	3前	△	○			◎	△	△
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○			◎	○	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	△			○	○	△
	*教育制度・行政	3前	○	△			○	△	△
理 科 教 育 科 目	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○			○	△	○
	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○			○	△	○
	物理化学実験	2後	◎	△			◎	◎	◎
	地学実験	2後	○	○			○	◎	○
	有機化学実験	3前		○			○	◎	○
	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○	○			△	◎	○
	基礎化学Ⅰ	1前		○			◎	△	
	基礎化学Ⅱ	1後		◎			○	○	
	生物学Ⅱ演習	1後		△			△	◎	△
専 門 選 択 科 目	生化学Ⅰ演習	2前		◎			◎	△	
	生化学Ⅱ演習	2後		◎			◎	△	
	物理化学	1後		◎			○	◎	◎
	資源循環論	2後	○				○	○	○
	環境汚染論	2後	○				△	○	△
	生物有機化学	3後		△			△	◎	
	分子生物学	3前	△					○	
	環境修復論	3前		◎			◎	◎	◎
	細胞免疫学	3前	△				△	◎	
	分子構造解析学	3後					△	○	
専 門 選 択 科 目	構造生物学とタンパク質工学	3前						◎	
	植物育種学	3後	◎	○				◎	○
	廃棄物管理工学	3後	△	○			△	○	
	食品安全学	3後		○			◎	◎	
	食中毒疫学	3後	○	△				◎	
	食品流通学	3後	○				△		◎
	食品商品学	3前	△				○		◎
	公衆衛生学	3後	◎	○			◎	○	○
	生物学	3後	◎	○			△	△	

応用生命科学科 (生命環境化学コース) カリキュラムマップ (2022年度以降入学生)

[illegible]

共通専門必修科目	生物学Ⅰ	1前	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	生物学Ⅱ	1後		△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	化学Ⅰ	1前			○																	△
	化学Ⅰ演習	1前							○													◎
	化学Ⅱ	1後							○													◎
	化学Ⅱ演習	1後																				◎
	有機化学Ⅰ	2前							○													◎
	有機化学Ⅰ演習	2前							○													◎
	生化学Ⅰ	2前			△									△								△
	生化学Ⅱ	2後			△									△								△
	分析化学	1後			○									◎								△
	機器分析学	2前			○									○								◎
	微生物科学	2前												△								△
	環境科学Ⅰ	2前		△	○									◎								○
	食品化学	2前		△	△				△													◎
	科学技術英語	3後																				△
	応用生命科学基礎実験Ⅰ	1前		○					◎					◎								○
	応用生命科学基礎実験Ⅱ	1前		◎										○								△
	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1後		◎										○								△
	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1後												○								○
	応用生命科学基礎実験Ⅴ	2前							○					○								◎
食品科学コース必修科目	食品微生物学	3前		○	△																	◎
	食品製造学	2後		△																		◎
	機能食品科学	3前			△									○								○
	食品分析学	2後			◎									○								△
	栄養科学	2後			○									△								◎
	発酵醸造学	3前		△																		◎
	栄養生理学	3前							◎					○								◎
	食品科学実験	2後		△	○				○					△								△
	食品製造・加工実験	3前		△										○								○
	食品安全実験	3前		○	○				○					○								◎
	卒業研究	3後～4後																				
	微生物バイオテクノロジー	3前			△				△					△								△
	植物バイオテクノロジー	3前		◎	○																	◎
	動物バイオテクノロジー	3前		△	△				△					△								◎
	生物工学	2後		△					△													○
バイオテクノロジーコース必修科目	植物科学	2後		◎	○				○													◎
	バイオインフォマティクス	3前		△	△				△													○
	酵素化学	2後			△				△													◎
	微生物・遺伝子工学実験	2後			○				○					○								○
	植物バイオテクノロジー実験	3前		◎	○				○					◎								◎
	生化学・細胞工学実験	3前			○				○					◎								△
	卒業研究	3後～4後																				
	無機化学	2後			◎									△								◎
	有機化学Ⅱ	2後																				○
	環境科学Ⅱ	3前		△	◎									◎								◎
生命環境化学コース	有機合成化学	3前			△																	○
	化学工業とグリーンケミストリー	3前							○													○
	環境分析化学	2後			○				○					○								○

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品・農業・環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学・生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、学に携わる者としての倫理観をもって行動できるように「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルナリズム ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。						
理 科 教 育 科 目	生命科学	3前							
	環境工学実験	2後	△	◎		○	◎	○	
	有機化学実験	3前			○		◎	○	
	生体分子化学実験	3前					◎	○	
	卒業研究	3後～4後	△	◎		○	◎	◎	○
	*教育心理学	2後	△	○	○	○	△	△	△
	*教育課程論	3前	△	○	○	○	◎	△	△
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○	○	○	◎	○	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	△	○	○	○	○	△
	*教育制度・行政	3前	○	△	○	○	◎	△	△
理 科 教 育 コ ー ス 必 修 科 目	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○	○	○	△	◎	○
	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○	○	○	△	◎	○
	物理学実験	2後	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎
	地学実験	2後	○	○	○	○	◎	◎	○
	有機化学実験	3前			○	○	◎	○	
	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○	○	△		◎	○	
	基礎化学Ⅰ	1前			○	◎	○		
	基礎化学Ⅱ	1後			◎		○		
	生物学Ⅱ演習	1後			△		◎	△	
専 門 選 択 科 目	生化学Ⅰ演習	2前			◎		△	△	
	生化学Ⅱ演習	2後			◎		△	△	
	物理化学	1後		◎	○		◎	◎	◎
	資源循環論	2後	○				○	◎	○
	環境汚染論	2後	○				○	◎	○
	生物有機化学	3後		△			△	△	
	分子生物学	3前	△				◎	○	
	環境修復論	3前	△	◎	○	○	◎	◎	◎
	細胞免疫学	3前		△			△	◎	
	分子構造解析学	3後					◎	○	
専 門 選 択 科 目	構造生物学とタンパク質工学	3前					△	◎	
	植物育種学	3後	◎	○			◎	◎	○
	廃棄物管理工学	3後	△	○	△		○	◎	△
	食品安全学	3後	○	○			◎	◎	
	食中毒疫学	3後	○	△			◎	◎	
	食品流通学	3後	◎				△	△	○
	食品商品学	3前	○				○	○	◎
	公衆衛生学	3後	◎	○			○	◎	○
	生物科学	3後	◎	○	△		○	○	

自由科目

応用生命科学科 (理科教職コース) カリキュラムマップ (2022年度以降入学生)

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定められた単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルリズム	(2) コミュニケーション力	(3) 生命科学を中心とした理科教育に関する知識・技能	(4) 問題発見・解決力	(5) 地域貢献力		
教 養 必 修 科 目	英語Ⅰ	1前	△	○	◎	○			
	英語Ⅱ	1後	△	○	◎	○			
	英語Ⅲ	2前	○	○	◎	○			
	英語Ⅳ	2後	○	○	◎	○			
	フレッシャーズ・セミナー	1前	◎	○	◎	△	△		
	早期体験学習	1前	◎	○	◎	△	△		
	生命情報科学概論	1前	△	○	○				
	生命情報科学演習Ⅰ	1前		◎	◎	△	○		
	生命情報科学演習Ⅱ	1後			△	◎	△		
	健康管理	1後		△	◎				
	データサイエンス入門	1後	○	○	○	○	△		
	キャリア形成実践演習	1後～3後	○	○	◎				
教 養 選 択 科 目	コミュニケーション英語Ⅰ	2前	○	○	◎				
	コミュニケーション英語Ⅱ	2後	○	○	◎				
	上級リーディング英語	2前	○	○	◎	△	△		
	TOEIC英語Ⅰ	2後	◎	○	◎				
	TOEIC英語Ⅱ	3前	◎	○	◎				
	中国語	1通	○	◎	◎	○	○		
	韓国語	1通	△	○	◎				
	海外語学研修	2通	○	○	◎	○			
	基礎数学	1前	◎	○	○	○	○		
	物理学	1通	◎	△	△	○	○		
	地学	1後	○	○	◎	◎	○		
	確率と統計	1前	◎	○	○	○	○		
	b基礎経済学Ⅰ	1前	○	◎	◎	△	◎		
	b基礎経済学Ⅱ	1後	○	◎	◎	△	◎		
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	○	○	◎	◎	◎		
	バイオとフードに関する法律	1後	◎		○	△	△		
	生命倫理	1前	◎	○	○	◎			
科学技術論	1前	○	◎	○	△	○			
法学	1後			◎	○				
歴史学	1前	○	○	◎	△	△			
職業とキャリア形成Ⅰ	2通		○	◎	△	△			
大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2通	○	○	○	○	○			
大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2通	○	○	○	○	○			
職業とキャリア形成Ⅱ	3後		○	◎	△	△			
スポーツ	1前		△						

共通専門必修科目	生物学Ⅰ	1前	△	△				△	◎	△	
	生物学Ⅱ	1後		△				△	◎	△	
	化学Ⅰ	1前		△				△	◎	◎	△
	化学Ⅰ演習	1前						○	◎	◎	
	化学Ⅱ	1後						○	◎	○	
	化学Ⅱ演習	1後							◎	◎	
	有機化学Ⅰ	2前						○	◎	○	
	有機化学Ⅰ演習	2前						○	◎	○	
	生化学Ⅰ	2前		△			△	△	◎	○	△
	生化学Ⅱ	2後		△			△		◎	○	△
	分析化学	1後		○				◎	○		
	機器分析学	2前		○				○	◎	◎	△
	微生物科学	2前						△	○	△	△
	環境科学Ⅰ	2前		○				◎	△	○	○
	食品化学	2前	△	△					○	◎	△
	科学技術英語	3後							◎	△	△
	応用生命科学基礎実験Ⅰ	1前	○	◎			△	◎	○	◎	
	応用生命科学基礎実験Ⅱ	1前	◎	◎			◎	○	◎	○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅲ	1後	◎				△	○	◎	○	△
	応用生命科学基礎実験Ⅳ	1後					○	○	◎	○	
	応用生命科学基礎実験Ⅴ	2前					○	○	◎	◎	○
	食品微生物学	3前	○	△				△	◎	◎	
	食品製造学	2後		△					◎	○	△
	機能食品科学	3前		△			○	○	◎	△	
	食品分析学	2後		◎			○	○	◎	◎	◎
	栄養科学	2後		○			△		◎	△	
食品科学コース必修科目	発酵醸造学	3前	△						◎	◎	△
	栄養生理学	3前						○	◎	◎	◎
	食品科学実験	2後	△	△			△	△	◎	△	
	食品製造・加工実験	3前	△				△	○	◎	○	
	食品安全実験	3前	○	○				○	◎	◎	△
	卒業研究	3後～4後									
	微生物バイオテクノロジー	3前		△			△		○	△	△
	植物バイオテクノロジー	3前	◎	○					◎	◎	○
	動物バイオテクノロジー	3前	△	△			△		◎	○	△
	生物工学	2後	△						◎	○	△
	植物科学	2後	◎	○					◎	◎	○
	バイオインフォマティクス	3前	△	△					◎	△	
	酵素化学	2後		△					◎	△	
	微生物・遺伝子工学実験	2後		○			○		○	△	△
	植物バイオテクノロジー実験	3前	◎	○	○			△	◎	◎	△
生命科学必修科目	生化学・細胞工学実験	3前	○	○				◎	◎	◎	△
	卒業研究	3後～4後									
	無機化学	2後		◎				△	◎	◎	△
	有機化学Ⅱ	2後							◎	○	
	環境科学Ⅱ	3前		◎			◎		△	○	○
	有機合成化学	3前	△				○		◎	○	△
	化学工業とグリーンケミストリー	3前					○		◎	○	△
	環境分析化学	2後	○	○			○	○	◎	○	△
バイオテクノロジーコース必修科目	微生物バイオテクノロジー	3前	◎	○					◎	◎	○
	動物バイオテクノロジー	3前	△	△			△		◎	○	△
	生物工学	2後	△						◎	○	△
	植物科学	2後	◎	○					◎	◎	○
	バイオインフォマティクス	3前	△	△					◎	△	
	酵素化学	2後		△					◎	△	
	微生物・遺伝子工学実験	2後		○			○		○	△	△
	植物バイオテクノロジー実験	3前	◎	○	○			△	◎	◎	△
	生化学・細胞工学実験	3前	○	○				◎	◎	◎	△
	卒業研究	3後～4後									
	無機化学	2後		◎				△	◎	◎	△
	有機化学Ⅱ	2後							◎	○	
	環境科学Ⅱ	3前		◎			◎		△	○	○
	有機合成化学	3前	△				○		◎	○	△
	化学工業とグリーンケミストリー	3前					○		◎	○	△
	環境分析化学	2後	○	○			○	○	◎	○	△

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学・生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、科教員としての倫理観をもち、行動できる。									
学習到達目標： ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルナリズム ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと ・前例のない課題に対し、前例のない課題に取り組む高いモチベーションをもつことができる。	(2) コミュニケーション力 ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができること ・次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	(3) 生命科学を中心とした理科の中等教育に関する知識・技能 ・普遍的な教養を身に付けること ・生命科学の発展に貢献できる。	(4) 問題発見・解決力 ・理科教育を取り巻く諸問題を客観的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考を基に解決策の提案を提示できる。	(5) 地域貢献力 ・理科教育における諸問題を客観的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考を基に解決策の提案を提示できる。		
生命科学 必修科目	生体分子化学	3前				◎			
	環境工学実験	2後	◎			△	○		
	有機化学実験	3前		○		◎			
	生体分子化学実験	3前				◎			
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△	○	◎	△	△		
	*教育課程論	3前	◎	◎	◎	○	○		
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○	◎	◎	◎		
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	○	○	○	○		
	*教育制度・行政	3前	○	△	◎	△	△		
理科教育 必修科目	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○	◎	◎	○		
	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○	○	△	○		
	物理学実験	2後	◎	△	◎	◎	◎		
	地学実験	2後	○	○	◎	◎	○		
	有機化学実験	3前	△	◎	◎	◎	◎		
	卒業研究	3後～4後	△	◎	◎	◎	◎		
	基礎生物学Ⅰ	1前	○	○	◎	△	○		
	基礎化学Ⅰ	1前		○	◎	△			
	基礎化学Ⅱ	1後		◎	○	△			
	生物学Ⅱ演習	1後		△	△	◎	△		
専門選択科目	生化学Ⅰ演習	2前		◎	◎	◎			
	生化学Ⅱ演習	2後		◎	◎	◎			
	物理化学	1後	◎	○	◎	◎	◎		
	資源循環論	2後	○		○	△	○		
	環境汚染論	2後	○	△	○	○	△		
	生物有機化学	3後	△		△	○	△		
	分子生物学	3前	△		◎	△			
	環境修復論	3前	◎		◎	○	◎		
	細胞免疫学	3前	△		△	◎			
	分子構造解析学	3後			◎	◎			
専門選択科目	構造生物学とタンパク質工学	3前		△		◎	○		
	植物育種学	3後	◎			◎	◎		
	廃棄物管理工学	3後	△	△		◎	△		
	食品安全学	3後	○	○	◎	◎			
	食中毒疫学	3後	○	△	○	◎			
	食品流通学	3後	○		○		○		
	食品商品学	3前	○		○		○		
	公衆衛生学	3後	◎	○	◎	◎	○		
	生物学	3後	◎	△	○	◎	○		

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科食品科学コースカリキュラムマップ (2021年度入学生)

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件としての教育に造詣が深い教員を育成する以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。 ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッションナリズム ・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、食品科学に携わる者として、専門知識をもちつことが出来る。 ・前例のない課題に対して、積極的に取り組み高いモチベーションをもつことが出来る。 ・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。						
教 養 必 修 科 目	英語 I	1前	△	○			◎	○	
	英語 II	1後	△	○			◎	○	
	英語 III	2前	○	○			◎	○	
	英語 IV	2後	○	○			◎	○	
	初年次セミナー	1前	◎	○			◎	△	△
	生命科学概論	1前	△	△			○	○	
	生命情報科学演習 I	1前		◎			◎	△	○
	生命情報科学演習 II	1後		△			△	◎	△
	健康管理	1後		△			◎		
	データサイエンス入門	1後		○			○	○	
教 養 選 択 科 目	キャリア形成実践演習	1後～3後		○			◎		△
	コミュニケーション英語 I	2前	○	○			◎	○	
	コミュニケーション英語 II	2後	○	○			◎	○	
	上級リーディング英語	2前	△	○		○	◎	△	△
	TOEIC英語 I	2後		◎			◎		
	TOEIC英語 II	3前		◎			◎		
	中国語	1通	△	◎		○	◎	△	△
	韓国語	1通	△	○		△	◎		
	海外語学研修	2通	○	○			◎	○	
	基礎数学	1前		◎			○	○	○
教 養 選 択 科 目	物理学	1通		◎			△	○	
	地学	1後	○	○		○	◎	○	○
	確率と統計	1前		◎			○	◎	○
	b 基礎経済学 I	1前	△	◎		○	◎	△	◎
	b 基礎経済学 II	1後	△	◎		◎	◎	△	◎
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	○	○		○	○	◎	◎
	バイオとフードに関する法律	1後	◎	○			○	○	△
	生命倫理	1前	◎	○			○	◎	○
	科学技術論	1前	○	◎		△	○	△	○
	法学	1後					◎	◎	
教 養 選 択 科 目	歴史学	1前		○			◎	△	△
	職業とキャリア形成 I	2通		○			◎	△	△
	大学商品開発社会実践演習 I	2通	○	○		△	○	○	○
	大学商品開発社会実践演習 II	2通	○	○		△	○	○	○
	職業とキャリア形成 II	3後					◎	△	△
	スポーツ	1前		△			△		
	生物学 I	1前	△	△			△	◎	

-113-

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針：									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルナリズム						
			・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもち、食品科学に携わる者としてチベーションをもつことができる。	・常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる。	・コミュニケーション力	(4) 問題発見・解決力	(5) 地域貢献力
生命科学必修科目	環境工学実験	2後	◎				◎		・食品科学関連領域において、地域社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づき解決策を提案を通して地域の発展に貢献できる。
	有機化学実験	3前		○			◎	○	
	生体分子化学実験	3前					◎	○	
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△	○			◎	△	△
	*教育課程論	3前	△	○			◎	△	△
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○			◎	○	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	△			○	○	△
	*教育制度・行政	3前	○	△			○	△	△
	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○			○	◎	○
理科教職コース必修科目	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○			○	◎	○
	物理学実験	2後	◎	○			◎	◎	
	地学実験	2後	○	○			◎	◎	○
	有機化学実験	3前		○			◎	○	
	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○	○	△		◎	○	
	基礎化学Ⅰ	1前		○			◎		
	基礎化学Ⅱ	1後		◎			○	○	
	生物学Ⅰ演習	1後		△			△	△	
	生化学Ⅰ演習	2前		◎			◎		
専門選択科目	生化学Ⅱ演習	2後		◎	△		◎		
	物理化学	1後		◎			○	◎	◎
	資源循環論	2後	○	○			○	△	○
	環境汚染論	2後	○		△		○	○	△
	生物有機化学	3後		△			◎	○	
	分子生物学	3前	△				◎	○	
	環境修復論	3前		◎			◎		◎
	細胞免疫学	3前	△				△	◎	
	分子構造解析学	3後					◎	○	
	構造生物学とタンパク質工学	3前					△	○	
	植物育種学	3後	◎	○			◎	◎	○
	廃棄物管理工学	3後	△	○	△		◎	◎	△
	食品安全学	3後	○	○			◎	◎	
	食中毒疫学	3後	○	△			△		◎
	食品流通学	3後	○						
	食品商品学	3前			△			◎	○
	公衆衛生学	3後	◎				◎	○	○
	生物科学	3後	◎	○	△		○	○	
	食品の予防コントロール	4前	○	○			◎	◎	

*理科教育法Ⅰ	2前	○	△	◎	○	○	△	○	△	○	△
*教育原論	3前		○						○	◎	
*生徒・進路指導の理論と方法	3後		○	○					◎	◎	○
*道徳教育の指導法	3後	○		○				○		○	
農業ビジネス論Ⅰ	1後		△				△	△	◎	○	○
農業ビジネス論Ⅱ	2後		△					○	○	○	◎
食品管理論	2前					△			◎	○	△
経営管理論	2前			○					◎	△	◎
地域産業ビジネス論	2前	○							△		
レギュラトリーサイエンス	3前	△	◎					○		○	
食文化論Ⅰ	2前	○			△			○			◎
食文化論Ⅱ	2前	◎			△						○
食品経済学	2後		△					△	◎	○	○
産業組織論	2前	○	◎	◎		◎		◎	△	◎	◎
食品・植物資源論	2後	○						△	◎	◎	○
食品開発論Ⅰ	2後								◎	○	
食品開発論Ⅱ	3後	△	○	△				◎	○		△
食品経済学	2後		△					△	◎	○	○
商品デザイン論	3後	△	○	△				△	◎	◎	◎
コンサルティング論	3後	△	◎	◎		◎		◎	△	◎	○
知的財産論	3後	○	○					◎	○	○	
食品製造論	3前	○	◎		△			△	◎	○	
食品産業の危機管理	3後	○	◎		△			○	◎	◎	
教職概論	1前	○		○				◎	◎	○	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1後	△		◎		◎		◎		△	○
教育方法論	2前	◎	○	◎		○		◎	◎	◎	○
理科教育法Ⅳ	3後	○	○	○		◎		◎	△	△	△
教育相談の理論と方法	2前		○	○		○		◎	△		
特別支援教育概論	2後	○	○					◎			
特別支援教育事後指導	4通	◎	○	◎		○		◎	◎	◎	○
教育実習Ⅰ	4通	◎	◎	◎		◎		◎	◎	◎	○
教育実習Ⅱ	4通	◎	◎	◎		◎		◎	◎	◎	◎
教職実践演習（中・高）	4後	◎	◎	◎		◎		◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅰ	1通	○	◎	○				◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅱ	2通	○	◎	○				◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅲ	3通	○	△	◎		○		◎	△	△	◎

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科バイオテクノロジーコースカリキュラムマップ (2021年度入学生)

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する大学の課程を修め、卒業要件としての「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。 ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	(1) プロフェSSIONナリズム							
		英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	初年次セミナー	生命情報科学概論	生命情報科学演習Ⅰ	生命情報科学演習Ⅱ
教養必修科目	配当学年・学期	1前	1後	2前	2後	1前	1前	1前	1後
	英語Ⅰ	△							
	英語Ⅱ	△							
	英語Ⅲ	○							
	英語Ⅳ	○							
	初年次セミナー	◎							
	生命情報科学概論	△							
	生命情報科学演習Ⅰ								
	生命情報科学演習Ⅱ								
	健康管理								
教養選択科目	配当学年・学期	1後	1後～3後	2前	2後	2前	2後	2前	2後
	データサイエンス入門								
	キャリア形成実践演習								
	コミュニケーション英語Ⅰ								
	コミュニケーション英語Ⅱ								
	上級リーディング英語								
	TOEIC英語Ⅰ								
	TOEIC英語Ⅱ								
	中国語								
	韓国語								
教養選択科目	配当学年・学期	1前	1通	1通	2通	1前	1通	1後	1後
	海外語学研修								
	基礎数学								
	物理学								
	地学								
	確率と統計								
	基礎経済学Ⅰ								
	基礎経済学Ⅱ								
	バイオとフードを巡る国際関係論								
	バイオとフードに関する法律								
科目	配当学年・学期	1後	1前	1前	1後	1後	1前	1前	2通
	生命倫理								
	科学技術論								
	法学								
	歴史学								
	職業とキャリア形成Ⅰ								
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ								
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ								
	職業とキャリア形成Ⅱ								
	スポーツ								
科目	配当学年・学期	1前	1前	1前	1前	1前	1前	1前	1前
	生物学Ⅰ								

-117-

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針：	食品・農業・環境及び健康等に関わる工学・生命科学に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、定めた単位を修得し、各コースが設定した以下の質実・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。	(1) プロフェッショナルナリズム			(2) コミュニケーション力			(3) バイオテクノロジー・関連領域の知識・技能	
		豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。	豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと、バイオテクノロジーに携わる者としての倫理観をもって行動できる。
区分	授業科目	配当学年・学期	(4) 問題発見・解決力						
生命科学必修科目	環境工学実験	2後	◎					◎	◎
	有機化学実験	3前			○			◎	○
	生体分子化学実験	3前						◎	○
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△		○			◎	△
	*教育課程論	3前	△		○			◎	△
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎		○			◎	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○		△			○	△
	*教育制度・行政	3前	○		△			○	△
	*教職演習Ⅰ	2後	◎		○			◎	○
理科教職コース必修科目	*教職演習Ⅱ	3前	◎		○			◎	○
	物理学実験	2後	◎		○			◎	○
	地学実験	2後	○		○			◎	○
	有機化学実験	3前			○			◎	○
	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○		○			◎	○
	基礎化学Ⅰ	1前			○			◎	
	基礎化学Ⅱ	1後			◎			○	
	生物学Ⅱ演習	1後			△			△	
	生化学Ⅰ演習	2前			◎			△	
専門選択科目	生化学Ⅱ演習	2後			◎			△	
	物理化学	1後	◎		○			◎	◎
	資源循環論	2後	○					○	○
	環境汚染論	2後	○					△	△
	生物有機化学	3後			△			○	
	分子生物学	3前	△					◎	
	環境修復論	3前			◎			◎	◎
	細胞免疫学	3前	△					△	
	分子構造解析学	3後			◎			◎	○
	構造生物学とタンパク質工学	3前			○			◎	
専門選択科目	植物育種学	3後	◎		○			◎	○
	廃棄物管理工学	3後	△					◎	
	食品安全学	3後	○		○			◎	
	食中毒疫学	3後	○					◎	◎
	食品流通学	3後	○					◎	◎
	食品商品学	3前	△					○	
	公衆衛生学	3後	◎		◎			◎	○
	生物科学	3後	◎		○			○	◎
	食品の予防コントロール	4前	○		○			◎	

*理科教育法Ⅰ	2前	○	△	◎	○	△	○	△	○	△	○	△
*教育原論	3前		○					○	◎		◎	△
*生徒・進路指導の理論と方法	3後		○	○					◎	◎	◎	○
*道徳教育の指導法	3後	○		○					○		○	
農業ビジネス論Ⅰ	1後		△			△	△		△	◎	○	○
農業ビジネス論Ⅱ	2後		△			△	○		○	○	○	◎
食品管理論	2前			△	△		△		◎	◎	○	△
経営管理論	2前			○						◎	△	△
地域産業ビジネス論	2前	○								○	○	◎
レギュラトリーサイエンス	3前	△	◎				○		○	○		
食文化論Ⅰ	2前	○					△				◎	◎
食文化論Ⅱ	2前	◎					△					○
食品経済学	2後		△			△	△		△	◎	○	○
産業組織論	2前	○	◎	◎			◎				◎	◎
食品・植物資源論	2後	○							△	○	○	◎
食品開発論Ⅰ	2後	△							△	○	◎	◎
食品開発論Ⅱ	3後	△	○			○			◎	○		△
農業経済学	2後		△			△			△	○	○	○
商品デザイン論	3後	△	△	△		△			△	◎	◎	◎
コンサルティング論	3後	△	◎	◎			◎		◎	△	◎	○
知的財産論	3後	○	○			○			◎	○		
食品製造論	3前	○	◎			◎			△	○		
食品産業の危機管理	3後	○	◎	△		△	○		◎	◎		
教職概論	1前	○		○					◎	◎	○	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1後	△		◎			◎		◎	△	○	○
教育方法論	2前	◎	○	◎		○	○		◎	◎	○	○
理科教育法Ⅳ	3後	○	○	○		○	◎		◎	△	△	△
教育相談の理論と方法	2前		○	○		○	○			◎	△	△
特別支援教育概論	2後	△	○	○		○	◎		◎			
特別支援教育事後指導	4通	○	◎	○		◎			◎	○		
教育実習事前事後指導	4通	○	◎	○		◎	◎		◎	○		
教育実習Ⅰ	4通	◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎	○	◎
教育実習Ⅱ	4後	◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎
教職実践演習（中・高）	1通	○	◎	○		◎			◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅰ	2通	○	◎	◎		◎	◎		◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅱ	3通	○	△	◎		△	○		◎	△	△	◎
学習支援実地演習Ⅲ												

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学コースカリキュラムマップ (2021年度入学生)

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、各コースが設定した以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッションナリズム						
教 養 必 修 科 目	英語Ⅰ	1前	△	○				◎	○
	英語Ⅱ	1後	△	○				◎	○
	英語Ⅲ	2前	○	○				◎	○
	英語Ⅳ	2後	○	○				◎	○
	初年次セミナー	1前	◎	○				◎	△
	生命情報科学概論	1前	△	△				○	○
	生命情報科学演習Ⅰ	1前		◎				◎	△
	生命情報科学演習Ⅱ	1後		△				◎	△
	健康管理	1後		△				◎	
	データサイエンス入門	1後		○				○	
教 養 選 択 科 目	キャリア形成実践演習	1後～3後		○				◎	
	コミュニケーション英語Ⅰ	2前	○	○				◎	○
	コミュニケーション英語Ⅱ	2後	○	○				◎	○
	上級リーディング英語	2前	△	○			○	◎	△
	TOEIC英語Ⅰ	2後		◎				◎	
	TOEIC英語Ⅱ	3前		◎					
	中国語	1通	△	◎			○	◎	△
	韓国語	1通	△	○			△		
	海外語学研修	2通	○	○				◎	○
	基礎数学	1前		◎				○	
教 養 選 択 科 目	物理学	1通		◎			△		
	地学	1後	○	○			○	◎	○
	確率と統計	1前		◎				○	
	b基礎経済学Ⅰ	1前	○	◎				◎	◎
	b基礎経済学Ⅱ	1後	○	◎				◎	◎
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	○	○				◎	◎
	バイオとフードに関する法律	1後	◎	○				○	△
	生命倫理	1前	◎	○				◎	
	科学技術論	1前	○	◎			△	◎	○
	法学	1後						◎	
教 養 選 択 科 目	歴史学	1前		○				◎	△
	職業とキャリア形成Ⅰ	2通		○				◎	△
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2通	○	○			△	○	○
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2通	○	○			△	○	○
	職業とキャリア形成Ⅱ	3後						◎	△
	スポーツ	1前					△		
	生物学Ⅰ	1前	△	△				△	△

-121-

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針：									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッションナリズム						
			・豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつこと	・前例のない課題に対し、自らに自らを高め、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる。	(2) コミュニケーション力	(3) 生命環境化学関連領域	(4) 問題発見・解決力
生命科学必修科目	環境工学実験	2後	△	◎	○	◎	◎	◎	◎
	有機化学実験	3前			○	◎	◎	◎	○
	生体分子化学実験	3前				◎	◎	◎	○
	卒業研究	3後～4後	△	◎	○	△	○	◎	○
	*教育心理学	2後	△	○	○	◎	◎	△	△
	*教育課程論	3前	△	○	○	◎	◎	△	△
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○	○	◎	◎	○	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	△	○	◎	○	○	△
	*教育制度・行政	3前	○	△	○	◎	○	△	△
	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○	○	◎	○	◎	○
理科教職コース必修科目	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○	○	◎	○	△	○
	物理学実験	2後	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎
	地学実験	2後	○	○	○	◎	◎	◎	○
	有機化学実験	3前			○	◎	◎	◎	○
	卒業研究	3後～4後							
	基礎生物学	1前	○	○	△	◎	◎	○	
	基礎化学Ⅰ	1前		○	◎	◎	○		
	基礎化学Ⅱ	1後		◎	○	◎	△	○	
	生物学Ⅱ演習	1後		△		△	◎	△	
	生化学Ⅰ演習	2前		◎	△	◎	△	△	
専門選択科目	生化学Ⅱ演習	2後		◎	△	◎	△	△	
	物理化学	1後		◎		◎	◎	◎	◎
	資源循環論	2後	○	○	○	◎	◎	◎	○
	環境汚染論	2後	○		△	◎	◎	◎	○
	生物有機化学	3後		△			△	△	
	分子生物学	3前	△				◎	◎	
	環境修復論	3前	△	◎			◎	◎	◎
	細胞免疫学	3前		△			◎	◎	
	分子構造解析学	3後					◎	◎	
	構造生物学とタンパク質工学	3前				△	◎	◎	○
専門選択科目	植物育種学	3後	◎	○			◎	◎	△
	廃棄物管理工学	3後	△	○	△		◎	◎	
	食品安全学	3後		○			◎	◎	
	食中毒疫学	3後	○	△			◎	◎	
	食品流通学	3後	◎					△	○
	食品商品学	3前	○				△	◎	◎
	公衆衛生学	3後	◎				○	◎	○
	生物科学	3後	◎	○	△		○	◎	○
	食品の予防コントロール	4前		○	◎		◎	◎	

*理科教育法Ⅰ	2前	○	△	◎	○	○	△	○	○	△	○	△
*教育原論	3前		○						◎	○	◎	△
*生徒・進路指導の理論と方法	3後		○	○					◎	◎	◎	○
*道徳教育の指導法	3後	○		○				○		○	○	
農業ビジネス論Ⅰ	1後		△				△	△		◎	○	○
農業ビジネス論Ⅱ	2後		△				△	○		○	○	◎
食品管理論	2前	○								◎	△	△
経営管理論	2前			○						◎	△	△
地域産業ビジネス論	2前	○								△		◎
レギュラトリーサイエンス	3前	△	◎					○		○		
食文化論Ⅰ	2前	○				△						◎
食文化論Ⅱ	2前	◎				△						○
食品経済学	2後		△						△	◎	○	○
産業組織論	2前	○	◎	◎				◎		△	◎	◎
食品・植物資源論	2後	○							△	○	○	◎
食品開発論Ⅰ	2後									○	◎	◎
食品開発論Ⅱ	3後	△	○					△		○	◎	△
食品経済学	2後		△						△	○	○	○
商品デザイン論	3後		△	△					△	◎	◎	◎
コンサルティング論	3後	△	◎	◎				◎		△	◎	○
知的財産論	3後	○	○						◎	○	○	
食品製造論	3前	○	◎						△	△		
食品産業の危機管理	3後	○	◎						○	○	◎	
教職概論	1前	○		○					◎	◎	○	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1後	△		◎				◎			△	○
教育方法論	2前	◎	○	◎				○		◎	◎	○
理科教育法Ⅳ	3後	○	○	○				◎		△	△	△
教育相談の理論と方法	2前		○	○				○		◎		
特別支援教育概論	2後	△	○	○				◎				
特別支援教育事後指導	4通	◎	○	◎				○		◎	◎	○
教育実習Ⅰ	4通	◎	◎	◎				◎		◎	◎	○
教育実習Ⅱ	4通	◎	◎	◎				◎		◎	◎	◎
教職実践演習（中・高）	4後	◎	◎	◎				◎		○	○	
学習支援実地演習Ⅰ	1通	○	◎	○					◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅱ	2通	○	◎	○					◎	○	○	
学習支援実地演習Ⅲ	3通	○	△	◎				○		△	△	◎

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科理科教職コースカリキュラムマップ (2021年度入学生)

教育目標： 応用生命科学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学、生命化学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する本学の課程を修め、卒業要件として「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。 ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	(1) プロフェッションナリズム							
		英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語Ⅲ	英語Ⅳ	初年次セミナー	生命情報科学概論	生命情報科学演習Ⅰ	生命情報科学演習Ⅱ
教 養 必 修 科 目	配当学年・学期	1前	1後	2前	2後	1前	1前	1前	1後
	英語Ⅰ	△				◎	△	◎	△
	英語Ⅱ	△							
	英語Ⅲ	○							
	英語Ⅳ	○							
	初年次セミナー								
	生命情報科学概論								
	生命情報科学演習Ⅰ								
	生命情報科学演習Ⅱ								
	健康管理								
教 養 選 択 科 目	配当学年・学期	1前	1後	1後～3後	2前	2後	2前	2後	2後
	英語Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語Ⅲ	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○
	初年次セミナー	○	○	○	○	○	○	○	○
	生命情報科学概論	○	○	○	○	○	○	○	○
	生命情報科学演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○
	生命情報科学演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○
	健康管理	○	○	○	○	○	○	○	○

教育目標： 応用生命科学科は、食品・農業・環境及び健康等の生命に関わる産業において、科学及び技術を中心とした専門知識を理解し応用できる能力を備えた人材並びに中等教育において理科教育に造詣が深い教員を育成する。									
学位授与方針： 食品・農業・環境及び健康等の産業において、食品及び健康に関わる科学、生命科学に関わる工学・生命科学・環境化学を応用して地域社会に貢献できる人材、並びに、中等教育において生命科学を中心とした理科の教育に造詣が深い教員を育成する。卒業要件として、卒業要件として、科教員としての倫理観を身につけることができる。									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルナリズム						
			豊かな人間性と地域社会に貢献する使命感をもつことのできる。	常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を示すことができる。	後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成する意欲を示すことができる。	コミュニケーション力 ・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することのできる良好な人間関係を構築できる。	(3) 生命科学を中心とした専門知識 ・生命科学に関する知識・技能 ・普遍的な教養を身に付けるとともに、生命科学における専門的知識・技能を修得する。	(4) 問題発見・解決力 ・理科教育を取り巻く諸問題を客観的に分析し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。	(5) 地域貢献力 ・理科教育における諸問題を客観的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づき解決策の提案を通して地域の学校の発展に貢献できる。
理 科 教 職 コ ー ス 必 修 科 目	生命科学実験	2後	◎			◎	△	○	○
	有機化学実験	3前		○		◎	◎	○	
	生体分子化学実験	3前					◎	○	
	卒業研究	3後～4後							
	*教育心理学	2後	△	○		◎	◎	△	△
	*教育課程論	3前	◎	◎		◎	○	○	○
	*理科教育法Ⅱ	2後	◎	○		◎	◎	○	◎
	*理科教育法Ⅲ	3前	○	△		○	○	○	○
	*教育制度・行政	3前	○	△		○	○	△	△
	*教職演習Ⅰ	2後	◎	○		○	△	◎	○
	*教職演習Ⅱ	3前	◎	○		○	△	◎	○
	物理学実験	2後	◎	◎		△	△	◎	◎
	地学実験	2後	○	○		○	○	◎	○
	有機化学実験	3前		○		○	◎	○	○
専 門 選 択 科 目	卒業研究	3後～4後	△	◎		◎	◎	◎	○
	基礎生物学	1前	○	○		○	△	○	
	基礎化学Ⅰ	1前		○		◎	△		
	基礎化学Ⅱ	1後		◎		○	△	○	
	生物学Ⅰ演習	1後		△		△	◎	△	
	生化学Ⅰ演習	2前		◎		◎	◎		
	生化学Ⅱ演習	2後		◎		◎	◎		
	物理化学	1後		◎		○	◎	◎	◎
	資源循環論	2後	○			○	○	△	○
	環境汚染論	2後	○			○	○	○	△
	生物有機化学	3後		△		△	◎	○	△
	分子生物学	3前	△				◎	△	
	環境修復論	3前		◎		◎	◎	○	◎
	細胞免疫学	3前		△			△	◎	
専 門 選 択 科 目	分子構造解析学	3後					◎	○	
	構造生物学とタンパク質工学	3前				△	◎	△	
	植物育種学	3後	◎	○			◎	◎	○
	廃棄物管理工学	3後	△	○		△	△	◎	△
	食品安全学	3後		○		◎	○	◎	
	食中毒疫学	3後	○	△			◎	◎	
	食品流通学	3後	○			○	○		○
	食品商品学	3前	○			○	○		○
	公衆衛生学	3後	◎	◎		○	◎	○	○
	生物科学	3後	◎	◎		○	◎	○	○
	食品の予防コントロール	4前	○	○		◎	○	◎	

*理科教育法Ⅰ	2前	○	△	◎	○	○	○	○	○	○	○	○
*教育原論	3前		○							◎		○
*生徒・進路指導の理論と方法	3後		○	○						◎	◎	○
*道徳教育の指導法	3後	○		○			○			◎	○	
農業ビジネス論Ⅰ	1後		△				△			◎	○	○
農業ビジネス論Ⅱ	2後		△		△			○		◎	○	◎
食品管理論	2前				○					◎	△	△
経営管理論	2前			○						◎	△	△
地域産業ビジネス論	2前	○			△							◎
レギュラトリーサイエンス	3前	△	◎					○			○	
食文化論Ⅰ	2前	○								○		○
食文化論Ⅱ	2前	○								○		○
食品経済学	2後		△					△		◎	○	○
産業組織論	2前	△	◎	◎			◎			△	△	○
食品・植物資源論	2後	○						△		○	◎	○
食品開発論Ⅰ	2後	△									○	○
食品開発論Ⅱ	3後	△	○					◎		○	○	△
食品経済学	2後		△							◎	○	○
商品デザイン論	3後		△	△				△		○	◎	◎
コンサルティング論	3後	△	◎	◎			◎					
知的財産論	3後	○	○					◎		○	○	
食品製造論	3前	○	◎	○				△		△		
食品産業の危機管理	3後	○	◎	△				○		○	◎	
教職概論	1前	○		○				◎		◎	○	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	1後	△		◎				◎		△	○	○
教育方法論	2前			○				◎		◎	○	○
理科教育法Ⅳ	3後	○	○	○				◎		◎	△	○
教育相談の理論と方法	2前	○	○	○				○		◎		
特別支援教育概論	2後	◎	◎	△				◎				○
教育実習事前事後指導	4通	◎	○	◎			○			◎	◎	○
教育実習Ⅰ	4通	◎	◎	◎				◎		◎	◎	○
教育実習Ⅱ	4通	◎	◎	◎				◎		◎	◎	◎
教職実践演習（中・高）	4後	◎	◎	◎				◎		○	○	
学習支援実地演習Ⅰ	1通	○	◎	○				◎		◎	○	
学習支援実地演習Ⅱ	2通	○	◎	○				◎		◎	○	
学習支援実地演習Ⅲ	3通	○	△	◎				◎		△	◎	◎

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部応用生命科学科カリキュラムマップ（2020年度入学生まで）

教育目標：																		
応用生命科学科は、バイオ工学・環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者等の専門人材を育成する。																		
学位授与方針：																		
応用生命科学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。																		
(1) 生命を尊重する心、他人を思いやる心など、豊かな人間性と倫理観を備え、人と人との共通の業績をめざすコミュニケーション能力を有する。																		
(2) バイオ工学・環境科学・食品科学を包括する生命科学分野、理科教育分野の抱える課題を探索し解決するために、高度な知識・技能を備え、それらを活用できる能力を有する。																		
(3) 数量的スキル及び情報リテラシー能力に基づき、客観的かつ論理的に思考し、理解を得た上で、断し、活用できる能力を有する。																		
(4) 修得した科学的知識や理論に基づき、客観的かつ論理的に思考し、理解を得た上で、断し、活用できる能力を有する。																		
(5) 地域的視点と国際的視野を持ち、学修経験を総合的に活用することで、課題を解決する能力を有する。																		
区分	授業科目	2019 2020	2017 2018	2016 以前	倫理観 (態度・志向性)	チームワーク (態度・志向性)	コミュニケーション能力 (汎用的技能)	専門分野の知識・技能 (知識・理解)	数量的スキル (汎用的技能)	情報リテラシー (汎用的技能)	論理的思考力 (汎用的技能)	プレゼンテーション能力 (汎用的技能)	市民としての社会的責任 (態度・志向性)	文化、社会、自然に関する知識の理解 (知識・理解)	課題探究能力	問題解決能力 (汎用的技能)	総合的な学習 経験と創造的 思考力	
教 養 選 択 科 目	英語Ⅰ	1前	1前	1前	△	○	◎	○					○	◎			○	
	英語Ⅱ	1後	1後	1後	△	○	◎	○					○	◎			○	
	英語Ⅲ	2前	2前	2前	△	○	◎	○					○	◎			○	
	英語Ⅳ	2後	2後	2後	△	○	◎	○					○	◎			○	
	初年次セミナー	1前	—	—	○	◎	◎					◎	◎	○			◎	
	1年次セミナー	—	1前	1前	○	◎	◎					◎	○	○			◎	
	スタートアップセミナー	—	1前	1前	○	◎	○					○	◎	○			◎	
	生命情報科学概論	1前	1前	1前	△					◎								
	生命情報科学演習Ⅰ	1前	1前	1前			○	◎	○	◎			○	○	△		△	
	生命情報科学演習Ⅱ	1後	1後	1後		△	△											
	健康管理	1後	1後	1後														
	キャリア形成実践演習	1後～3後	1後～3後	—	◎	◎	◎		△				◎	○	△		△	
	コミュニケーション英語Ⅰ	2前	2前	1前		◎	◎	◎			◎			○				
	コミュニケーション英語Ⅱ	2後	2後	1後		◎	◎	◎			◎			○				
	上級リーディング英語	2前	2前	2前			◎	◎			◎							
TOEIC英語Ⅰ	2後	2後	2後		◎	◎	◎			◎					○			
TOEIC英語Ⅱ	3前	3前	3前		◎	◎	◎			◎					○			
ドイツ語Ⅰ	—	—	2前	△	○	◎	◎	○	○	△		○	○	◎			◎	
ドイツ語Ⅱ	—	—	2後	△	○	◎	◎	○	○	△		○	○	◎			◎	
中国語	1通	1通	—	△	△	◎	◎				○	△	○	○			◎	
中国語Ⅰ	—	—	2前	△	△	◎	◎				○	△	○	○			◎	
中国語Ⅱ	—	—	2後	△	△	◎	◎				○	△	○	○			◎	
韓国語	1通	1通	—	△	○	◎	◎			△		○		◎			○	
韓国語Ⅰ	—	—	2前	△	○	◎	◎			△		○	◎	◎			○	
韓国語Ⅱ	—	—	2後	△	○	◎	◎			△		○	◎	◎			○	
海外語学研修	2通	2通	2通	◎	◎	◎	◎				△	◎	◎	◎	○		◎	
基礎数学	1前	1前	1前					◎	◎		◎			○	◎			
物理学	1通	1通	1通		○			◎	◎		◎			△				
地学	1後	1後	1後					◎	◎		◎		○	◎				
確率と統計	1前	1前	1前					△	◎		◎	△						
基礎経済学	1前	1前	1前	△	△		△	◎	△	△	◎	△	△	○	△	△	○	
バイオとフードに関する経済	—	1後	1後	○	△		△	◎	△	△	◎	△	◎	◎	△	◎	◎	
バイオとフードを巡る国際関係論	1後	1後	1後	◎	○		○	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	○	○	
バイオとフードに関する法律	1後	1後	1後	◎	◎		◎	○			△		○	△			◎	
生命倫理	1前	1前	1前	◎							◎		◎	◎			◎	
科学技術論	1前	1前	1後	◎	○	△	△	◎	○	△	◎	△	○	◎	◎	◎	◎	
法学	1後	1後	1後								○		◎	○	△		△	
歴史学	1前	1前	1前	△				△					○	◎			○	

教育目標：																		
応用生命科学科は、バイオ工学、環境科学及び食品科学に関わる生命現象の本質を分子レベルで解明し、その応用及び効果的な理科教育を図るための教育研究を通して、対象分野において必要となる知識及び能力を修得した研究者、技術者、次世代を育成する指導者の専門人材を育成する。																		
学位授与方針：																		
応用生命科学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身に																		
つけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。																		
区分	授業科目	入学年度毎の配当学期				倫理観 (態度・志向性)	チームワーク (態度・志向性)	コミュニケーション能力 (汎用的技能)	専門分野の知識・技能 (知識・理解)	数量的スキル (汎用的技能)	情報リテラシー (汎用的技能)	論理的思考力 (汎用的技能)	プレゼンテーション能力 (汎用的技能)	市民としての社会的責任 (態度・志向性)	文化、社会、自然に関する知識の理解 (知識・理解)	課題探求能力	問題解決能力 (汎用的技能)	総合的な学習経験と創造的思考力
		2019 2020	2017 2018	2016 以前	2016 以後													
環境科学科 必修科目	環境科学Ⅱ	2後	2後	2後	2後				◎	△		○		△	○			
	資源循環論	2後	2後	2後	2後				◎	○		○		○			○	
	バイオインフォマティクス	3前	3前	3前	3前				◎		○	○						
	有機合成化学	3前	3前	3前	3前				◎			○						
	微生物バイオテクノロジー	3前	3前	3前	3前				◎		△	○		△	△	△		
	環境汚染論	2後	2後	2後	2後				◎			○		○	○			
	環境修復論	3前	3前	3前	3前				◎			○		△	○			
	化学工業とグリーンケミストリー	3前	3前	3前	3前				◎		△	○	◎	△	◎			◎
	植物バイオテクノロジー実験	2後	2後	2後	2後	○	◎	◎	◎	△	△	△	○	○	◎	△	○	◎
	微生物・遺伝子工学実験	2後	2後	2後	2後		△	○	◎	△	○	○	○	○	◎	△	△	○
食品科学科 必修科目	環境工学実験	3前	3前	3前	3前	◎	◎	○	◎	○	○	○		○				
	有機化学実験	3前	3前	3前	3後～4後		△	△	◎	○	○	◎	◎	△	△	△	△	△
	卒業研究	3後～4後	3後～4後	3後～4後	3後～4後				◎	○	○	◎	◎	△	△	◎	◎	◎
	食品微生物学	3前	3前	3前	3前				◎	○	○	○	○	○	◎	△	△	○
	食品製造学	3前	3前	3前	3前				◎	○	○	△	△	○	◎	△	△	○
	機能食品科学	3前	3前	3前	3前				◎	○	△	△	○	○	◎	△	△	△
	食品分析学	2後	2後	2後	2後		△	△	◎	◎	○	△	○	○	◎	△	△	△
	栄養科学	2後	2後	2後	2後				◎	△	△	△	△	○	◎	△	△	△
	発酵醸造学	3前	3前	3前	3前				◎	○	○	○	△					
	醸造化学	2後	2後	2後	2後			○	◎	○	○	○	△		△	△	△	△
理学部 必修科目	食品酵素化学	—	—	—	2後				◎	△	△	○	△					△
	栄養生理学	3前	3前	3前	3前				◎	△	△	○	△		△	△	△	△
	食品分析実験	2後	2後	2後	2後			○	◎	◎	○	○	△					
	食品機能実験	2後	2後	2後	2後				◎	△	△	○	△		△	△	△	△
	食品製造・加工実験	3前	3前	3前	3前	○	○	○	◎	○	○	○		○	○	○	○	△
	食品安全実験	3前	3前	3前	3前		◎	○	◎	○	○	○						
	卒業研究	3後～4後	3後～4後	3後～4後	3後～4後				◎	○	○	◎	◎	△	△	◎	◎	◎
	*教育心理学	2後	2後	2後	2後	◎	△	◎	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○
	*教育課程論	3前	3前	3前	3前	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	*理科教育法Ⅱ	2後	2後	2後	2後				◎		○	△	○					
理学部 必修科目	*理科教育法Ⅲ	3前	3前	3前	3前	◎	○	○	◎	○	○	△	○	◎	○	◎	◎	◎
	*教育原論	3前	3前	3前	3前	○	○	○	◎	△	△	○	△	△	△			
	*教育制度・行政	3前	3前	3前	3前				◎			○	△					
	*教職演習Ⅰ	2後	2後	2後	2後		○	◎	○			△	◎					
	*教職演習Ⅱ	3前	3前	3前	3前		○	◎	○			△	◎					
	物理学実験	2後	2後	2後	2後		△	△	◎	○	○	◎	△	○	◎	○	○	○
	地学実験	2後	2後	2後	2後		△	△	○	◎	○	◎	△					
	有機化学実験	3前	3前	3前	3前		○	○	◎	◎	○	◎	△			△	△	△
	生化学・細胞工学実験	3前	3前	3前	3前		△	△	◎	○	△	△	△	△	△	◎	◎	◎
	卒業研究	3後～4後	3後～4後	3後～4後	3後～4後	△	○	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	△	△
基礎生物学Ⅰ	1前	—	—	—				◎	△	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
	基礎生物学Ⅱ	1後	—	—	—				◎	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
	基礎化学Ⅰ	1前	—	—	—				◎	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
基礎化学Ⅱ	1後	—	—	—				◎	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△
	基礎化学Ⅱ	1前	—	—	—				◎	△	△	△	△	◎	△	△	△	△
	生物有機化学	3後	3後	3後	3後				◎	△	△	△	△	◎	△	△	△	△

血田菜田

生命産業創造学科 カリキュラムマップ (2022年度以降入学生用)

教育目標： 生命産業創造学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、経済学及び経営学を理解し応用できる能力を備えた人材を育成する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。 ◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項、 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項、 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッショナルリズム	(2) コミュニケーション力	(3) 経済学・経営学関連	(4) 問題発見・解決力	(5) 地域貢献力		
教養必修科目	英語Ⅰ	1前	○	◎	○				
	英語Ⅱ	1後	○	◎	○				
	フレッシュヤーズ・セミナー	1前	◎	◎	△	△	△		
	早期体験学習	1前	◎	◎	△	△	△		
	健康管理	1後		◎					
	英語Ⅲ	2前	△	◎		△			
	英語Ⅳ	2後	△	◎		△			
	キャリア形成実践演習	1後～3後	○	◎			△		
	情報リテラシー基礎	1前	◎	◎		◎	○		
	情報リテラシー応用	1後	○	◎	△	◎	◎		
教養選択科目	コミュニケーション英語Ⅰ	1前	○	◎	○				
	コミュニケーション英語Ⅱ	1後	○	◎	○				
	上級リーディング英語	2前	△	◎	△	△	△		
	TOEIC英語Ⅰ	2後		◎	○				
	TOEIC英語Ⅱ	3前		◎	○				
	ドイツ語	1通	△	◎	△	○	△		
	中国語	1通	△	◎	○	◎	△		
	ロシア語	1通	△	◎					
	ロシア語	2通	○	◎	○				
	海外語学研修	3前	○	◎					
教養選択科目	ビジネス英語	1後	○	◎	○		○		
	地学	1前	○	◎	○	○	○		
	確率と統計	1前		◎	○		○		
	気象学	1後		△	○	◎	◎		
	昆虫と人のかわり	1後		△	○	◎	△		
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	○	○	◎	◎	◎		
	バイオとフードに関する法律	1後	◎		○	○	△		
	生命倫理	1前	◎	○		◎			
	科学技術論	1前	○	○	△	○	○		
	法学	1後			◎				
科目	歴史学	1前	○	◎	△		△		
	マス・メディア論	1前			○	◎			
	哲学	1後	◎			◎	○		
	文化人類学	1後	◎			◎	○		
	職業とキャリア形成Ⅰ	2通		◎		△	△		
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2通	○	○	○	○	○		
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2通	○	○	○	○	○		
	職業とキャリア形成Ⅱ	3後		◎		△	△		
	スポーツ	1前		△					
	アロマセラピー	1通	○	○	○	○	○		
	生物学入門	1前			○	○			
	化学入門	1前			○	○			
	食品・環境科学入門実験	1通			○				
	地域活性化フィールドワークⅠ	1後	◎	○	△	◎	◎		
	学習論	1前				○			

新潟薬科大学応用生命科学部生命産業創造学科カリキュラムマップ（2021年度入学生用）

教育目標： 生命産業創造学科は、食品、農業、環境及び健康等の生命に関わる産業において、経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
学位授与方針： 食品、農業、環境及び健康等の産業において、経済学及び経営学を応用して地域社会に貢献できる人材を育成する本学の課程を修め、卒業要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備えた者に「学士（応用生命科学）」の学位を授与する。									
◎：ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項、 ○：ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項、 △：ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項									
区分	授業科目	配当学年・学期	(1) プロフェッションナリズム	(2) コミュニケーション力	(3) 経済学・経営学関連	(4) 問題発見・解決力	(5) 地域貢献力		
教養必修科目	英語Ⅰ	1前	○	◎	○				
	英語Ⅱ	1後	○	◎	○				
	初年次セミナー	1前	◎		△	△	△		
	健康管理	1後		◎					
	データサイエンス入門	1後		○	○	○			
	英語Ⅲ	2前	△	◎		△			
	英語Ⅳ	2後	△	◎		△			
	キャリア形成実践演習	1後～3後	○	◎			△		
	コミュニケーション英語Ⅰ	1前	○	◎	○				
	コミュニケーション英語Ⅱ	1後	○	◎	○				
	上級リーディング英語	2前	△	◎	△	△	△		
	TOEIC英語Ⅰ	2後		◎					
	TOEIC英語Ⅱ	3前		◎					
	中国語	2通	△	◎	○	◎	△		
	韓国語	2通	△	○	◎				
教養選択科目	海外語学研修	2通	○	◎	○				
	ビジネス英語	3前	○	◎	○		○		
	基礎数学	1前	◎		○	◎	○		
	地学	1後	○	◎	○	◎	○		
	確率と統計	1前		◎	○	○	○		
	生命情報科学概論	1前	△		○				
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	○	○	◎	◎	◎		
	バイオとフードに関する法律	1後	◎		○	○	△		
	生命倫理	1前	◎	○		◎			
	科学技術論	1前	○	○	△	◎	○		
	法学	1後			◎	○			
	歴史学	1前		○	△		△		
	職業とキャリア形成Ⅰ	2通		◎		△	△		
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2通	○	○	○	○	○		
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2通	○	○	○	○	○		
選択科目	職業とキャリア形成Ⅱ	3後		◎		△	△		
	スポーツ	1前		△					
	生物学入門	1前	◎		○	○			
	化学入門	1前	◎		○	○			
	食品・環境科学入門実験	1通	◎	○	○	△			
	地域活性化フィールドワークⅠ	1後	◎	○	△	◎	◎		
	学習論	1前	◎			○			
	ITリテラシー基礎	1前	○	△	◎	○	△		
	ITリテラシー応用	1後	◎	○	◎	○	△		
	ITアドバンスト	2前	○		○	◎	○		
	食品管理論	2前	△		◎	○			
	ブランド構築論	2前		△	○	◎	◎		

専 門 必 修 科 目										専 門 選 択 科 目										自由科目 教育心理学									
経営管理論	1前									経営経済学	2後									食品の予防コントロール	4前								△
基礎経済学Ⅰ	1前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	商品デザイン論	3後									食品衛生学	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
基礎経済学Ⅱ	1後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	研究入門	3前									食品流通学	3後								◎
環境科学概論	2前									コンサルティング論	3後	△	△	△	△	△	△	△	△	公衆衛生学	3後								◎
社会調査論	3前	◎	◎	△	△	△	△	△	△	知的財産論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全学	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△
地域産業ビジネス論	2前	△	△							リサイクル論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品流通学	3後								◎
論理的思考論	1後									食品製造論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品流通学	3後								◎
レギュラトリーサイエンス	3前	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	環境技術論	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品流通学	3後								◎
マーケティング論	2前									食品開発論Ⅱ	3後	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
マーケティング論	2後									食品産業の危機管理	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品流通学	3後								◎
農業ビジネス論Ⅰ	1後									食品化学	2前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
会計学	1後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品分析学	2後									食品流通学	3後								◎
地域活性化フィールドワークⅡ	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	栄養科学	2後									食品流通学	3後								◎
食品商品学	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	酵素化学	2後									食品流通学	3後								◎
卒業研究Ⅰ	4前	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	化学工業とグリーンケミストリー	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品流通学	3後								◎
卒業研究Ⅱ	4後	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品微生物学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食文化論Ⅰ	2前	◎	◎							機能食品科学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食文化論Ⅱ	2前	◎	◎							発酵醸造学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品経済学	2後									栄養生理学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
産業組織論	2前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	産業安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品・植物資源論	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品開発論Ⅰ	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
サービス産業論	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
農業ビジネス論Ⅱ	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
地域コミュニケーション演習	2通	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
ビジネスプロデュース論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
環境汚染論	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
農業経済学	2後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
商品デザイン論	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
研究入門	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
コンサルティング論	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
知的財産論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
リサイクル論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品製造論	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
環境技術論	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品開発論Ⅱ	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品産業の危機管理	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品化学	2前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品分析学	2後	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
栄養科学	2後	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
酵素化学	2後	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
化学工業とグリーンケミストリー	3前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品微生物学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
機能食品科学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
発酵醸造学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
栄養生理学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
産業安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品安全学	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品流通学	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
公衆衛生学	3後	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
食品の予防コントロール	4前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎
教育心理学	2後	△	△	△	△	△	△	△	△	食品安全管理工学	3前	△	△	△	△	△	△	△	△	食品流通学	3後								◎

新潟薬科大学応用生命科学部生命産業創造学科カリキュラムマップ (2019年度及び2020年度入学生用)

教育目標： 生命産業創造学科は、食品・農産物等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画・開発・経営に優れた専門人材を育成する。									
学位授与方針： 生命産業創造学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。									
区分	授業科目	配当学期	コミュニケーション能力			専門分野の知識・技能			総合的な学習能力
			倫理観 (態度・志向性)	チームワーク (態度・志向性)	コミュニケーション能力 (汎用的技能)	専門分野の知識・技能 (知識・理解)	リーダーシップ (態度・志向性)	課題探究能力 (汎用的技能)	
教養必修科目	英語 I	1前	△	○	◎	△	○	○	◎
	英語 II	1後	○	○	◎	△	○	△	○
	初年次セミナー	1前	○	◎	◎				◎
	健康管理	1後				△			
	英語 III	2前	○	◎	◎	○	◎	○	◎
	英語 IV	2後	○	◎	◎	△	△	○	◎
	キャリア形成実践演習	1後～3後	◎	◎	◎				
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	◎	○	○	○	○	○	◎
	バイオとフードに関する法律	1後	◎			○			
	生命倫理	1前	◎						◎
教養選択科目	科学技術論	1前	◎	○	△	◎	○	◎	◎
	法学	1後				△		△	○
	歴史学	1前	△			△			△
	基礎数学	1前				○		○	○
	地学	1後	○	○	○	◎	○	◎	◎
	確率と統計	1前				△		△	○
	スポーツ	1前	△	△	△				○
	生命情報科学概論	1前	△				◎		
	コミュニケーション英語 I	1前		◎	◎	◎		◎	○
	コミュニケーション英語 II	1後		◎	◎			◎	
選択科目	上級リーディング英語	2前				○			○
	TOEIC英語入門	2後			◎			○	
	TOEIC英語基礎	3前			◎				
	中国語 I	2前	△	△	◎			○	◎
	中国語 II	2後	△	△	◎			○	◎
	韓国語 I	2前	△	○	◎		△	○	◎
	韓国語 II	2後	△	○	◎		△	○	◎
	海外語学研修	2通	◎	◎	◎			△	◎
	職業とキャリア形成 I	3前	◎	◎	◎			◎	◎
	職業とキャリア形成 II	3後	◎	◎	◎			◎	◎
科目	大学商品開発社会実践演習 I	2通	○	○	○	○	○	○	○
	大学商品開発社会実践演習 II	2通	○	○	○	○	○	○	○
	職業とキャリア形成 I	3前	○	◎	◎	△	○	△	◎
	英語 V	3前	○	○	◎	△	○	△	◎
	英語 VI	3後	○	○	◎	△	○	△	◎
	生物学入門	1前				◎		△	○
	化学入門	1後				△		△	○
	食品・環境科学入門実験	1通				◎		○	△
	地域活性化フィールドワーク I	1後	△	◎	○	○		○	○
	学習論	1前		△	△			◎	△
	ITリテラシー基礎	1前	○		△		◎		
	ITリテラシー応用	1後	○		○	△			○
	食品管理論	2前	◎				◎		
	食文化論 I	2前				◎			○

専 門 必 修 科 目	食文化論Ⅱ	2前	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ブランド構築論	2前		○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	経営管理論	1前			△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	基礎経済学	1前	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	食品・植物資源論	2後																								
	食品開発論Ⅰ	2後																								
	環境科学概論	2前																								
	社会調査論	2前	△																							
	地域産業ビジネス論	2前																								
	論理的思考論	1後																								
	レギュラトリーサイエンス	3前																								
	マーケティング論	1後																								
	経営組織論	1後	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	農業ビジネス論Ⅰ	1後	△																							
	地域活性化フィールドワークⅡ	3前	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	食品商品学	3前																								
	卒業研究Ⅰ	4前		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	卒業研究Ⅱ	4後		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	産業会計学	1後	△	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	ITアドバンスト	2前																								
	食品経済学Ⅰ	2前	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	サービス産業論	2後																								
	農業ビジネス論Ⅱ	2後																								
	地域コミュニケーション演習	2通		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	起業論	3前	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	低炭素論	3前	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	環境汚染論	3後																								
	食品経済学Ⅱ	2後	△																							
	農業経済学	2後	△																							
	商品デザイン論	3後		△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	研究入門	3前																								
	コンサルティング論	3前																								
	知的財産論	3後																								
	リサイクル論	3前																								
	食品製造論	3前	○	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	環境技術論	3後																								
	スマートシティ論	3後	◎	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	食品開発論Ⅱ	3後	△	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	食品産業の危機管理	3後																								
	食品化学	2前																								
	食品分析学	2後																								
	栄養科学	2後																								
	酵素化学	2後																								
	化学工業とグリーンケミストリー	3前																								
	食品微生物学	3前	△																							
	機能食品科学	3前		△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	発酵醸造学	3前																								
	栄養生理学	3前																								
	廃棄物管理工学	3後																								
	食品安全学	3後																								
	公衆衛生学	3後	◎																							
	食品の予防コントロール	4前																								
	食品流通学	3後																								
	教育心理学	2後	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

自由科目

新潟薬科大学応用生命科学部生命産業創造学科カリキュラムマップ（2018年度以前入学生用）

教育目標：														
生命産業創造学科は、食品、農環境等の生命産業に関する技術や素材の基礎知識を修得しながら、主として農学分野における経済学及び経営学を駆使することで、企画、開発、経営に優れた専門人材を育成する。														
学位授与方針：														
生命産業創造学科は、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。														
(1) 生命を尊重する心、他人を思いやる心、(2) 生命・食料・農業・環境に関わる産業領域の課題に取り組む、基礎となる幅広い知識と教養を備え、柔軟な思考力を有する。														
(3) 農林水産業および食品・環境、(4) 情報通信技術、(5) 修得した科学的知識やICTを用いて情報洞察力に基づき、客観的に分析し、適切な論理的に思考し、プレゼンテーションで活用できる能力を有する。														
(6) 地域社会と国際社会の変化に注視し、広い視野を持つ積極的に活躍しようとする意欲を持続できる能力を有する。														
区分	授業科目	配当学期	倫理観 (態度・志向性)	チームワーク (態度・志向性)	コミュニケーション能力 (汎用的技能)	専門分野の知識・技能 (知識・理解)	リーダーシップ (態度・志向性)	課題探究能力	情報リテラシー (汎用的技能)	論理的思考力 (汎用的技能)	プレゼンテーション能力 (汎用的技能)	市民としての社会的責任 (態度・志向性)	文化・社会 自然に関する知識の理解 (知識・理解)	総合的な学習 経験と創造的 思考力
教養必修科目	英語Ⅰ	1前	△	○	◎	○	○	△			○	○	◎	○
	英語Ⅱ	1後	○	○	◎	△	○	△			○	○	◎	○
	1年次セミナー	1前	○	◎	◎					○	◎	○	○	◎
	スタートアップセミナー	1前	○	◎	○					○	○	◎	◎	◎
	健康管理	1後												
	英語Ⅲ	2前	○	◎	◎	○	◎	○	△	◎	◎	○	◎	◎
	英語Ⅳ	2後	○	◎	◎	△	△	○	△	◎	◎	○	◎	◎
教養必修科目	英語Ⅴ	3前	○	○	◎	△	△	△	◎	◎	◎	○	◎	◎
	英語Ⅵ	3後	○	○	◎	△	△	○	△	◎	◎	○	◎	◎
	バイオとフードを巡る国際関係論	1後	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎
	バイオとフードに関する法律	1後	◎			○			○	△	◎	○	△	◎
	生命倫理	1前	◎			○				◎	◎	○	△	◎
	科学技術論	1前	◎	○	△	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎
	法学	1後	△			△	△	△	○	◎	◎	◎	◎	△
教養選択科目	歴史学	1前				△	△	△			◎	◎	◎	○
	化学	1前				△	△	△		△	◎	◎	◎	○
	生物学	1前				◎				△	△			○
	基礎数学	1前					◎	◎		○	◎	◎	◎	◎
	地学	1後	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	確率と統計	1前				△			◎	◎	△	◎	◎	◎
	スポーツ	1前	△	△	△				◎					
選択科目	生命情報科学概論	1前	△											
	コミュニケーション英語Ⅰ	2前		◎	◎	◎	◎			◎	◎		○	
	コミュニケーション英語Ⅱ	2後		◎	◎	◎	◎			◎	◎		○	
	上級リーディング英語	2前	○							◎	◎	◎	○	
	TOEIC英語入門	1後												
	TOEIC英語基礎	2前												
	中国語Ⅰ	2前	△	△	◎					○	△	○	◎	◎
	中国語Ⅱ	2後	△	△	◎					○	△	○	◎	◎
	韓国語Ⅰ	2前	△	○	◎				△	○	○	◎	◎	○
	韓国語Ⅱ	2後	△	○	◎				△	○	○	◎	◎	○
	海外語学研修	2通	◎	◎	◎					△	◎	◎	◎	◎
	職業とキャリア形成Ⅰ	3前	◎	◎	◎			△						
	キャリア形成実践演習Ⅰ後～3後	1後～3後	◎	◎	◎									
	大学商品開発社会実践演習Ⅰ	2通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	大学商品開発社会実践演習Ⅱ	2通	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	職業とキャリア形成Ⅱ	3後	○	◎	◎				△	○	◎	◎	○	○
	基礎科学実験Ⅰ	1前		△		◎	△	△		○	○	○	○	△
基礎科学実験Ⅱ	1後		△	△		△	△		○	△	◎	○	△	
地域活性化フィールドワークⅠ	1後	△	◎	○		○	○	○	○	◎	◎	○	○	
地域活性化システム論	1前	△	○	△		◎	◎	△	◎	◎	△	○	◎	
学習論	1前		△	△						◎	◎		△	
ITリテラシー基礎	1前	○	△	△				◎						
ITリテラシー応用	1後	○	○	◎			△	◎		○	◎	◎	○	
コンビニエンスストア論	1後	◎	○	◎		△	△	○		○	◎	◎	◎	
食品管理論	2前				◎									
歴史・風土から見た食環境	2前				◎							○		
中食・外食論	2前			○		○					○			
自然共生論	1後				◎	○	◎	◎			○	○	○	
生命産業に関わる情報システム学	1後		◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎			○

-139-